

## はじめに

ここに紹介する資料は、原爆作家として著名な原民喜氏の御遺族から当館に寄贈されたものをまとめたものである。

原氏は明治38年(1905年)、広島市熈町(現広島市中区)に生まれ、昭和20年(1945年)8月6日、熈町の兄の家で被爆した。そのときの体験をもとに昭和22年に出版されたのが著名な小説「夏の花」である。

まだ日本が占領下にあり、原爆に関する出版物の発行が検閲等により厳しく制限されていた状況で出版されたものとして、原爆文学史上高く評価されている。

昭和21年上京し、「三田文学」の編集に従事しながら先述の「夏の花」をはじめとする小説・随筆・詩などさまざまな作品を発表していった。昭和24年にはこれらの作品をまとめた作品集『夏の花』を出版している。

昭和23年には「夏の花」により第1回水上瀧太郎賞を受賞するなど、将来を期待されていたが、昭和26年3月13日、自ら命を絶つという悲劇的なかたちで46歳の生涯を終えたのである。

このたび、この目録で紹介する資料は、原民喜氏の義弟にあたり、遺品を保存されておられた文芸評論家佐々木基一氏の御夫人である永井いく氏から広島市が寄贈を受けたものである。多数の自筆原稿類のみならず、作品を生み出した環境をうかがわせる資料も多数あり、一人の作家の創作活動を伝える貴重なものである。

貴重な資料の御寄贈をいただいた永井いく氏並びに、資料寄贈とその整理の両面にわたり多大な御協力をいただいた広島文学資料保全の会の皆様に深く感謝の意を表する次第である。

平成15年(2003年)3月

広島市立中央図書館長

# 凡 例

記載事項は、資料の形態により異なっているが、おおむね目録番号・資料番号・資料名・年月日・注記とした。

1. 目録番号  
目録掲載順に連番とした
2. 資料番号  
資料を整理した際に与えた番号であり、原則として資料はこの順に保管されている。
3. 資料名  
原則として資料の表示に従って記載したが、表題がないものなどは内容等を補記した。
4. 年月日  
推定により補記したものもある。
5. 注記  
上記以外で参考になると思われる事項を掲載した。

\* 巻末には佐々木基一関係資料を掲載している。これらは原民喜の義弟であり寄贈者の御夫君である佐々木基一氏自身に関する資料であるが、原民喜に関する資料も多いため本目録で一括して紹介するものである。

\* この目録に集録された資料の中には、現在では人権尊重の観点から照らしてみると不適切な表現も含まれている。資料の生まれた時代や社会状況を正しく理解するため、原文のまま集録することとした。この意図を理解して利用していただきたい。

この目録から個々の資料を提供する際には、プライバシーや資料保存の観点から、閲覧や複写などの利用を制限する場合もありえるので、ご注意いただきたい。

また、提供した資料であっても、利用者が公表などする場合はプライバシーや著作権に十分留意していただきたい。

# 目 次

はじめに

凡 例

1 . 原稿・草稿類.....	1
2 . 書簡類	
( 1 ) 親族間の書簡類.....	6
( 2 ) 知人等との書簡類.....	1 3
( 3 ) 遺書.....	6 0
3 . 名刺.....	6 0
4 . 写真.....	6 5
5 . 新聞・雑誌類.....	6 5
6 . その他.....	6 9
7 . 三田文学関係	
( 1 ) 原稿・草稿類.....	7 1
( 2 ) 書簡類.....	7 6
佐々木基一資料.....	8 0

# 1. 原稿・草稿類

目録番号	資料番号	資料名	年月日	注 記
1	896	雑音帳	昭和 16～20 年	彼が書齋に坐つて静かに黙想に耽つてゐると・短篇集—「謎」「繪艸紙」「鈴蟲」「靴と傘」「皺」「掌」「ビール」「牛乳」「本」「干もの」「にほひ」「たから」「七月二十七日」「時の歪み」・No.1～41 まで 200 字詰原稿用紙、No.42～63 まで原商店用箋(横線鉛筆引)・No.7 欠落
2	897	死と愛と孤獨		原子爆弾の惨劇のなかに生き残つた私は・エッセイ・400 字詰原稿用紙
3	898	ガリバー旅行記第 1 小人国 大騒動		私はいろいろ不思議な国を旅行して、さまざまの珍しいことを、・小説・No.70 欠落・400 字詰原稿用紙
4	899	(ガリバー旅行記第 2)大人国 つまみあげられた私		私はイギリスもどつて二ヶ月もすると、また故国をあとに、ダウンスを船出しました。・小説・400 字詰原稿用紙
5	900	ガリバー旅行記第 3 飛鳥 変てこな人たち		私が家にもどると間もなく、ある日・小説・400 字詰原稿用紙
6	901	(ガリバー旅行記第 4)フウイヌム馬の主人		私は家にもどると、五ヶ月間は、妻や子供たちと一緒にたのしく・小説・400 字詰原稿用紙
7	902	(ガリバー旅行記)あとがき		ガリヴァは十六年と七ヶ月の間、不思議な国を旅行して来ました。・後書き・400 字詰原稿用紙
8	903	永遠のみどり		梢をふり仰ぐと、嫩葉のふくらみに優しいものがチラつくやうだつた・小説・400 字詰原稿用紙
9	904	朝の間		眼にただよひて朝の闇しらがね色の朝の闇・詩稿・400 字詰原稿用紙
10	905	梢		散り残つた銀杏の葉が、それがふと見える窓が、晝のかすかな・詩稿・目黒書店 400 字詰原稿用紙
11	906	死について		お前が凍てついた手で最後のマツチを・詩稿・臼井書房 200 字詰原稿用紙
12	907	一つの星に		わたしが望みを見うしなつて暗がりの部屋に横たはつてゐる・詩稿・臼井書房 400 字詰原稿用紙
13	908	一つの星に		わたしが望みを見うしなつて、暗がりの部屋に横たはつてゐる・詩稿・目黒書店 400 字詰原稿用紙
14	909	不眠歌		罪咎なれば耐へ得べしこんてんこん朝ぼらけ・詩稿・目黒商店 400 字詰原稿用紙
15	910	鈴木その子嬢に		明日、太陽は再びのぼり花は地に咲きあふれ、詩稿・B4 ザラ紙
16	911	草稿		た、コツプを離して、「どうも蛭のやうなものがちらちらする。」と・No.13～20 まで・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙
17	912	草稿		よつと度胆を抜かれた。・原商店用箋(横線鉛筆引)・No.34～37
18	913	草稿		私は何かいつも人間の精神の悲慘に見入つてゐるやうな気がする。・No.3、4、5、5、6、6、7、7、7、8 の計十枚・400 字詰原稿用紙

19	914	草稿		表)「あの男もこの頃になって、僕のこと瀕りに憶ひ出したりなんか ・No.20～24 裏)私の父は大正六年二月二十七日夜半に死んだ。 ・山田紙店 400 字詰原稿用紙、両面使用
20	915	草稿		表)と何か考へてゐる。支那人は牛に乗つて進んでゐる積り ・No.4 裏)死と愛と孤独(わが心の自我像) ・資料番号 897 の下書き ・山田紙店 400 字詰原稿用紙、両面使用
21	916	草稿		表)吉に応酬して、うまく大吉を撃退した ・No.31 裏)伊作は中学生の頃から、あの軍歌で喚きあふ出発の ・山田紙店 400 字詰原稿用紙、両面使用
22	917	草稿		表)まれてゐて、黒くキラキラ光つてゐた。 ・No.11、25～30、32(26は2枚) 裏)出沼怪童 1 もう真夏をおもはずやうな、くらくらす光が ・山田紙店 400 字詰原稿用紙、両面使用
23	918	草稿		表)雄二は答へた。すると、皆はつまんなさうな顔をした。 ・No.33 裏)弘が汗だくでリツクに本を詰めてゐると、傍に叔父が来て冷かした。 ・疎開時の会話、手紙の下書き、メモ ・山田紙店 400 字詰原稿用紙、両面使用
24	919	草稿		表)臉が自然にとろんと重なつて行つた。 ・No.34(資料番号 918 表の続き) 裏)私は秀子の肉体を知つたのだから、それで、もう大人になつたのだらうか。 ・山田紙店 400 字詰原稿用紙、両面使用
25	920	草稿		表)すると、三郎は咽喉が乾いてみたとみえて、 ・No.33 裏)伊作の独白 僕は何かをまだ探してゐる。探してゐるやうだ。 ・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
26	921	草稿		表)ガタガタ慄へた。 ・No.34 裏)伊作はぷつんと立留まる。急に世界が逆転する。 ・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
27	922	草稿		表)た。馬の横腹がピカピカ光つてゐて、おそろしく元気が ・No.36 裏)伊作は H 町にたどりつくと、 ・下書き ・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
28	923	草稿		表)子を返せ！」と號んだ。男達は暫く困つたらしく ・No.37(資料番号 922 の続き) 裏)その朝、順平は何となく気が重くて学校へは出て行かなかつた。 ・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
29	924	草稿		表)呼ぶ声が出たので、振向くと、何時の間にか娘は元の姿で ・No.38 ・裏)京都の叔母の家に立寄ると、はじめて伊作は広島が少しわかつた。 ・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
30	925	草稿		表)とんとんと勝手な方向へ消えて行つてしまつた。 ・No.39 裏)伊作がその兵舎から解放されて、汽車に乗れたのは九月のはじめだつた。 ・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用

31	926	草稿		表)持の先生だつた男とそつくりの紳士がゐた。・No.40(資料番号 925 の続き) 裏)彼が広島を離れた最後の頃の全景がぐらぐらと眼さきを掠めた。・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
32	927	草稿		表)したか、こいつはどうもワハハ、まあ奥さんあのおつこちた蜜柑の恰好・No.41(資料番号 926 の続き) 裏)それを聞いた瞬間、眼の前に閃光が走り無数の真暗なものが・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
33	928	草稿		表)手に撃いでゐた。再びヂヤラン、ヂヤランと楽器が鳴つて・No.42(資料番号 927 の続き) 裏)伊作は広島の街が壊滅する一ヶ月前に召集を受けて北海道へ出発して行つた。・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
34	929	草稿		表)だつた。しんは胸騒ぎがして、気色が悪くなつたので、・No.43(資料番号 928 の続き) 裏)一瞬の閃光で空中を舞つてゐた鳶はすぐ煙になつた。・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
35	930	草稿		表)しんは周章して荷馬車のところへ飛出し、「これは私の娘です・No.44(資料番号 929 の続き) 裏)広島の悲劇を背景に観念的抒情的幻想的ロマン・鎮魂歌のプロット、キャラクター・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
36	931	草稿		表)当つておいて黙つて行過ぎるつて法もないのだ」・No.45(資料番号 930 の続き) 裏)荷物が家にはこぼれ、トラツクが帰つて行くと、私は八畳の間の・新居へ引越の様子・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
37	932	草稿		表)てゐた顛顛の辺が段々窄つて、ギラギラ輝いてゐた眼も霞み、・No.46(資料番号 931 の続き) 裏)もちの樹 その家の兩戸を開けると、もちの樹の若葉がバツと私の眼にうつつた。・紀伊国屋 400 字詰原稿用紙、両面使用
38	933	草稿		表)ザザザと走つて行く兵隊の靴の音がする。・No.47、48(資料番号 932 の続き) 裏)私たち 薄暗いうちから、運送屋はやつて来て、庭さきでせつせと荷作をした。・紀伊国屋 200 字詰原稿用紙、両面使用
39	934	草稿		私は未知の婦人から六七通の手紙をもらったことがある。・ある読者からの 67 通の手紙について・400 字詰原稿用紙
40	935	草稿		表)日は水のごと往きしかど今はたひとりそのかみの・詩稿 裏)あせ、あくび、尿、むれかへる人間の憎愛・メモ・ノート紙、両面使用
41	936	メモ		表)然るにわが民の才は残思荒野の駝鳥のごとくなり 裏)夏の花別便で送付致しました・ノート紙 1/2、両面使用
42	937	メモ		精神病について。人間は生存したい。生存を脅かすものに対してはつねに・裏表紙に不羈独立と記述有・大学ノートの最終頁のみ記述あり・縦書き

43	938	草稿	苦しく美しき夏 陽の光りの厭迫が弱まつてゆくのが柱に ・「苦しく美しき夏」の草稿(「美しき死の岸に」の中の一章) ・大学ノート、縦書き
44	939	草稿	火の唇 いぶきが彼のなかを突抜けて行った。一つの物語は終らうとしてゐた。 ・「火の唇」の草稿(「原爆以降」の中の一章) ・5月号目次、メモ ・大学ノート
45	940	メモ	彼の成長とは一つねにますます偉大なものによつて打ちひしがれることなのだ ・未使用大学ノート表紙に記述
46	941	メモ	湧きやまぬ泉のごとく湧き上がる泉のごとく ・大学ノート表紙、裏表紙と、1枚目のみ記述有
47	942	メモ	はぼつと消えてしまつたが、右側の眼だけがまだ美しく残り、段々その眼球は ・ノートの表紙に 400 字原稿用紙が貼り付けてある
48	943	メモ	夢時計 白い露のおりてゐる草原の線路に、いくつもいくつも提灯が轟いてゐて ・ノート表紙に 400 字原稿用紙を貼り付けてある
49	944	メモ	太陽に育まれ悦ばしき大空の瀧気の ・ノートの表紙一枚
50	945	手帳	批評又ハ紹介 作品五月号 ・「焰」謹呈先メモ ・「焰」以降の作品、掲載先雑誌リスト(1935年9月～1941年3月) ・手帳の中身のみ
51	946	手帳	世の中は鏡にうつる影にあれやあるにもあらずなきにもあらず ・関西製鋼 38 年版手帳 ・短歌 4 句、「忘れがたみよ～」ではじまる詩一篇 ・住所録
52	947	手帳	三省堂 1949 年版 Diary ・2 月始めまで予定記入 ・後ろ 8 ページほど、草稿らしきメモあり「風景は僕を噛む僕は風景を噛む～」 ・帝国製麻鉛筆付
53	948	手帳	住所録 ・三田文学編集部印有
54	949	途中切れ自筆稿	一枚目)原爆回想 私の父は四十年前に一度家を建てたのだが ・6行 二枚目)私は身につけるものや、持って逃げるものを見つけ ・4行 ・東京文房堂 400 字詰原稿用紙
55	950	途中切れ自筆稿 1	歷程詩集原稿 はつ夏 ゆ ・3 行 ・400 字詰原稿用紙
56	951	途中切れ自筆稿 2	心願の国 <一九五一年武蔵野市>夜あけ近く、僕は寢床のなかで小鳥の啼声をきいてゐる ・5 行 ・400 字詰原稿用紙
57	952	途中切れ自筆稿 3	その青い光がすつきりと立ならぶ落葉樹の ・No.8、1 行 ・400 字詰原稿用紙
58	953	途中切れ自筆稿 4	僕は ・1 行 ・400 字詰原稿用紙
59	954	途中切れ自筆稿 1	ゐます。これは実にみごとなものでした。 ・No.35、5 行・文房堂 400 字詰原稿用紙
60	955	途中切れ自筆稿 2	やくしやして来たので、「何だつて、みんなは私を罪人にしようとするのか。 ・No.80、6 行 ・文房堂 400 字詰原稿用紙
61	956	途中切れ自筆稿 3	私は、この島のいろいろ珍らしいものを見せてもらいたい、と ・No.210、2 行 ・文房堂 400 字詰原稿用紙

62	957	途中切れ自筆稿 4		した。王は私との会見がたいへんお気に召されました。・No.242、17行・原稿半分から「死なない人間」・文房堂 400 字詰原稿用紙
63	958	途中切れ自筆稿 5		した。王は私との会見がたいへんお気に召されました。・No.242、5行・文房堂 400 字詰原稿用紙
64	959	途中切れ自筆稿 6		の手や顔をジロジロ眺めました。それから、いかにも私を軽蔑する・No.275、3行 文房堂 400 字詰原稿用紙
65	960	途中切れ自筆稿 7		ようでしたが・No.302、1行・文房堂 400 字詰原稿用紙
66	961	途中切れ自筆稿 8		性はかへつて悪いことに使はれてゐます。よく、泉や湖・No.308、2行・文房堂 400 字詰原稿用紙
67	962	途中切れ自筆稿 9		い人間・1行・文房堂 400 字詰原稿用紙
68	963	途中切れ自筆稿 10		倍も大きな、河を五つ六つ越したのです。・1行・文房堂 400 字詰原稿用紙
69	964	途中切れ自筆稿 1		を書いた作品が一部の人に認められて、単行本になつたりした。・No.5、7行・400 字詰原稿用紙
70	965	途中切れ自筆稿 2		さきほどの風の感觸に思ひ惑ひながら往来に出ていつた。・No.9、8行・400 字詰原稿用紙
71	966	途中切れ自筆稿 3		遅かつたが、猿猴橋を渡ると、橋の下に満潮の水があつた。・No.26、4行・400 字詰原稿用紙
72	967	途中切れ自筆稿 4		と、彼にはこの街の・1行・400 字詰原稿用紙
73	968	遺書下書き		一枚目)御世話になりつばなしでお別れするのを心苦しく思ひますが・4行 二枚目)御世話になりつばなしでお別れするのを心苦しく思ひますが・2行・400 字詰原稿用紙
74	1182	カット		藤川栄子画・裸婦・トレーシングペーパー
75	1183	カット		藤川栄子画・灯を持つ女・扉絵(小説集「夏の花」より)・トレーシングペーパー
76	1184	カット		藤川栄子画・花・巻頭言の左ページ(小説集「夏の花」より)・トレーシングペーパー
77	1185	カット		藤川栄子画・女「燃エガラ」の最後の左ページ(小説集「夏の花」より)・トレーシングペーパー
78	1186	カット		藤川栄子画・人の顔 2人「昔の店」最後の右ページ(小説集「夏の花」より)・トレーシングペーパー
79	1187	カット		藤川栄子画・女の顔「廃墟から」の最後の右ページ(小説集「夏の花」より)・トレーシングペーパー
80	1188	カット		藤川栄子画・裸婦 2人・トレーシングペーパー
81	1189	カット		ノート紙に 7 点の絵、地下の人々・裏一幻の人、幻の街、幻の声、幻の鏡、青白い情熱、無限階段、轟音
82	1190	カット		老人ともんべの少女 天地二寸二分、5、2 と記述有

## 2. 書簡類

### (1) 親族間の書簡類

目録番号	資料番号	資料名		年月日	注 記
83	1428	空封筒	Tome Kuboから原民喜あて	1949年12月27日消印	「先週小包届送しました トメ子 吾綱」と書かれた紙片入り・エアメール(ロサンゼルス)
84	64	葉書	城谷淳三(甥)から原民喜あて	昭和26年1月1日記	謹賀新年・お年玉くじ付年賀はがき
85	36	葉書	城谷千代(姉)から原民喜あて	昭和21年11月27日消印	久しく御無沙汰いたしました もみぢの美しい頃となりましたが・近況報告・法要以来の久し振りの連絡
86	88	封書	城谷千代から原民喜あて	年未詳6月28日記	毎日の降雨で鬱陶しい・食糧危機について・自活の道を見て直しなさい・広島市稟議用紙一枚目の裏に記入あり、封筒なし
87	91	封書	巽千鶴子から原民喜あて	昭和20年秋ごろ	秋冷の好時節の頃で御座いますのに昨今・被爆で運良く難を逃れたこと・姉(貞恵)の一周忌見舞い・裏に民喜のメモあり・巽用箋、封筒なし
88	1416	空封筒	巽千鶴子から原民喜あて	昭和21年6月12日記	
89	92	封書	巽千鶴子から原民喜あて	(昭和21年)7月21日記	早天続きで酷暑も甚だしく感じます・食料を送った・8月6日のことを雑誌に書いたら知らせてほしい・巽用箋、封筒なし
90	37	葉書	巽千鶴子(妹)から原民喜あて	昭和21年11月30日記	紅葉も美しい頃となりました・食糧不足のこと・近況報告
91	38	葉書	巽千鶴子から原民喜あて	昭和22年2月14日記	立春も来ましたが寒波が来たり又・年末の訪問の時のこと、お礼・ウラジオストックの敏君からの便りあり
92	39	葉書	巽千鶴子から原民喜あて	昭和22年7月13日消印	大変お暑くなつて参りました。「夏の花」に感慨・近況報告
93	40	葉書	巽盛三内(千鶴子)から原民喜あて	(昭和23年)6月29日記	待望の雨に少し恵まれましたが又々盛夏の様・春の訪問のときのお礼・転居のお知らせ
94	41	葉書	巽盛三内(千鶴子)から原民喜あて	昭和23年8月25日記	残暑も仲々去り難くございます・雑誌を送っていただいたお礼・「夏の花」の広告を見た
95	93	封書	巽千鶴子から原民喜あて	昭和24年1月13日記	年も改まりまして新しい御希望にもえて・三田文学のお礼・和子も読んでいる・400字詰原稿用紙裏面記入あり
96	94	封書	巽千づ子から原民喜あて	昭和24年4月30日記	百花爛漫の好しいお時候となりました・雑誌と「夏の花」のお礼、感想・近況報告
97	95	封書	巽千づ子から原民喜あて	昭和25年2月16日記	陽春を想わせる様な暖かい日があるかと思ふと・群像に載っていた「鎮魂歌」を読む・近況報告
98	96	封書	巽千づ子から原民喜あて	昭和25年8月20日記	今夏のお暑さは格別酷うございましたが・原爆座談会の記事、群像、アサヒグラフ読む・小包(浴衣)送付
99	97	封書	巽盛三(千鶴子)から原民喜宛	昭和26年1月19日記	寒中とは申し乍昨今大変酷いお寒さとなりました・子供に贈りものをしていただいた御礼・作品の感想・息子の大学受験・巽千鶴子が盛三の名で代筆

100	116	封書	永井勝美から原民喜あて	昭和 20 年月日未詳	拝復 今回広島市の戦災にも幸ひ ・被爆死した家族について報告 ・本郷製粉製麺所用箋、封筒なし ・速達
101	117	封書	永井勝美から原民喜あて	昭和 21 年 6 月 26 日消印	御見舞状を頂きましたが ・食糧事情 ・近況報告 ・本郷製粉製麺所用箋
102	68	葉書	永井勝美から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 11 日消印	今日は梅雨晴れの日曜日で ・三田文学が届き「夏の花」を読む ・体調を心配
103	118	封書	永井勝美から原民喜あて	昭和 23 年 1 月 19 日記	大変御無沙汰してますが其後元気ですか ・木炭を少し送った ・広島県食料営団用箋
104	69	葉書	永井勝美から原民喜あて	年未詳 4 月 7 日消印	其後元気で御 ・「夏の花」「三田文学」受け取りのお礼
105	66	葉書	永井菊代から原民喜あて	昭和 21 年 10 月 3 日記	朝夕めっきり涼しくなりました ・石炭箱で食料を送った
106	65	葉書	永井すみ子(義母)から原民喜あて	昭和 25 年 11 月 3 日記	何時も御無沙汰して居ります ・貞恵の七回忌 ・アメリカから久保がきているので会われたほうが良いと思う
107	11	封書	原民喜から永井善次郎(佐々木基一・義弟)あて	昭和 20 年 8 月 23 日記	ゴオルキイの幼年時代を読みかけて面白くなったところで ・原爆で蔵書、ノートが灰になったこと ・紙不足、食糧不足 ・転送符付
108	12	封書	原民喜から永井善次郎あて	昭和 20 年 9 月 15 日記	高萩町といふのは地図で見ると海岸にあるやうですね ・手紙の遅延 ・食糧不足 ・速達 ・転送符付
109	13	封書	原民喜から永井善次郎あて	(昭和 20 年)10 月 12 日記	九月三十日日附のハガキ今日受取りました ・8 月 6 日被爆体験詳細 ・原商店用封筒、用箋両面使用 ・速達
110	14	封書	原民喜から永井善次郎あて	(昭和 20 年)10 月 31 日記	手紙を出さうと思つてみたところへ手紙を頂きました ・城谷の葬儀の様子 ・近況報告 ・原商店用封筒、用箋両面使用
111	15	封書	原民喜から永井善次郎あて	昭和 20 年 11 月 24 日記	御手紙拝見。長篇を書いてあるのですか、それは前から、プランされてあるものでせうね。 ・長光太の詩の雑誌発刊希望について ・原爆のことをまとめて書きたい ・陸軍用箋、原商店用封筒 ・速達
112	2	葉書	原民喜から永井善次郎あて	(昭和 20 年)12 月 12 日記	お褒りありませんか 新しい原稿書きかけたのですが纏らないので原子爆弾の方を速達で送つておきました ・「原子爆弾」の原稿を速達で送付 ・速達
113	16	封書	原民喜から永井善次郎あて	(昭和 20 年)12 月 28 日記	拝復 十七日日附の端書拝見 ・検閲について ・別便で原稿「雑音帳」送付 ・プレスコード検印、開封シール有 ・速達 ・陸軍用箋両面使用、原商店用封筒
114	17	封書	(原民喜から永井善次郎あて)	(昭和 20 年 12 月頃)	原子爆弾 即興ニスギズ 夏の野に幻の破片きらめけり ・詩 10 行 ・封筒なし
115	18	封書	原民喜から永井善次郎あて	(昭和 21 年)2 月 5 日記	御手紙有難う。御無沙汰してゐましたが ・「近代文学」「文学時評」のお礼 ・早期上京希望 ・陸軍用箋両面使用、原商店用封筒
116	19	封書	原民喜から永井善次郎あて	(昭和 21 年)2 月 15 日記	速達拝見しました。原稿の件については ・「原子爆弾」という題名がいけないのなら「ある記録」ではどうか ・400 字詰原稿用紙 ・速達
117	4	葉書	原民喜から永井善次郎あて	昭和 22 年 5 月 17 日消印	女房的文学論は面白かつたです ・部屋立退きの為、引越し部屋の都合を知りたい ・美樹と一緒に暮す ・「高原」「四季」について

118	3	葉書	原民喜から永井善次郎あて	昭和22年7月3日消印	先日は御世話になりました こんどの部屋は落ち着いてあるのでこのまゝこゝへ居坐りたい気がします ・長光太の詩の掲載依頼 ・三田文学10号送付 ・プレスコード検印有
119	7	葉書	原民喜から永井善次郎あて	昭和22年7月28日消印	ハガキ有難う 東京はこの一週間ばかり猛暑です ・「三田文学」12号まで編集済み ・「雲の裂け目」を高原特集号に掲載のため掛川氏に送付 ・プレスコード検印有
120	5	葉書	原民喜から永井善次郎あて	昭和22年12月3日消印	小田切秀雄の「人間と文学」あれはつまり文学をだらけさせまいとするものの声として ・小田切秀雄「人間と文学」について ・美樹上京 ・暮に帰広予定
121	6	葉書	原民喜から永井善次郎あて	昭和23年2月6日消印	お元気ですか どうもこの頃は雑用に追はれて落ち着けません ・小説がかけない ・長光太の歷程(3)の詩論について ・「壊滅の序曲」について
122	67	葉書	永井善次郎から原民喜あて	昭和25年3月15日記	寒さぶりがへして、こゝは海岸ながら、 ・大変不景気です ・近況報告
123	8	葉書	原民喜から永井善次郎あて	昭和25年3月頃	二三日寒さが烈しくて震へ上つておりましたが今日は漸く春らしい天気にもどりました ・大岡昇平「武蔵野夫人」について ・三田の三奇人にされる(原民喜、片山修三、小野田)
124	9	葉書	原民喜から永井善次郎あて	昭和25年4月20日記	今日広島から戻って来ました ・広島でのペンクラブの会より帰京 ・中国新聞社の記者が東京で広島出の作家の会を立案 ・遠藤氏の渡佛送別会のお知らせ
125	10	葉書	原民喜から佐々木喜一あて	昭和25年5月2日消印	いい時候になりましたね 初て日本麦酒株式会社目黒工場 ・日本麦酒目黒工場佐々木氏へ講演依頼(五月中の土日以外の日)
126	1	葉書	(原民喜から)原貞恵(妻)あて	昭和13年頃月日未詳	さつきまで霧だつたが今は雨が音をたててゐる ・夜眠れなかったこと、部屋をとりかえた、千葉のことが心配 ・箱根、松坂屋本店の絵はがき ・切手、消印なし
127	22	封書	原民喜から信嗣(兄)あて	昭和21年9月13日記	昨日封鎖小切手たしかに受取りました ・小切手のお礼 ・近況報告 ・封筒なし
128	23	葉書	原信嗣(兄)から原民喜あて	昭和22年7月26日記	拝啓 先日相談の三和銀行の件 ・美樹にが帰広の時に通帳、印、金融帳をことづけなさい
129	24	葉書	原信嗣から原民喜あて	昭和22年8月14日記	立秋とは名のみで相変わらず毎日御暑い ・返送の金子確かに受取りました ・近況報告 ・寿美江代筆 ・プレスコード検印有
130	25	葉書	原商店(信嗣)から原民喜あて	昭和23年6月24日記	前略 大変御無沙汰しておりますが ・伊豆の事ですが、農繁期で人手がないためにお世話できかねる ・プレスコード検印有
131	71	封書	原信嗣から原民喜あて	昭和24年11月1日	先日の手紙正に拝見しました ・上柳町の土地の売却の件 ・原商店用箋、封筒
132	82	封書	原商店(信嗣)から原民喜あて	昭和25年6月9日記	拝啓 先日御依頼の株券の売却は ・株売却の件は株安で売れないので自分(信嗣)が買い取る ・計算書 ・久保とめさんが5月29日頃に来る予定 ・原商店用箋、封筒
133	26	葉書	原信嗣から原民喜あて	未詳年6月28日記	前略 只今上柳町の件で書面を送りましたから ・上柳の件で書類を送る ・プレスコード検印有

134	72	封書	原寿美江から原民喜あて	(昭和21年)4月22日記	その後は御無沙汰を致しておりますがお変り御座いませんか・兄と恭子の結婚式について・近況報告・封筒なし
135	73	封書	原寿美江から原民喜あて	(昭和21年)6月10日記	永い間御無沙汰を致しました・食料、結婚式について・近況報告・原商店用箋・封筒なし
136	20	封書	原民喜から寿美江(姉)あて	昭和21年7月16日記	五日日附の御手紙昨日拝見致しました・小切手のお礼・同封のウィークリーを美樹くんへ・封筒なし
137	74	封書	原寿美江から原民喜あて	昭和21年12月13日記	年内には珍しい吹雪の日が三日も続いて・美樹について・近況報告・原商店用箋と封筒
138	75	封書	原寿美江から原民喜あて	昭和22年1月29日記	前略、御免下さいませ その後長く御無沙汰に・着物の売却交渉の経過報告・増岡富三郎からの手紙を同封・原商店用箋、封筒
139	76	封書	原寿美江から原民喜あて	昭和22年3月19日記	永く御無沙汰に打ち過しまして誠に失礼を致しました。・着物の件の入金の報告、遅れたお詫び・茂が受験のため上京するその間の住所・400字詰原稿用紙裏に記入あり
140	77	封書	原寿美江から原民喜あて	(昭和22年)4月21日記	その後は御無沙汰を致しました・茂が明治大学へ補欠入学・28日の入学式が父兄同伴のため出席を依頼・原商店用箋、封筒なし・22年3月19日(資料番号76)の書簡の中に同封
141	78	封書	原寿美江から原民喜あて	(昭和23年)3月29日記	花時も間近となりました。その後は誠に・母の十三回忌の予定・4月5日、法政大学の可否の確認依頼・便箋両面使用・速達
142	79	封書	原内(寿美江)から原民喜あて	(昭和23年)6月28日記	御暑くなりましたが、その後御変りも御座いませんか・土地の件・母の法事・近況報告
143	27	葉書	原寿美江から原民喜あて	昭和23年7月10日消印	日増しに御暑いので・ズボンを送った・小麦一表収穫
144	28	葉書	原信嗣内(寿美江)から原民喜あて	(昭和23年)8月30日	暑さも峠は越した様ですがまだ残暑が酷う・母の法要通知
145	29	葉書	原寿美江から原民喜あて	昭和23年11月24日記	その後は御無沙汰致しましたが・炭が入用かどうか・送金について
146	30	葉書	原寿美江から原民喜あて	昭和24年1月24日記	大変御無沙汰を致しまして失礼を・茂、三四郎上京
147	80	封書	原寿美江から原民喜あて	(昭和24年)5月15日記	大変御無沙汰致しまして済みません・敏と前田昌子が先月17日に結納、婚約・茂のこと・畑のこと・200字詰原稿用紙、封筒なし
148	81	封書	原寿美江から原民喜あて	昭和25年1月9日記	明けまして御芽出度う存じます・美樹の婚約・2月10日前後には式をするので出席して欲しい・便箋両面使用
149	31	葉書	原寿美江から原民喜あて	昭和25年1月13日消印	連日お寒い日が続きますがその後も・美樹結婚式3月5日に決定
150	32	葉書	原寿美江から原民喜あて	昭和25年2月22日記	何時までも寒くて春はなかなか来そうも・美樹結婚式は3月21日に延期
151	83	封書	原寿美江から原民喜あて	昭和25年9月1日記	朝夕は大変涼しく、凌ぎ易くなりました・姪が看護学校へ通うために保証人になるよう民喜に依頼
152	84	封書	原信嗣(寿美江)から原民喜あて	昭和25年10月26日記	秋風も日増しに冷たく身にしみます。・出資金八千円を送ります・子宮筋腫の手術

					を受けた・寿美江代筆
153	85	封書	原寿美江から原民喜あて	年未詳 7月3日記	その後大変御無沙汰を致しまして済みません・封鎖を換えるか、他から借りて送るのではっきりした期日を教えて欲しい・原商店用箋、2枚目裏にも記入あり・封筒なし
154	86	封書	原寿美江から原民喜あて	年未詳 8月8日記	今日が立秋とは申しますが・新円を借りるより東京で封鎖を引き出したほうが得・茂の下宿が心配・寿美江代筆・原商店用箋、封筒なし
155	87	封書	原寿美江から原民喜あて	年未詳 12月23日記	師走に入って寒さも一層酷う・同封の小切手をご受納ください・近況報告・代筆寿美江・封筒なし
156	63	葉書	原時彦(甥)から原民喜あて	昭和26年1月1日記	あけましておめでとうございます。おからは・お年玉くじ付年賀はがき
157	33	葉書	ぬのや(原守夫・兄)から原民喜あて	昭和26年1月1日記	明けましておめでとうございます・お年玉くじ付年賀はがき
158	34	葉書	ぬのや(原守夫)から原民喜あて	昭和26年1月28日消印	寒中お見舞申上ます・寒中見舞い・組合で兄と伊豆、東京旅行の通知・お年玉くじ付年賀はがき
159	35	葉書	ぬのや主人(原守夫)から原民喜あて	昭和26年2月12日(消印)	特報 先日申上ました東京行左の通り決定しましたので・東京行き日程 14日から17日・同行者通知・お年玉くじ付年賀はがき
160	89	封書	(原守夫から原民喜あて)	年月日未詳	拝啓 二三日前八幡二行ツタラ同封ノ書状が届イテ・八幡に届いていた手紙を同封・子供が産まれる予定・便箋両面使用、封筒なし
161	90	封書	(原守夫から原民喜あて)	年月日未詳	拝啓 まことに寒い季節でバラツク生活も相当骨折れます・財産税申告の通知・便箋両面使用、封筒なし
162	107	封書	原美樹から原民喜あて	昭和20年12月14日記	前略 御無沙汰しております。先日守夫叔父さんに・原稿用紙到着の確認・長尾氏の住所・原商店用箋、封筒なし
163	108	封書	原美樹から原民喜あて	昭和21年4月29日記	前略、其の後御変り御座いませんか 僕は相変ず・論文提出の相談・上京の為の下宿のこと・ツツクと蚊帳20米づつ送る・原商店用箋3枚目裏記入あり、封筒
164	52	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和21年7月28日記	暑い日が続きますが御変り御座いませんか・本郷へ行った・14日附の手紙での依頼の件は、材料がそろい次第通知します
165	21	封書	原民喜から美樹(甥)あて	昭和21年8月15日記	本郷へ行ったさうだね あそこは桃源のやうだと・依頼品(カタン糸、ブラッケー、原商店ハترون袋、キザミを入れる袋、マッチ、アルコール)・封筒なし
166	109	封書	(原美樹から原民喜あて)	昭和21年10月24日記	前略 永らく御無沙汰致しておりましたが其の後お変り・なかなか上京できない・依頼の親族名簿・原商店用箋3枚目インクの滲みあり、封筒なし
167	47	葉書	原美樹(甥)から原民喜あて	昭和22年3月2日記	前略、其の後お変り御座いませんか食糧事情が・増岡から(荷物の)発送依頼
168	48	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和22年3月19日記	前略、春らしくなって毎日暖い日が続いていますが・下宿が見つからず閉口・増岡の荷物はどうなったか

169	49	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 22 年 3 月 22 日 消印	前略、御葉書有難う御座いました。荷物御心配をかけたね ・下宿の依頼 ・茂が入試の為、上京
170	110	封書	原美樹から原民喜あて	昭和 22 年 3 月 22 日 記	前略 昨日荷物受取りました ・荷物を受取った、送料を同封 ・東京での下宿先のこと ・原商店用箋、封筒なし
171	50	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 22 年 5 月 17 日 記	前略、Richard の住所をお知らせします。 ・リチャードの住所(アメリカ、ロサンゼルス) ・吾一叔父も同一住所
172	51	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 22 年 6 月 15 日 記	前略、今日は誠に失礼致しました。切角お約束しました ・約束を守れなかったお詫び
173	53	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 22 年 8 月 11 日 記	前略、毎日日々暑い日が続いていますが其の後のいかゞお過しですか ・近況報告 ・早く上京したい
174	54	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 23 年 1 月 9 日 記	明けましておめでたう御座います。 ・新年の挨拶 ・十三号のお礼 ・ざくろ文庫入手のお願い ・近況報告
175	111	封書	原美樹から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 26 日 記	大変御無沙汰しておりますがその後お変わり御座いませんか ・三田文学一月号のお礼、感想 ・上京のこと ・原商店用箋裏も記入有、封筒 ・プレスコード検印、開封シール有
176	55	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 10 日 記	前略 葉書有難う御座いました ・帰省をすすめる ・水に濡れて滲んでいる文字有
177	112	封書	原美樹から原民喜あて	昭和 23 年 7 月 19 日 記	前略 十五日附おハガキ拝見 ・七万円の送金通知 ・原商店用箋、封筒なし
178	56	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 23 年 8 月 8 日 記	毎日日々暑いですね。四日に女工達のお守りで楽々園へ ・三田文学 7 月号のお礼 ・光太に子供が出来る
179	113	封書	原美樹から原民喜あて	昭和 23 年 8 月 23 日 記	前略 毎日日々暑いことです ・三田文学のお礼 ・同封の手形について ・恭子に男の子が生まれる(信孝) ・原商店用箋、封筒なし
180	57	葉書	原商店(美樹)から原民喜あて	昭和 23 年 8 月 25 日 記	前略、毎日暑いことです ・振込みのお知らせ ・創作代表選集のお礼
181	58	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 23 年 9 月 24 日 記	前略、大分秋らしくなりましたが其の後お変わり御座いませんか ・26 日に敏が帰還する
182	59	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 6 日 記	前略、今朝三田文学及近代文学受取りました ・「三田文学」「近代文学」のお礼 ・流行歌のリクエストには応えられないお詫び
183	60	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 23 日 記	前略、其の後お変わり有りませんか、今朝 ・三田文学のお礼 ・「薔薇は生きている」の送付依頼 ・預かっているパリーの写真を村岡へ送るように伝言
184	61	葉書	原美樹から原民喜あて	(昭和 23 年)12 月 15 日 消印	前略、大変寒くなりましたが其の後お変わり有りませんか ・三田文学賞受賞のお祝い ・村岡の兄が来春に結婚予定 ・プレスコード検印有
185	114	封書	原美樹から原民喜あて	昭和 24 年 4 月 13 日 記	前略 大変御無沙汰しておりますが、その後お変わり御座いませんか ・本や雑誌のお礼 ・家族の愚痴 ・封筒なし
186	62	葉書	原美樹から原民喜あて	昭和 25 年 1 月 21 日 記	前略、大変御無沙汰していますが、其の後お元気ですか ・3 月に結婚予定 ・チボ一家の人々を読書中 ・お年玉くじ付年賀はがき

187	115	封書	原美樹から原民喜あて	年未詳 12月31日記	前略 毎日寒いですね。大変御無沙汰しております。・三田文学十二号のお礼・書留の到着確認・原商店用箋両面使用、封筒なし
188	98	封書	前田(旧姓深川)恭子から原民喜あて	昭和21年1月5日記	八幡の朝晩は霜も濃く衰弱された・近況報告・3枚目の裏に記入あり・深川恭子で発信
189	99	封書	(前田恭子)から原民喜あて	(昭和21年2月頃)	其の後御無沙汰に打過ごしていましたが・近況報告・原商店用箋使用2、4枚目は裏に記入あり、封筒なし
190	100	封書	(前田恭子)から原民喜あて	(昭和21年4月頃)	錦絵の様に美しい・原民喜への返事・来月11日に結婚、5月初めに引越し予定・原商店用箋、封筒なし
191	42	葉書	前田恭子(妹)から原民喜あて	昭和21年5月21日消印	拝啓その後御無沙汰いたし居りますが・民喜の作品が掲載されている三田文学を書店で立ち読みした・十八日に転居・近況報告
192	43	葉書	前田恭子から原民喜あて	昭和21年7月25日消印	暑中御伺ひ致します。・スタイルブックのお礼・開業準備万端
193	101	封書	前田恭子から原民喜あて	昭和21年9月15日記	蟲の音も繁く朝夕は初秋の感が深まってまいりました・食糧事情は好転・子供のこと・原商店封筒、用箋2、3枚目の裏に記入あり原商店用封筒
194	103	封書	前田恭子から原民喜あて	年月日未詳(昭和22年?秋)	中秋の心地よき時候となりました・雑誌の感想とお礼・近況報告・封筒なし
195	102	封書	前田恭子から原民喜あて	年月日未詳	梅雨の季節如何御過しやら御案じ申して居りました・信嗣にお金を頼るようにおすすめ・原商店用箋、封筒なし
196	70	葉書	増岡登三郎から原民喜あて	昭和21年9月27日消印	拝啓 貴下・久保富夫の大阪への転居について
197	122	封書	増岡増造から原民喜あて	昭和25年6月17日記	冠省 民喜さんと云へば何んたか変に聞へますが・新聞雑誌で名前を見るようになった・姉久保トメが33年振りに帰国中・B5ザラ紙・増岡増造の名詞同封
198	119	封書	三吉光子から原民喜あて	昭和21年9月30日記	時候柄大変凄まじく・法事について・近況報告・B4用紙(勤務表の裏)・速達
199	120	封書	三吉光子から原民喜あて	昭和21年10月30日記	秋も段々深ままして朝夕を風も身にしむ・温泉について・近況報告・B4用紙(勤務表)1枚は半分に切られている
200	121	封書	三吉光子から原民喜あて	昭和21年11月19日記	寒さきびしくなりました・返事のお礼・お金の受け取りについて・近況報告・書留
201	44	葉書	村岡敏(弟)から原民喜あて	昭和11年8月7日記	暑中御見舞申し上げます。相変わらず日本は暑いなと思ひます・オリンピックについて・ヒトラーの顔を見た・エアメール便・オリンピック会場の絵はがき
202	104	封書	村岡敏から原民喜あて	(昭和23年)9月27日記	八年振りに帰って参りました・シベリアからの復員報告・戦争について・原商店用箋、封筒・切手、消印なし
203	105	封書	村岡敏から原民喜あて	(昭和24年)2月16日記	広島は近來に珍しい雪です・水上賞のお祝い・近況報告・封筒なし
204	106	封書	村岡敏から原民喜あて	昭和24年5月25日記	拝啓 御無沙汰致しております 夏らしくなつて・3月に広島図書株式会社に就職・6月に結婚する
205	45	葉書	村岡敏から原民喜あて	昭和25年1月1日記	賀正・お年玉くじ付年賀はがき

206	46	葉書	村岡敏から原民喜あて	昭和26年1月1日記	新年おめでとう御座います・会社の中に原民喜のファンが出来た・お年玉くじ付年賀はがき
-----	----	----	------------	------------	---

## (2) 知人等との書簡類

目録番号	資料番号	資料名	年月日	注記
207	124	葉書	青木繁から原民喜あて 昭和22年7月10日 消印	拝啓 三田文学の進行順調に進んで居りますが、 ・「三田文学」編集後記執筆依頼 ・十二号の編集をそろそろ始めたい
208	659	封書	青柳瑞穂から原民喜あて 昭和24年1月21日記	御ハガキ拝見。「花について」かきます。 ・「花について」書きます・モオパッサンの小説「蠅」を訳している。3月の「群像」に載る予定 ・400字詰原稿用紙
209	126	葉書	青柳瑞穂から原民喜あて 昭和24年2月5日記	前略 モオパッサンの短篇は、やっとなら全部ととのひましたので・モオパッサンの短編集受け渡しの準備できた
210	125	葉書	青柳瑞穂から原民喜あて 昭和24年10月3日記	以前お約束の詩一篇もとうとうお送り出来ず、 ・依頼を受けていた詩と堀口大学についての原稿の断り、詫び
211	660	(封書)	青柳瑞穂から原民喜あて 年月日未詳	前略お手紙拝見しました。「ざくろ文庫」のこと ・モオパッサンの詩を「ざくろ文庫」へ収録する意思があれば会いたい・裏に地図有 ・200字詰原稿用紙、封筒無し
212	661	封書	秋谷豊から原民喜あて 昭和24年12月1日 消印	原民喜先生。大へんぶしつけながら“三田文学”へ詩一篇投じさせていただきます。 ・詩稿「星ふる夜の高原にて」野村英夫追悼 ・400字詰原稿用紙(一枚目は半枚)
213	142	葉書	旭一美他から原民喜、丸岡明あて 昭和23年4月日未詳	拝啓 若葉の候愈々清栄の段お慶び申し上げます ・3月号で「文明」の編集部を去る
214	128	葉書	朝日厚輝(朝日柊一郎)から原民喜あて 昭和21年5月2日 消印	自作の詩が活字になったとて慢心どころか ・自分の詩に満足していない ・別便でソネットをふたつ送った
215	129	葉書	朝日厚輝から原民喜あて 昭和21年7月31日記	拝 私のやうな未熟な徒の拙ない詩に度々お葉書 ・別便で散文詩を送った
216	662	封書	朝日厚輝から原民喜あて 昭和21年11月14日記	私の歴史は昭和元年三月廿拾日に生まれました ・自らの生立ち、自分の書く詩について ・「そうだぼく」の制作! …で始まるメモあり ・便箋両面使用
217	130	葉書	朝日厚輝から原民喜あて 昭和21年11月16日記	十一月八日附のお手紙本日受け取りました ・勘違いが釈明した ・少年の賛歌を送付 ・往復はがき(返信)
218	127	葉書	朝日厚輝から原民喜あて (昭和22年)1月22日記	たびたび慈愛あるお手紙をいただき感謝しています ・失恋の体験をぶちまけてみました
219	131	葉書	朝日厚輝から原民喜あて 昭和22年4月22日記	三田文学九号寄贈にあずかりありがとうございます ・三田文学九号のお礼
220	132	葉書	朝日柊一郎から原民喜あて 昭和22年5月20日記	詩稿いずれも今年一月から三月ごろまでのものです ・詩を送った
221	663	封書	朝日厚輝(朝日柊一郎)から原民喜あて 昭和22年8月17日記	せみのこえが私の窓一ぱいにひろがったり消えたりしています ・芸術論・短冊形私製封筒

222	133	葉書	朝日柗一郎から原民喜あて	昭和22年11月13日記	じつはあんな詩を書いてこれはもうふられたのかなと・6日の手紙で安堵した・活字はこの上ない魅力・プレスコード検印有
223	141	葉書	朝日柗一郎から原民喜あて	昭和22年11月16日記	ぼくが詩らしい詩をかきはじめてやっとな年たちました・自分の詩の話・上京したいプレスコード検印有
224	138	葉書	朝日柗一郎から原民喜あて	昭和23年3月4日記	を！！フライデーにはドン・ジョヴァンニが！！！！・音楽の話
225	134	葉書	朝日柗一郎から原民喜あて	昭和23年3月7日記	ぼくの詩はいま女のところへ行ってみます・習作を書き散らした・映画「コクトオ」の感想
226	664	封書	朝日柗一郎から原民喜あて	昭和23年3月15日記	ぼくの不安に熱中しなければならない・芸術論、絶対的の不合理図有・4,5枚目は写経用紙
227	135	葉書	朝日柗一郎から原民喜あて	昭和23年3月21日記	なんとよく雨が降るのでせう・原民喜の散文詩「庭」について・昨夜は「ある時刻」をよみました
228	136	葉書	朝日柗一郎から原民喜あて	昭和23年3月23日記	うれしい！なんといふ！！美しき集ひ・写真集(画集?)のお礼と感想
229	137	葉書	朝日柗一郎から原民喜あて	昭和23年3月25日記	おもしろいことがあります・母の話・プレスコード検印有
230	139	葉書	朝日柗一郎から原民喜あて	昭和23年3月29日記	今日はね敗者の散歩をしみじみ味はってきました・「野球界」を古本屋に売りに行くが引き取ってもらえず
231	140	葉書	朝日柗一郎から原民喜あて	昭和23年7月4日消印	とつぜんこんなものを送って失礼です・作品を送る・しばらく名古屋で活動する・転送符付
232	665	(封書)	朝日厚輝から原民喜あて	年未詳3月3日記	詩作とはかくもおそろしき行為であつたかと私は今畏怖に・芸術論・あなたのところへ詩を送る人の中から20歳前後の才能のある未婚の女性を紹介してほしい・B5ノート紙、封筒無し
233	666	(封書)	朝日厚輝から原民喜あて	年月日未詳	拝啓 一つのことを表現しました 一つのものこそ私の・芸術論・略歴・名古屋氏銃後奉公会 B5 罫紙使用、封筒無し
234	667	(封書)	朝日柗一郎から原民喜あて	月日未詳10日記	原稿用紙がないのでノオトに書きました・「うつろひ」のみ9日作、他は7月のです・カナ使いに困っている・写経用紙、封筒なし
235	668	(封書)	(朝日厚輝)から原民喜あて	年月日未詳	ながいあひだのたくつてゐるだけでなにもせず怠慢を・芸術論・同封した写真の事・罫紙両面使用、封筒無し
236	669	(封書)	安達寛から原民喜あて	年未詳2月19日記	謹啓、先生には益々御健筆慶賀に存じます。・「詩風土」への寄稿依頼・封筒無し
237	148	葉書	阿比留信から原民喜あて	(昭和23年)2月5日記	おハガキ拝見致しました。・三田文学十四・十五号あたりに載る拙文と同じ内容のものが他雑誌に載るので早めに掲載したほうがいいのではないか?
238	149	葉書	阿比留信から原民喜あて	昭和23年2月16日記	冠省 三田文学例会の御通知を受けましたが・三田文学例会の欠席
239	150	葉書	阿比留信から原民喜あて	昭和23年4月1日記	お便り拝見致しました。折悪しく、小生は去る二十四日・題名を「アメリカ詩の動向」に変えること了承

240	151	葉書	阿比留信から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 14 日記	啓 おハガキ拝見しました。原稿のことですが、追々・原稿の締切日について事情説明、相談
241	152	葉書	阿比留信から原民喜あて	昭和 23 年 11 月 1 日記	啓 おハガキ拝見しました。原稿のこと承知致しました。・原稿の件承諾・今の文学に於ける問題について・プレスコード検印有
242	153	葉書	阿比留信から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 24 日記	お元気のことと存じます。さて、前に「三田文学」三月号の・掲載号変更のお願い
243	154	葉書	阿比留信から原民喜あて	昭和 24 年 3 月 11 日記	暖かだったり、寒かったり、大変変調な気候ですが・「三田文学」時評が書けなかったことへのお詫び
244	671	(封書)	阿比留信から原民喜あて	年月未詳 20 日記	「三田文学」落手致しました。実は今度の例会には・今度の例会には出席できない・編集後記は、感想ではなく問題を提起するようなコメントがいいのでは・戦後文学特集号の原稿を別便で送る・封筒無し
245	145	葉書	阿部行蔵から原民喜あて	昭和 24 年 9 月 2 日記	拝復 過日は三田文学二部御恵贈有難う存じました。・三田文学のお礼・長光太は広島で同級生
246	143	葉書	阿部章蔵から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 4 日記	拝啓「焔」難有頂戴・「焔」のお礼
247	146	葉書	阿部光子から原民喜あて	昭和 23 年 6 月 26 日消印	御丁寧におたづね下さいまして恐れ入ります・民喜のつけた題で結構
248	123	葉書	原民喜から阿部光子あて	昭和 23 年 8 月 28 日消印	御健筆のこと、存じます・「鏡の舞」は 9 月より 4 回掲載、40 枚ぐらいにまとめてほしい
249	147	葉書	阿部光子から原民喜あて	昭和 25 年 2 月 9 日消印	ご転居のお通知ありがとうございます・転居通知への礼状・お年玉くじ付年賀はがき
250	672	(封書)	阿部光子から原民喜あて	年未詳 9 月 3 日記	ごきげんよろしくおすごいでいらつしやいますか。・原稿のみお届けいたします。・封筒無し
251	144	葉書	阿部好義他から原民喜あて	昭和 23 年 8 月 30 日消印	苦闘スル我々ノ物ヲノ仕事ハ・山羊チーズの紹介
252	155	葉書	天野忠(リアル編集部)から原民喜あて	昭和 22 年月未詳 28 日消印	愈々御精進の由お慶び申上ます・小誌「リアル」に「青春についての」執筆依頼・貴著「焔」を愛読していた・プレスコード検印有
253	156	葉書	天野忠から原民喜あて	昭和 23 年 6 月 1 日消印	お元気で御精進の事と存じます・「リアル」休刊・「青春について」を夕刊京都新聞に頂きたい
254	158	葉書	荒正人から原民喜あて	昭和 21 年 12 月 22 日記	お葉書ありあたく存じました。「三田文学」は・「内なる権威」というテーマでピカソのことなど書いている・両三日中には送る
255	159	葉書	荒正人から原民喜あて	昭和 23 年 8 月 28 日記	国際タイムスへの玉稿ありがたく存じました・稿料送付の手配をしました
256	160	葉書	荒正人から原民喜あて	(昭和 23 年)9 月 1 日記	用件のみ申し上げます・埴谷雄高の「死霊」について・「三田文学」へは同人の亀島貞夫が執筆させていただく
257	161	葉書	荒正人から原民喜あて	昭和 24 年 3 月 6 日消印	お便り拝見いたしました。・5 月号の「壺」で取り上げさせていただく・プレスコード検印有
258	162	葉書	荒正人から原民喜あて	昭和 24 年 6 月 2 日消印	お元気のことと存じます・別便で「東日」郵送・そのなかに「夏の花」に関することあり

259	673	封書	池田みち子から原民喜あて	昭和 22 年 5 月 23 日 消印	原條あきみ君は北海文学の同人で ・詩人の簡単な紹介 ・200 字詰原稿用紙の裏使用、封筒(女流美術家奉公隊)に原稿在住と記入有 ・速達
260	163	葉書	池田みち子から原民喜あて	昭和 22 年 11 月 4 日 消印	お葉書拝見いたしました。二十五日頃までに、 ・25 日頃までに原稿届ける
261	164	葉書	池田みち子から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 23 日 消印	二十一日出席できなくてすみませんでした。 ・欠席のお詫び ・原稿依頼の承諾
262	165	葉書	池田みち子から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 16 日 消印	お葉書拝見いたしました。この前の例会に ・20 日の例会は欠席 ・転居した。三田文学や稿料は橋方へ送って欲しい
263	166	葉書	池田みち子から原民喜あて	昭和 23 年 6 月 3 日	いつも集りにおうかがひ出来なくて失礼しております。 ・来客のため集まりに参加できず
264	167	葉書	池田みち子から原民喜あて	昭和 23 年 7 月 12 日 消印	おハガキ拝見いたしました。三田文学会にいつも ・「バランス」についての原稿依頼の断り
265	168	葉書	池田みち子から原民喜あて	昭和 25 年 3 月 8 日 消印	転居通知 住所杉並区 ・転居通知
266	169	葉書	池田みち子から原民喜あて	昭和 26 年 1 月 1 日記	賀正 一月元旦 ・お年玉くじ付年賀はがき
267	180	葉書	石川淳から原民喜あて	昭和 22 年 5 月 6 日記	御手紙拝見いたしました ・拙作出版の件は他の出版社と約束済み
268	170	葉書	石田泉吉から原民喜あて	昭和 23 年 12 月 21 日記	おくれらせながら「水上滝太郎賞」御受賞を ・水上滝太郎賞受賞のお祝い
269	179	葉書	板垣直子から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 3 日記	小説集「焰」を御送附下さいまして厚く御礼申し上げます ・小説集「焰」のお礼
270	172	葉書	伊藤整から原民喜あて	昭和 22 年 5 月 21 日 消印	おハガキ拝受しました。三田文学の原稿 ・原稿の遅れのお詫び ・十和田の住所 ・プレスコード検印有
271	171	葉書	伊藤整から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 15 日 消印	その後お元気ですか。三田文学の原稿ぜひと、三田文学の原稿送りたい ・「文芸」に書く気持があるなら杉森に話を通しますが ・プレスコード検印有
272	173	葉書	伊藤整から原民喜あて	昭和 24 年 3 月 7 日 消印	本を頂きました。最初の五つの作品を読んだところです。 ・本のお礼 ・作品は美しく緊張して立派でした。
273	174	葉書	伊藤初子から原民喜あて	昭和 26 年 1 月 1 日記	年のはじめの御よろこびを申し上げます ・お年玉くじ付年賀はがき
274	175	葉書	井波清治から原民喜あて	年未詳 12 月 1 日消印	三田文学随筆をかくこと承知致しました ・随筆の原稿依頼承知 ・プレスコード検印有
275	176	葉書	乾直恵から原民喜あて	昭和 23 年 1 月 4 日記	賀春 旧暮中左記へ転居。 ・転居通知 ・引越早々右手親指を手術
276	177	葉書	乾直恵から原民喜あて	(昭和 23 年)6 月 15 日記	お元気のことと存じます。此度は ・友人小谷の原稿についての配慮に感謝 ・プレスコード検印有
277	178	葉書	井伏鱒二から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 3 日 消印	拝復 御本を頂き有難う存じます ・本を買ったお礼
278	181	葉書	今井俊三から原民喜あて	昭和 23 年 11 月 9 日記	おハガキ拝受。拙作について度々 ・原稿依頼承諾、20~30 枚の予定
279	674	封書	今井俊三から原民喜あて	昭和 24 年 3 月 30 日記	拝啓 その後は御無沙汰いたして居ります ・「愛物」掲載のお礼 ・稿料を早く送ってほしい ・400 字詰原稿用紙 ・速達

280	675	封書	今井俊三から原民喜あて	昭和24年11月14日記	拝啓、その後は御無沙汰いたしております。・手元に長編「幻燈」がある。御覧に入れたい・他作品について・今井俊三原稿用紙(400字詰)
281	676	封書	今井俊三から原民喜あて	年月日未詳	拝啓、本日庄野誠一氏より拙稿「訪問着」を三田文学・自己紹介、作品紹介・ブラジルの切手2枚同封・プレスコード検印、開封シール有
282	182	葉書	岩佐東一郎(文芸汎論社)から原民喜あて	昭和10年4月10日消印	啓、貴著短篇集「焰」を御恵送下さいまして・「焰」を頂いたお礼
283	183	葉書	岩佐東一郎から原民喜あて	昭和21年12月8日記	拝啓、その後ごぶさたしてをりますが・三田文学八号のお礼
284	189	葉書	岩佐東一郎から原民喜あて	昭和22年9月11日記	おハガキありがたう存じました。こちらこそ・三田文学の原稿の依頼承諾・編集室の住所を知らせて欲しい
285	184	葉書	岩佐東一郎から原民喜あて	昭和23年1月1日記	「三田文学」いつも有難う存じます。・年賀状・三田文学のお礼と、原稿のかけなかったお詫び
286	185	葉書	岩佐東一郎から原民喜あて	昭和23年1月26日記	暖い日がつづくので助かります。・別便で「六号室」の「呆れ申し候」を送付・自詩自註「舞台裏」を出版する・プレスコード検印有
287	186	葉書	岩佐東一郎から原民喜あて	昭和23年2月2日記	おハガキ拝承。稿料が出なくても・稿料なしでも「三田文学」への掲載了承・日本詩人協会を結成予定・プレスコード検印、至急印有
288	187	葉書	岩佐東一郎から原民喜あて	昭和23年2月19日記	「三田文学」ありがたう存じました。うれしく・三田文学のお礼・原稿を書き直したいので返送して欲しい・プレスコード検印、至急印有
289	188	葉書	岩佐東一郎から原民喜あて	昭和23年2月28日記	前略、先日は拙稿に関しとんだお手数おかけ申しました。・かわりの原稿を送るので編集予定が決まり次第通知を・プレスコード検印、至急印有
290	190	葉書	岩佐東一郎から原民喜あて	昭和24年3月12日記	啓上 その後ごぶさたお許し下さい。・「夏の花」のお礼・「文芸公論」の企画編集をすることになった
291	191	葉書	岩崎良三から原民喜あて	昭和22年12月15日消印	三田文学執筆の件はその内何か好題目を・西脇先生の題名は「シムボルの薄明」ではどうですか、カットは自筆のものを送られるそうです
292	192	葉書	岩崎良三から原民喜あて	昭和23年2月3日記	その後御無沙汰のみ失礼いたして居ります。・三田文学の原稿依頼承諾
293	193	葉書	岩崎良三から原民喜あて	昭和23年8月9日記	暑中お変わりありませんか・三田文学未着につき2冊送って欲しい
294	194	葉書	岩崎良三から原民喜あて	昭和23年12月22日消印	過日は三田文学賞、お目出度う存じます・三田文学賞受賞のお祝い・「理性とロマン主義」を出版するので書評を佐藤朔に依頼したい
295	196	葉書	上田保から原民喜あて	昭和23年8月9日記	冠省、御葉書拝見いたしました。御配慮を感謝いたします。・上田敏雄の住所通知
296	197	葉書	上田保から原民喜あて	昭和23年11月9日記	冠省、御葉書拝見いたしました。別封にて原稿を・原稿送付予定
297	198	葉書	上田保から原民喜あて	昭和24年4月14日記	前略、別封にて東郷氏の詩二篇をお送りいたしましたから・東郷氏の詩を三田文学へ掲載依頼・東郷の住所

298	677	(封書)	上田保から原民喜あて	未詳 8月4日記	冠省 毎日ひどい暑さですが、御元氣のことと存じます・上田敏雄(兄)の宗教的な詩を2篇同封、都合がつけば三田文学に掲載してほしい・封筒無し
299	1411	空封筒	上田敏雄から原民喜あて	昭和23年10月8日消印	原稿在中と記入有
300	199	葉書	上田敏雄から原民喜あて	昭和23年10月10日消印	拝啓、御芳書有難く拝見いたしました。愚弟を・エッセイを送る・作品を取り上げてもらったお礼
301	200	葉書	上田敏雄から原民喜あて	昭和23年11月24日消印	拝啓「三田文学」3部御送本に預りまして・三田文学3部のお礼・作品発表は約十年ぶり・郵便料金不足300
302	678	(封書)	植松幸一から原民喜あて	年未詳 3月4日記	願くは至急御處理の程 原民喜様・批評をしていただきたい・作家的資質、版權などについての質問状・半紙、封筒無し
303	679	封書	浮田武子から原民喜あて	昭和24年9月1日記	突然の失礼お許し下さいませ。・自己紹介・「夏の花」「鎮魂歌」の感想・400字詰原稿用紙
304	680	封書	浮田武子から原民喜あて	昭和24年10月1日記	大変御無沙汰を致しました。日記を見ますとあれから丁度・巽さん榮転のこと・夫の病氣のこと・400字詰原稿用紙
305	681	封書	浮田武子から原民喜あて	昭和24年11月3日記	お元氣のことと存じます。・倉敷での生活・近況報告
306	682	封書	浮田武子から原民喜あて	(昭和24年)12月11日記	おさむくなりましたが、その後お変り御座いませんか・コーチンの飼育の様子・短歌7首
307	683	封書	浮田武子から原民喜あて	昭和25年2月5日記	新年も夢のようにすぎました。・近況報告・短歌 靴紐を結へる吾子の襟足に男見えそむよわい十八
308	201	葉書	浮田武子から原民喜あて	昭和25年7月21日記	大変御無沙汰申し上げます。お暑さの折柄・「美しき死の岸に」を愛読・作品を添削して欲しい・絵はがき
309	202	葉書	浮田武子から原民喜あて	昭和26年1月1日記	新年のお喜び申し上げます・お年玉くじ付年賀はがき
310	684	封書	うすぬきのすけ(臼井喜之介)から原民喜あて	昭和22年8月13日消印	いつも吉村君を通じて承つております・詩の朗読会であなたの短詩を使って公演することを了承してください・臼井書房小型用箋
311	208	葉書	卯月研究社から原民喜あて	昭和25年1月31日消印	各種製法秘訣公開・本の宣伝広告・転送符付
312	203	葉書	内田百閒から原民喜あて	昭和10年4月2日記	御高著焔難たく拝受・「焔」拝受
313	204	葉書	内村直也から原民喜あて	昭和22年11月13日消印	御注意有難く御礼申し上げます。・題は「二足の草鞋」、傍題として「水上瀧太郎氏を想う」を附記していただきたい・プレスコード検印有
314	195	葉書	宇野浩二から原民喜あて	昭和10年4月2日消印	お手紙より後れて、貴著、今日落手いたしました。・本のお礼
315	205	葉書	梅野幸一から原民喜あて	昭和22年5月31日消印	色々御配慮ありがとうございます。御尋ねの件・梅野幸一、堀越秀雄の略歴、住所
316	207	葉書	梅野幸一から原民喜あて	昭和22年12月26日消印	拝啓、御無沙汰致しました。小生の病氣も・転居通知
317	206	葉書	梅野幸一から原民喜あて	昭和23年1月18日記	三田文学稿料戴きました。・稿料受取った・転居通知、地図有

318	209	葉書	遠藤周作から原民喜あて	昭和23年1月6日消印	突然お便り差し上げましてお許し下さい。・三田文学受取りのお礼・今月の「四季」「高原」の作品のご高評をいただきたい・郵便料金不足70
319	685	封書	遠藤周作から原民喜あて	昭和23年2月20日消印	「冬の虹」100枚その修正作150枚もう私の小説にあきあき・「冬の虹」とその修正作を同封の郵券にて返送してほしい・私製封筒
320	211	葉書	遠藤周作から原民喜あて	昭和25年3月24日消印	先だつては どうも失礼いたしました・「群像」を読んだ・生きること、文学がかけないことが辛い
321	210	葉書	遠藤周作から原民喜あて	昭和23年5月21日消印	先日はお葉書有難う存じました。・一月前「カトリシズムの本質」を持って能楽書林によったが、不在だった
322	686	封書	遠藤周作から原民喜あて	昭和24年11月8日記	原民喜様 昨夜は失礼いたしました。・過飲、心配をかけたお詫び・始末書(半紙に署名、落款)
323	212	葉書	遠藤周作から原民喜あて	昭和25年5月4日消印	その後ごぶさたいたしております。お元気でせうか。・出発が近づいたので、挨拶したい・階下の応接間が空いていますか?
324	213	葉書	遠藤周作から原民喜あて	昭和25年5月29日消印	拝啓、お葉書お電話ありがたう存じました。毎日、・挨拶は火曜日(30日)にしたいのですが、ご都合を知らせてください
325	688	(封書)	大久保房男(群像編集部)から原民喜あて	(昭和23年)12月28日記	お葉書をいたすべきまして恐縮致してをります・名簿不備のお詫び・講談社用箋使用、封筒無し
326	689	封書	大久保房男から原民喜あて	昭和25年9月21日記	大変涼しくなつて、もう寒がりの私は夜なぞちよつきを着て居ります。・近々すばらしいニュースを持って参上します・講談社用箋
327	219	葉書	大久保房雄から原民喜あて	昭和25年月日未詳	先祖の地をまわつておます・熊野へ一人旅・紀伊熊野西国一番札所の絵はがき
328	690	(封書)	大久保房男から原民喜あて	年未詳1月8日記	明けましておめでとうございませう・雑誌受け取りの件についてのお詫び・「魔のひととき」は好評・三田文学に参加したい・講談社用箋、封筒無し
329	220	葉書	太田正子から原民喜あて	昭和23年8月12日消印	お暑さの折何からお障りもなくいらっやいますか・夫咲太郎の告別式参列のお礼
330	1412	空封筒	大月俊信から原民喜あて	昭和22年5月21日記	書留
331	691	封書	大月俊信から原民喜あて	昭和22年6月11日記	先日はお手紙をいただき大変有難く存じました・作品批評のお礼
332	221	葉書	大月俊信から原民喜あて	昭和23年1月9日記	御端書拝見いたしました 当方こそ随分御無沙汰・感想を近日中に送る
333	222	葉書	大月俊信から原民喜あて	昭和23年2月16日記	この前御すゝめに従つて御約束いたしておりましたもの・約束の原稿が出来ずキャンセルしたい・いいものが出来たら採用掲載して欲しい
334	223	葉書	大月俊信から原民喜あて	昭和25年1月1日記	賀 新年・お年玉くじ付年賀はがき
335	692	(封書)	大月俊信から原民喜あて	年未詳5月9日記	たゞ今御厚情にみちた御端書をいたすべき大変恐縮いたしました・詩を三田文学に掲載してもらつたお礼・その詩と同時期に作った作品を近いうちに送ります・封筒無し

336	693	(封書)	大月俊信から原民喜あて	年未詳 9月16日記	冠省 御葉書大変有難く御深切身にしみてうれしく存じ上げました ・作品掲載のお礼 ・略歴 ・昨年より誌を書くようになった ・封筒無し
337	694	封書	大橋直矢から原民喜あて	昭和 23 年 6 月 22 日記	非常にお忙しいところをあんつまらないものに目を通して ・作品批評のお礼 ・安田工業用箋、封筒
338	224	葉書	大屋典一から原民喜あて	昭和 25 年 1 月 10 日記	お元気ですか、あの時は大変失礼しました ・先日の詫び
339	225	葉書	岡本太郎から原民喜あて	昭和 23 年 4 月 8 日記	前略、先日はわざわざ原稿の御依頼を頂きましたが ・原稿依頼の葉書が延着、そのため原稿が書けず
340	687	封書	小川和佑から原民喜あて	昭和 23 年 5 月 21 日消印	前略、以来小生たちの拙誌をお送り申したので ・自己紹介 ・駿台文学を出す予定
341	226	葉書	奥野信太郎から原民喜あて	昭和 23 年 9 月 13 日記	御無沙汰してあります。ちかごろはいよいよ ・「北平文学地図」は 10 から 12 回で完結の予定
342	227	葉書	奥野信太郎から原民喜あて	昭和 25 年 2 月 27 日	先頃は失礼しました。帰られてからみましたら ・風呂敷を置き忘れられているのでついでの節にお立寄り下さい
343	297	葉書	小高根二郎から原民喜あて	昭和 22 年 8 月 28 日記	拝復 御便り拝受何か御送りすることいたします ・原稿依頼承諾
344	298	葉書	小高根二郎から原民喜あて	昭和 23 年 6 月 23 日消印	御便り拝誦、『情欲について』お書きします ・「情欲について」書く ・長編を書いています。
345	299	葉書	小高根二郎から原民喜あて	昭和 24 年 3 月 14 日消印	冠省、御著夏の花恭く、拝誦致しました ・「夏の花」を拝誦、感想
346	301	葉書	小高根二郎から原民喜あて	昭和 24 年 8 月 19 日消印	御便り拝誦、河内武一君のこと承知しました。 ・河内武一君の件了承 ・今月で岡崎から京都宇治にもどることになった。
347	300	葉書	小高根二郎から原民喜あて	昭和 25 年 8 月 30 日消印	先日は突然お訪ねし失礼しました ・先日の突然の訪問のお詫び、また十月に上京 ・斉田昭吉氏を紹介、三田文学で詩をかかせてやってほしい
348	302	葉書	小高根二郎から原民喜あて	昭和 25 年 12 月 4 日消印	御便り懐しく拝誦しました。五十枚ものの執筆承知しました。 ・50 枚ものの執筆了承知しました。 ・来年は文学運動をしたい
349	215	葉書	小野尚俊から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 1 日記	謹賀新年 ・年賀状
350	216	葉書	小野尚俊から原民喜あて	昭和 24 年 2 月 20 日記	拝啓 寒気きびしい折から先生御変りなく御過しでせうか。 ・このうちは宿望の慶応合格があるのみ
351	217	葉書	小野尚俊から原民喜あて	昭和 25 年 1 月 1 日記	明けましてお目出度う御座居ます ・お年玉くじ付年賀はがき
352	214	葉書	小野松二から原民喜あて	昭和 10 年 8 月 7 日消印	暑中御見舞申上げます ・暑中見舞い
353	695	封書	尾張幸也(トップライト編集局)から原民喜あて	(昭和 21 年)9 月 10 日記	残暑の候、如何お過しでございますか ・稿料をお送りします ・執筆礼状 ・支払い明細
354	218	葉書	尾張幸也(世界社トップライト編集局)から原民喜あて	年未詳 7 月未詳	暑中御見舞申上げます。本日御原稿 ・原稿受取ったお礼
355	228	葉書	掛川長平から原民喜あて	昭和 22 年 8 月 11 日消印	玉稿頂いた儘御返事もさし上げませんでした。 ・「創作」を掲載します ・創作集について

356	229	葉書	掛川長平から原民喜あて	昭和22年11月16日消印	長い間御無沙汰申し上げました。お許し下さい。・鳳文書林単行本化の件
357	230	葉書	掛川長平から原民喜あて	昭和23年2月20日消印	原稿のおすすめ有難う存じました。よろこんで・原稿依頼快諾・鳳文書院の単行本決定のため原稿を送ってください
358	231	葉書	掛川長平から原民喜あて	昭和23年3月18日消印	御葉書頂きながら失礼申し上げました。創作集の・次の作品を鳳文書林から出してやって欲しい・三田文学の原稿の事・プレスコード検印有
359	232	葉書	掛川長平から原民喜、丸岡明あて	昭和23年4月12日消印	追日は野田と失礼申し上げました。野田は・野田のご鞭撻ご支援をお願いします・何れ良い作品をお目にかけたい
360	234	葉書	掛川長平から原民喜あて	昭和23年11月7日消印	御葉書有難う存じました。私の作品のやうなもので・私の作品が役に立つのなら又書きたい
361	235	葉書	掛川長平から原民喜あて	(昭和23年)12月14日消印	御無沙汰致しました。年の瀬も迫って参りましたが、・「夏の花」の水上演賞受賞のお祝い
362	236	葉書	掛川長平から原民喜あて	昭和24年1月4日消印	三田文学に原稿のおすすめを頂き有難う存じました。・送った原稿は別に考えている作品の一部に挿入されるものです
363	233	葉書	掛川長平から原民喜あて	昭和24年9月13日消印	御葉書有難う存じました。三田文学を送って頂き・三田文学9月号休刊と聞いて作品をお送りしたい・作品を書くにも、6月の盲腸手術後から体調が悪くていけない
364	698	封書	掛川長平から原民喜あて	年未詳2月7日記	原民喜様 久しぶりで作品が纏まりました。・私小説を書いた・三田文学への発表依頼・400字詰原稿用紙・転送符付
365	699	(封書)	掛川長平から原民喜あて	年月日未詳	新年お目出度う存じます。・「高原」の組織制度を変更、力添えを依頼・「高原」3、5集拙作をよんで御高評してほしい・封筒無し
366	700	(封書)	掛川長平から原民喜あて	年月7月15日	初めて御便り申し上げます。・「高原」3集への原稿受取る、5集へも原稿依頼・鳳文書林から創作集を出す意向はないか・「科学世界」編集部用200字詰原稿用紙使用、封筒なし
367	697	封書	梶山季之から原民喜あて	昭和25年7月10日消印	暦も汗ばみはじめる七月が訪れて参りました。・広島文学研究グループから郷土作家として同人雑誌への原稿執筆依頼・400字詰原稿用紙・転送符付
368	157	葉書	天邪鬼編集室(梶山季之)から原民喜あて	昭和26年1月1日消印	昨年は色々有難う存じました・新年の挨拶・お年玉くじ付年賀はがき
369	701	封書	桂芳久から原民喜あて	昭和25年5月28日記	前略、先日水曜会の時にお世話になりました広島出身の・自己紹介・指導依頼・転送符付
370	702	封書	桂芳久から原民喜あて	昭和25年8月30日記	広島に帰省致しましてから御無沙汰致しました事をお許し下さい。・中国新聞で8月6日の回想を読んだ・原爆について
371	237	葉書	桂芳久から原民喜あて	昭和26年1月1日消印	文にて新年の御慶びを申し上げます・お年玉くじ付年賀はがき
372	241	葉書	加藤道夫から原民喜あて	昭和22年5月19日消印	お葉書拝見しました。三月下旬以来健康勝れず・マラリヤに悩まされ病臥・今月中に引越しをしなければならなくなったので、原稿の期日を延ばしてほしい。・プレスコード検印有

373	242	葉書	加藤道夫から原民喜あて	昭和22年7月5日消印	<三田文学>頂戴致しました。僕の文章がのつてみたので、びつくりしました。・先秋の十月にかいた<思想座>は<麥の会>と改名。すでに<思想座>は存在しないので次号の後期にでも訂正してください。・プレスコード検印有
374	243	葉書	加藤道夫から原民喜あて	昭和22年8月30日消印	お葉書拝見しました。思想座取消の件・思想座取消の件、ご迷惑おかけしました。・新劇時評かけたらお送りします。・プレスコード検印有
375	244	葉書	加藤道夫から原民喜あて	昭和23年1月19日消印	気管支カタルで一週間ばかり寝込んでしまひ、十七日の会・17日の会の欠席のお詫び。・彫刻家建島寛造の詩三篇持っています
376	696	封書	加藤道夫から原民喜あて	昭和23年12月10日消印	御無沙汰致して居ります。先日、岩崎良三先生より伺ひましたが。・阿部さんへのお礼の伝言。・今月の下旬には退院して自宅療養の予定
377	703	封書	金井利博から原民喜あて	昭和25年5月18日記	おはがき有難く拝見。新聞は発送が少し遅れまして。・「永遠のみどり」を平和祭前後の中国新聞紙上に掲載させてほしい。・河本英三君のこと。・中国新聞社用箋、封筒使用
378	704	封書	金澤夔(秋田文学)から原民喜あて	昭和23年3月19日記	突然このような御手紙差しあげますこと、何卒御許し下さい。・自己紹介。・「秋田文学」編集指導依頼。・慶応義塾大学400字詰原稿用紙
379	705	封書	金澤夔から原民喜あて	昭和23年5月14日記	原民喜様 拝啓、御無沙汰致してをります。・葉書のお礼。・秋田文学第3号謹呈
380	706	封書	金澤夔から原民喜あて	昭和24年2月21日記	御無沙汰致してをります。その後御変りなく。・「三田文学」2月号受取る。・原稿の採否と返送依頼。・3月20日頃上京予定。・プレスコード検印、開封シール有
381	238	葉書	金沢夔(秋田文学)から原民喜あて	昭和25年1月29日記	ご無沙汰致しております拙作「嘔吐」について。・拙作「嘔吐」について採否、返送して欲しい。・転送符付
382	707	封書	金澤夔から原民喜あて	昭和25年2月27日記	何度も催促がましいお便り差しあげ、恐縮に存じております。・原稿「嘔吐」の採否と返送依頼。・一枚目の裏に民喜の(返事)下書きあり。・200字詰原稿用紙。・転送符付
383	239	葉書	金沢夔から原民喜あて	昭和25年8月6日記	御手紙拝見致しました。いろいろと御手数おかけ致し。・原稿が返送されました。・迷惑をかけたのでは?。・往復はがき(往信)
384	240	葉書	金沢夔から原民喜あて	昭和26年1月1日記	謹賀新春。・お年玉くじ付年賀はがき
385	245	葉書	加宮貴一から原民喜あて	昭和22年12月20日記	過日は、「三田」新春の随筆についてお手紙いただき。・随筆の依頼を承諾
386	248	葉書	唐川富夫から原民喜あて	昭和26年1月1日記	頌春 御多幸を祈りつつ。・お年玉くじ付年賀はがき
387	246	葉書	唐川富夫から原民喜あて	昭和24年12月31日消印	一九五〇年 賀正 今年もどうぞよろしく。・年賀状
388	708	封書	唐川富夫から原民喜あて	昭和25年10月19日記	原民喜様 群像 11月号にて貴兄の作品「火の子供」といふのを読みました。・「火の子供」に心打たれた。・夏に上京して佐々木さんに対面した

389	247	葉書	唐川富夫から原民喜あて	(昭和 25 年)4 月 3 日記	最近群像誌上で貴兄の“美しき死の岸口”といふ作品をよみ大さう心打たれました。・群像四月号のなかでこれほどぴったりと僕の心に迫ってくる作品を他に見ることは出来ませんでした。・近々短編集を送ります
390	249	葉書	河上徹太郎から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 2 日消印	拝啓、御近著「焰」御送恵に与り、・「焰」のお礼・白水社受付印有
391	251	葉書	木村庄三郎から原民喜あて	昭和 22 年 12 月 2 日記	拝復お手紙ありがたく拝見いたしました。・原稿は期日までに送ります
392	250	葉書	木村武雄(読売新聞社調査部)から原民喜あて	昭和 10 年 5 月 16 日記	お写真ありがとうございますに拝借しました・写真を受取った・略歴を送って欲しい・往復はがき(往信)
393	252	葉書	近代文学社から原民喜あて	昭和 25 年 12 月 27 日消印	左記の要項により「近代文学」の同人懇談会を・同人懇談会の案内
394	257	葉書	近代文学社から原民喜あて	昭和 26 年 2 月 15 日記	拝啓 同人諸兄の御清栄を喜び申し上げます。・近代文学(10~12 月号)休刊・4 月号でアンケート掲載のため、質問に答えてください・往復はがき(往信)
395	253	葉書	近代文学同人会から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 26 日消印	お寒い毎日でございますが、如何お過ごしいらっしゃいますか・同人懇談会の案内
396	255	葉書	近代文学同人会から原民喜あて	昭和 23 年 11 月 25 日消印	大分お寒くなつて参りました。漸く・埴谷雄男「死霊」の出版記念会の案内状
397	256	葉書	近代文学同人会から原民喜あて	昭和 25 年 4 月 6 日消印	前略、左記の通り「近代文学」三、四月合併号の・「近代文学」の合評会のお知らせ
398	710	封書	草野心平から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 14 日記	原民喜様 心平拝 ゆふべ帰ってきて御手紙拝見いたしました。・原稿の件承知しました。・長さんの本をいいものにしたい・400 字詰原稿用紙、文学界社の封筒使用
399	711	封書	草野心平から原民喜あて	昭和 23 年 5 月 6 日記	原民喜様 心平 おハガキ拝見して書きましたが、とても駄目なのでお送り・原稿をお送りするが、愚作のため、稿料不要・速達
400	258	葉書	草野心平から原民喜あて	昭和 23 年 6 月 17 日記	おハガキ拝見いたしました。どうも困つてしまひました。・他人の原稿のような気持ちで目をつぶってお任せする
401	259	葉書	草野心平から原民喜あて	昭和 23 年 9 月 28 日記	御作いただきました。美しい作品で・作品(原稿)を受取りました・「歷程」第 7 号に掲載します
402	709	封書	玖島一郎から原民喜あて	昭和 25 年 7 月 13 日記	原先生 突然見も知らぬ者から手紙をお受け取りに・「アカシア」復刊号が連合軍の検閲で焼かれた・附属高文芸雑誌への寄稿依頼(広島高等師範学校附属高校の文芸班から)
403	712	封書	楠家正昭から原民喜あて	昭和 26 年 2 月 8 日記	突然お便差上げる罪御許し下さい。・「魔のひととき」に感動、弟子にしてほしい・「夏の花」の発行所を教えてください・400 字詰原稿用紙
404	713	(封書)	熊平清一から原民喜あて	(昭和 20 年)10 月 31 日記	御手紙有難う御座いました。貴兄も御無事とのことを弟から・貴兄もご無事で何よりです・被爆後の近況報告・熊平商店用箋、封筒無し

405	260	葉書	熊平清一から原民喜あて	昭和21年12月23日 消印	御無沙汰してゐます。先日は「三田文学」を有難う御座いました。・三田文学のお礼、感想・資料番号261とほぼ同内容、同文章
406	261	葉書	熊平清一から原民喜あて	(昭和21年12月23日)	御無沙汰してゐます。過日は「三田文学」御送り下すって・「三田文学」のお礼・資料番号260とほぼ同内容、同文章
407	262	葉書	熊平清一から原民喜あて	昭和22年1月18日 消印	先日は態々御来しでしたのに失礼しました。・広島に帰られたのにお会いできず残念
408	263	葉書	安芸清一郎(熊平清一)から原民喜あて	昭和23年2月21日 消印	御無沙汰してゐます。毎度雑誌・雑誌のお礼・正月に帰広されたと思ひ職町まで行った
409	264	葉書	熊平清一から原民喜あて	昭和23年7月21日 消印	御端書有難う御座いました。又先月は・「三田文学」と「晩夏」のお礼・作品を送りたいと思うので批評を願う
410	265	葉書	熊平清一から原民喜あて	昭和23年10月15日 消印	雑誌御恵贈有難う御座いました。着々と・雑誌受け取りのお礼・戦後の作品を読み始める、その感想
411	266	葉書	熊平清一から原民喜あて	昭和23年12月25日 消印	御元気ですか。水上賞受賞の新聞を見ました。・水上賞受賞のお祝い
412	267	葉書	熊平清一から原民喜あて	昭和24年1月17日 消印	御盛況を御祝いします。・上京予定・牡蠣を送りました
413	268	葉書	熊平清一から原民喜あて	昭和24年2月2日消 印	先日は失礼しました。・会って話が出来て嬉しかった・作品もまた見て欲しい
414	714	封書	熊平清一から原民喜あて	昭和24年2月26日 消印	御端書拝見。あれから三日程居り・無事に帰広・拙作に対する批評や掲載は有難い
415	269	葉書	熊平清一から原民喜あて	昭和24年3月15日 消印	先日は失礼しました。八日夜お訪ねする積りでしたが、・「夏の花」拝受・自作の原稿「お七」の訂正依頼・往復はがき(返信)
416	270	葉書	熊平清一から原民喜あて	昭和24年11月7日 記	御無沙汰してゐます。続々と諸作御発表・一両日に上京予定、会いたいので電話します
417	271	葉書	熊平清一から原民喜あて	昭和25年3月29日 消印	その後如何ですか。先月上京の際は・先月状況の際に、お会いできず残念・4月のペンクラブでお会いしたい
418	272	葉書	熊平武二から原民喜あて	昭和20年11月5日 消印	いつか君の兄さんに会って健在を知り喜んだ・兄あての手紙受取る・広島在住の友人(木下、岡田、末田)の近況
419	273	葉書	熊平武二から原民喜あて	昭和22年6月17日 消印	御元気の様子、大慶・中井正文君に六語句記の事を依頼しておいた・広島もぼちぼち復興して行きます
420	274	葉書	熊平武二から原民喜あて	昭和23年5月22日 消印	冠省「三田文学」五月号只今拝受・「三田文学」5月号のお礼・広島土地の件はどうなったか
421	275	葉書	熊平武二から原民喜あて	昭和23年8月7日消 印	毎々乍ら三田文学を有難う、・三田文学7月号の君の短文を読んだ。君らしい。「母音」についての感想
422	715	封書	熊平武二から原民喜あて	年未詳7月9日記	只今「夏の花」拝受。誠に有難い・「夏の花」のお礼・「群像」8月号に載る作品を楽しみにしている。・400字詰原稿用紙
423	276	葉書	倉島竹二郎から原民喜あて	年未詳5月17日記	お手紙有難うございます。・三田文学も諸兄のお力で前途洋洋たるものと喜んでいきます・そのうち何か書かせていただきます

424	670	(封書)	栗井家男から原民喜あて	年未詳 3月27日記	謹啓 別便で拙著一部お贈りいたしましたから何卒御覧下さいませ。・別便で本を送付・自己紹介・暁書房用箋、封筒無し
425	1413	空封筒	慶応義塾から原民喜あて	昭和26年1月16日消印	速達(料金別納)
426	277	葉書	小池吉昌から原民喜あて	昭和22年1月28日記	ご返信ありがたく拝見しました。「日本抒情主義」発刊の節はご援助下さい。・東京が恋しい
427	278	葉書	小池吉昌から原民喜あて	昭和22年7月22日記	啓。その後随分御無沙汰いたしました。・「新浪漫派」詩稿展があるので詩一篇を送付依頼。・以前送った拙作はどうなりましたか?・「新浪漫派」(日本抒情主義改題)は秋に刊行されます。・転送符付
428	279	葉書	小池吉昌から原民喜あて	(昭和22年)8月10日記	おはがき拝見しました。小生唯今忙しい日々を送っております。・6日午前男児が生まれ、貞美と命名。・新人の原稿を喜んで載せるのでご紹介下さい
429	280	葉書	小池吉昌から原民喜あて	昭和22年8月18日記	山本、長両氏の詩稿拝受いたしました。・山本、長の作品は「新浪漫派」冬季号(第2号)に載せたい。・プレスコード検印有
430	281	葉書	小池吉昌から原民喜あて	昭和22年12月19日記	啓上。先日お送りいたしました拙稿。・拙稿「詩人の誠実に就く」はいかがですか。「三田文学」十二号を送って欲しい。・俳句2句あり。・本尊名号の絵はがき
431	716	(封書)	小池吉昌から原民喜あて	年未詳 1月14日記	原民喜様。はじめて御たよりを差し上げます。・「日本抒情主義」発行予定。・同封した詩稿のご高評を請う。・200字詰原稿用紙、封筒無し
432	282	葉書	小泉哲也から原民喜あて	昭和22年12月1日消印	ざくろ叢書の件折口先生と戸板さんにお会いして確めましたところ。・ざくろ叢書の件、折口先生と、戸板さんの意向。・12月6日に水上滝太郎講演会への誘い
433	283	葉書	小泉哲也から原民喜あて	昭和22年12月31日記	転居の御通知御丁寧には有難うございました。・転居通知のお礼。・近況報告
434	284	葉書	小泉哲也から原民喜あて	(昭和23年)6月11日記	御葉書拝見いたしました。古代文学序説を書評していただけるさうで。・古代文学序説の書評のお礼。・「晩夏」2号で詩3篇拝見
435	725	封書	小泉哲也から原民喜あて	昭和23年7月7日記	先日は失礼致しました。書評といふお話がございましたが。・批評家、詩壇について。・三田文学6月号の丸岡、鈴木、藤島作品について。・詩稿「声」「花」。・400字詰原稿用紙
436	285	葉書	小泉哲也から原民喜あて	昭和23年7月21日記	スターンの感情旅行を織田正信訳の「風流漂泊」といふ本で。・今読んでいる本の話。・大手拓次の書評を書き上げたので送りました
437	717	(封書)	小泉哲也から原民喜あて	(昭和23年)8月20日記	今月の雑誌で三つの作品―「飢え」「朝の磔」「画集」を拝見した。・「文芸詩論」創刊号の構成について。・好学社200字詰原稿用紙、封筒無し
438	718	(封書)	小泉哲也から原民喜あて	昭和23年12月31日記	海ならば右岸の街は蛇の骨骸のように曲がりくねって。・新年挨拶。・習作二篇同封。・200字詰原稿用紙、封筒無し
439	724	封書	小泉哲也から原民喜あて	昭和24年1月日未詳	《渴き》の使徒 その孤絶の瞳は《異神》の祭壇に跪づく古代の処女の。・「乾き」の使途の原稿。・200字詰原稿用紙

440	719	封書	小泉哲也から原民喜あて	昭和25年2月5日記	数日前、共同通信の小鳩のところで「山本健吉氏へおくる手紙」を拝見した。以前に書いたものだが、小文を送ります。・200字詰原稿用紙・昭和24年12月10日日本大学新聞同封
441	720	(封書)	小泉哲也から原民喜あて	年未詳11月8日記	十月十七日付の御葉書編集部の末松様から・近況報告・三田文学や出版事情について・好学社200字詰原稿用紙、封筒無し
442	721	封書	小泉哲也から原民喜あて	年未詳7月12日記	御意見有難く拝見致しました。・詩集について・最近読んでいる本について・小田原の「自由詩人」という同人誌に小作品を出す事に
443	722	(封書)	小泉哲也から原民喜あて	年未詳10月7日記	六号記の原稿を御覧に入れます よろしく御願ひ致します。・六号記の原稿を送ります。・三田演説館で鏡花遺品展覧会を開きます。・200字詰原稿用紙、封筒無し
444	723	(封書)	小泉哲也から原民喜あて	未詳年11月18日記	“近代文学ノート”及び“諷刺と喜劇”に就いて・「近代文学ノート」をかいた。・芸術論「音楽爆弾」を含む。・200字詰原稿用紙、封筒無し
445	726	封書	小泉哲也から原民喜あて	年月日未詳	小品一篇おくりします。・小品一編を同封、以前見ていただいた「花」(資料番号725)の続き。・詩稿「鍵」・400字詰原稿用紙
446	727	封書	小泉哲也から原民喜あて	年月未詳21日消印	先日は失礼致しました。・詩稿「舞踏歌」と「かもめ」送る。・200字詰、400字詰原稿用紙
447	287	葉書	河内潔士から原民喜あて	(昭和22年)7月18日消印	合掌、御健筆およろこび申し上げます。・「文祭」第3号別便にて送付。・当地は温泉地なので遊びに来てください
448	286	葉書	河内潔士から原民喜あて	昭和22年8月1日消印	合掌、暑いですね。このごろは、夜になるのを待つて原稿書いてます。・小説を書いたので見ていただきたい。・「詩風土」で貴兄の詩を拝見、もしよかつたら、「文祭」第4号に詩を一篇寄せてください
449	288	葉書	河内潔士から原民喜あて	(昭和24年)月未詳24日消印	御無沙汰いたしてをります。御健筆にて結構であります。・水上賞受賞のお祝い
450	730	(封書)	河内潔士から原民喜あて	年未詳5月24日記	合掌 御無沙汰いたしてをります。引越しやら。・原稿を同封。・200字詰原稿用紙、封筒無し
451	731	(封書)	河内潔士から原民喜あて	年未詳8月30日記	合掌 先日御高評いただくべく貧稿一篇。・長光太氏の詩は第五号にいただきます。・三田文学を勝手に宣伝した。・和紙、封筒無し
452	289	葉書	河内武一から原民喜あて	昭和23年2月25日消印	冠省 御端書読みました。有難う御座いました。・葉書を読んで励まされ、再び書く意欲が湧いてきた。・短い作品でも書けたらお送りします
453	290	葉書	河内武一から原民喜あて	昭和23年7月3日消印	御葉書有難う御座居ました。御多忙のところいろいろと。・暑いのであまり筆が進みません。勉強していきたいのでご教示ください
454	291	葉書	河内武一から原民喜あて	昭和23年11月28日消印	雑誌十一月号いたすべきました。御厚意身にしてみても有難く。・雑誌十一月号のお礼。・一日一枚でも書いていきたい

455	292	葉書	河内武一から原民喜あて	(昭和23年12月)12日消印	拝啓 御葉書有難う御座いました。・“保菌者”についてのお詫び・正月過ぎまでになんとか短編をまとめる
456	293	葉書	河内武一から原民喜あて	昭和24年6月12日消印	前略 三田文学六号いたゞきました。・三田文学のお礼・先日送った「帽子」は欠点ばかりがきにかかる、申し訳ない
457	294	葉書	河内武一から原民喜あて	昭和24年月未詳24日消印	お端書ありがたう御座居ました。・群像の件拝読した・原稿を書いていないお詫び
458	295	葉書	河内武一から原民喜あて	昭和26年1月1日記	謹んで新年の御祝詞を申し上げます・お年玉くじ付年賀はがき
459	732	(封書)	河内武一から原民喜あて	年未詳6月26日記	前略先日は御手紙有難う御座いました。・書き直して別便で送ります。・新しい小説を書き始めた・400字詰原稿用紙、封筒無し
460	1414	空封筒	京橋書院気付「五月の花」出版記念会幹事から原民喜あて	年月日未詳	料金別納
461	303	葉書	国際タイムス社文化部から原民喜あて	昭和23年10月9日記	お葉書拝見いたしました。お申越の件、・原稿料督促に対する返事・もうしばらくお待ち下さい
462	296	葉書	小島政二郎から原民喜あて	昭和23年7月16日記	おハガキ拝見、水木の追悼文執筆のこと拝承・水木京太の追悼文執筆了承
463	749	封書	事代堂義一から原民喜あて	(昭和21年)7月30日記	拝復 七月三十日附御芳墨正に夢・近況報告・短歌2句・和紙
464	746	封書	事代堂義一から原民喜あて	昭和22年2月5日記	拝復 年頭御挨拶誠に・近代文学の「猿」について・短歌三句・書二枚(喰露耕雲)(酒僊飄逸)落款あり・和紙
465	747	封書	事代堂義一から原民喜あて	昭和23年1月11日記	廃墟から 読後感 事代堂義一・三田文学受け取りのお礼・「廃墟」夏の花を再読、感想・400字詰原稿用紙
466	748	封書	事代堂義一から原民喜あて	昭和24年3月10日記	拝啓 益々御健勝に・夏の花の礼状・書「臨事無疑」同封、落款あり・和紙・プレスコード検印有
467	729	封書	小埜学(時信文化部)から原民喜あて	昭和25年12月26日記	十二月二十六日記 その後もお元気にお過しのこと、推察申し上げております・先日受取った原稿を返送したお詫び・共同通信社200字詰原稿用紙、封筒
468	728	封書	小宅重光から原民喜あて	昭和10年5月11日消印	「焔」を實に面白く読ませて頂きました。・「焔」を拝見して万歳と叫びたくなった・「父の生んだ赤ん坊」「飯田橋駅」がとりわけ好きであった
469	304	葉書	坂井艶司から原民喜あて	昭和25年12月13日	前略、御清硯のことゝ存じます。・牧章造氏より原稿届いた・「歷程」の御作を拝見。小誌「岬」へもご支援下さい
470	305	葉書	坂井艶司から原民喜あて	昭和26年1月1日記	賀正「岬」への御厚情深謝致して居ります。・お年玉くじ付年賀はがき
471	306	葉書	榊山潤から原民喜あて	昭和10年4月4日記	拝復、御著書「焔」昨日拝受誠に有難う存じました・「焔」のお礼
472	742	封書	坂部通男から原民喜あて	昭和21年9月16日記	拝復 御丁寧な御ハガキ有難く拝読いたしました。・三田文学へ詩「輪廻」「少年期」を推薦してもらったお礼・「小さな庭」を拝読し、ただただ心を打たれました・B4和紙
473	1415	空封筒	坂部通男から原民喜あて	昭和22年1月1日記	

474	743	封書	坂部通男から原民喜あて	昭和 22 年 4 月 20 日記	拝啓 永らく御無沙汰致し居り申訳なく存じて居ります。・三田文学 9 号、稿料のお礼・短歌春五句
475	307	葉書	坂部通男から原民喜あて	昭和 23 年 1 月 1 日記	賀正 二十七日附おハガキ拝見いたしました。・依頼の件、見つからないが、見つかり次第速報する・年賀状
476	314	葉書	作品社から原民喜あて	昭和 10 年 3 月 30 日消印	拝復 どうか御遠慮なく御利用下さい。・料金について一頁十五円・往復はがき(返信)
477	315	葉書	作品社から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 2 日消印	冠省、広告料及び広告原稿たしかに頂戴いたしました。・広告料、原稿は受取りました・「焰」という字の印刷について
478	744	(封書)	櫻井増雄から原民喜あて	昭和 22 年 12 月 29 日記	拝啓 先日、「三田文学」十二号ありがとうございました。・「夏の花」「廃墟」の感想・新生日本文学社の 400 字詰原稿用紙、封筒無し
479	745	封書	櫻井増雄から原民喜あて	昭和 23 年 1 月 20 日記	お便りならびに先日は「三田文学」第十三号をありがとうございました。・遠藤氏の「カトリック作家問題」にも教えられるところが多い・真性日本文学社 400 字詰原稿用紙
480	308	葉書	佐々木茂索から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 3 日記	拝復高著焰・「焰」のお礼・絵はがき
481	733	封書	佐藤静江から原民喜あて	昭和 24 年 9 月 19 日記	渾然たる千々の営みの交響楽を沁み通る心でじつと聞きました。・群像の「鎮魂歌」に感銘・東京石灰工業株式会社用箋(裏も使用)、封筒・転送符付
482	734	封書	佐藤静江から原民喜あて	昭和 24 年 10 月 19 日消印	数ならぬ私の拙い手紙の御返事など、とても考へてなど・返事のお礼・「人はそれぞれ心の重荷を背負って生きている」のお言葉を励みにします・東京石灰工業株式会社用箋
483	309	葉書	佐藤静江から原民喜あて	昭和 25 年 1 月 6 日消印	新年おめでとう存じます・お年玉くじ付年賀はがき
484	735	封書	佐藤静江から原民喜あて	昭和 25 年 3 月 27 日消印	喰い入る様な魂のかなしさが突刺される痛みと・「美しき死の岸に」の感想・近況報告
485	739	封書	佐藤静江から原民喜あて	昭和 25 年 4 月 22 日消印	あんなにも突然お訪ね致しまして失礼の数々・突然の訪問のお詫び
486	736	封書	佐藤静江から原民喜あて	昭和 25 年 6 月 2 日消印	私の降りる駅のそばの書店でマルテの手記の有無を確かめに・手紙の礼状、思いがけず返事をもらって嬉しい・日計表の裏使用
487	737	封書	佐藤静江から原民喜あて	昭和 25 年 7 月 12 日消印	一寸も陽にやけない青白い顔が玄関に出になつた時・先日の訪問のお詫び・カタカナの詩 22 行
488	738	封書	佐藤静江から原民喜あて	昭和 25 年 8 月 5 日記	お暑さの折お元気で過ごしの事と存じます。・「ガリバー旅行記」の原稿はどうになりましたか・近況報告
489	740	封書	佐藤静江から原民喜あて	(昭和 25 年)10 月 23 日記	御手紙書く事もお訪ねする事も断念したわけではございませんが・「火の子供」の中の原様のお気持ちが分るような気がします・私は原様から何かをつかむ迄お訪ねする事を続けたいと思います
490	310	葉書	佐藤静江から原民喜あて	昭和 26 日 1 月 1 日記	新年の御祝い申し上げます・お年玉くじ付年賀はがき
491	312	葉書	佐藤静夫(新日本文学会書記局)から原民喜	(昭和 25 年)月日未詳	本日「夏の花」一冊たしかに頂きました。・「夏の花」のお礼

			あて		
492	311	葉書	佐藤信孝から原民喜あて	(昭和23年)10月8日 消印	只今のところ毎夜停電にて、いつ・毎晩停電が続いているので、原稿の期日をはっきり申し上げかねる
493	741	封書	佐藤春夫から原民喜あて	昭和24年7月20日 記	啓 先日は失敬その節お申しつけの詩一篇・詩を一篇送付・小生の詩は転換期にあるらしく、どう変わるのか見当がつかない・400字詰原稿用紙
494	313	葉書	猿谷啓から原民喜あて	昭和25年5月25日 消印	拝啓 私達早稲田文学十四人会の者達が何とかより遅しく・早稲田大学十四人会が「流」第3号を発刊・送付したので批評お願いします
495	316	葉書	産業経済新聞社大阪新聞社文化部から原民喜あて	昭和26年1月1日 記	新年おめでとうございます。・お年玉くじ付年賀はがき・資料番号317と同じもの武蔵野市吉祥寺あて
496	317	葉書	産業経済新聞社大阪新聞社文化部から原民喜あて	昭和26年1月1日 記	新年おめでとうございます。・お年玉くじ付年賀はがき・資料番号316と同じもの神田区神保町あて
497	318	葉書	宍戸貫一郎から原民喜あて	昭和22年5月24日 消印	御ハガキ有難う存じました。御たづねの「山霧」について―「山霧」に出ている漢字の読み方について・平田次郎の現住所を教えてください・プレスコード検印有
498	319	葉書	宍戸貫一郎から原民喜あて	昭和22年11月10日 消印	啓、長いこと御無沙汰しました。いろいろの誌で・間宮氏とはご関係があるようですね・仕事の都合で転居・転送符付
499	320	葉書	宍戸貫一郎から原民喜あて	昭和23年1月15日 消印	明けましておめでとう存じます。先達は足利の方へ・新年の挨拶・東京から足利まで2時間の距離なので越して来られてはいかがか
500	321	葉書	宍戸貫一郎から原民喜あて	昭和23年1月31日 消印	御ハガキ拝見しました。足利の方は、渡部氏の処の新しい事務員が・家で困っているようでしたら、足利にこられませんか・稿料のお礼
501	322	葉書	宍戸貫一郎から原民喜あて	昭和23年月未詳23日 消印	啓、「三田文学」先日宇都宮の書店で拝見しました。「三田文学」を拝見、お世辞でなく、見事だった・小説「義妹の場合」四十七枚を別便にて送付・「三田文学」に不向きなら「高原」にでも紹介してください
502	323	葉書	宍戸貫一郎から原民喜あて	昭和24年2月10日 消印	啓、大変ごぶさたして居ります。色々の雑誌で・家の関係で今のところ、家族と別居・今月末には家が出来るので栃木から引き上げる予定
503	324	葉書	柴田連三郎から原民喜あて	(昭和22年)10月17日 記	短編承知しました・短編承知しました。・今月末にお届け予定
504	339	葉書	思文閣から原民喜あて	昭和24年12月29日 消印	毎月古書資料もくろくを発行して居ります・古書案内広告・お年玉くじ付年賀はがき
505	328	葉書	十一日会から原民喜あて	(昭和25年)6月7日 消印	十一日会御案内(第三回)十一日会懇談会を左記の通り開催いたします・十一日会の案内
506	340	葉書	自由国民社編集局から原民喜あて	昭和25年2月23日 消印	ソヴェトに就いて何を訊きたいか。・ソヴェトに就いてのアンケート・往復はがき、返信せず
507	750	封書	庄司総一から原民喜あて	昭和22年7月18日 記	ただいまご親切な御手紙とてもうれしく拝見・文芸叢書の企画に入れていただいたお礼・プレスコード検印、開封シール有

508	325	葉書	庄司総一から原民喜あて	昭和22年11月27日記	冠省 三田文学明春随筆特集号を御出しになる由・原稿依頼承諾・70銭の未納不足印有
509	751	封書	庄司総一から原民喜あて	昭和23年12月28日記	今年もあと二、三日で終ろうとしています。・水上賞受賞のお祝い・約束のエッセイ「役人について」を送る・400字詰原稿用紙
510	326	葉書	庄司総一から原民喜あて	昭和24年12月29日消印	冠省、本年も余すところ三日になりました。・貸間の件、なかなか見つからない
511	327	葉書	庄司総一から原民喜あて	(昭和25年)5月5日消印	御元気ですか 昨日御訪ねしましたが御留守で残念でした・十一日会を午後五時から開催・"ガリバー"の原本持っています 必要ならばお貸します
512	752	(封書)	庄司総一から原民喜あて	年未詳3月12日記	このたびは私にまで御本御贈呈下さって有難度う存じました。「夏の花」を送ってもらったお礼・ノート紙、封筒無し
513	329	葉書	庄野誠一(養徳社)から原民喜あて	昭和23年5月8日消印	拝復 過日は失礼いたしました 其の後・身辺多事の為原稿執筆を断わる
514	330	葉書	白井浩司から原民喜あて	(昭和22年)1月28日記	冠省。御手紙拝見致しました。当然御協力すべき《義務》がある・原稿依頼の返事・プレスコード検印有
515	331	葉書	白井浩司から原民喜あて	昭和23年10月5日記	前略 原稿の件、承知致しました。・原稿依頼承知・先日の会合に出席できなかったので次は出席したい
516	332	葉書	白井浩司から原民喜あて	昭和25年10月2日消印	お元気でいらっしゃいますか。じつは突然ですが・「改造」の古山登が原稿を所望、送って欲しい
517	753	(封書)	白井浩司から原民喜あて	年月日未詳	原民喜様 大変おそくなりました。申わけありません。・8月の三田文学の会は欠席・稿料受け取りのお礼・200字詰原稿用紙、封筒無し
518	334	葉書	神西清から原民喜あて	(昭和21年)12月27日消印	先日御送附のお原稿たしかに拝受いたしました。・原稿受取る・「四季」の月間の日取りが守れないので来春くらいから月刊にしたい
519	333	葉書	神西清から原民喜あて	昭和22年6月5日記	御はがき拝見、「四季」のIVよろこんで頂けたらしく・「四季」IV喜んでもらえて嬉しい・季刊で出したい
520	335	葉書	新藤千恵から原民喜あて	昭和21年10月25日消印	拝復。お返事が遅れて申し訳ありません。・原稿採用に対する返事
521	336	葉書	新藤千恵から原民喜あて	昭和23年9月16日消印	前略、「夢について」のエッセイたうたう期日をすぎても書けなくて誠に・「夢について」のエッセイを書けなかったお詫び・速達
522	337	葉書	新藤千恵から原民喜あて	昭和24年7月19日消印	御手紙ありがたう存じました。たいへん御無沙汰で・原稿依頼の承諾
523	338	葉書	新藤千恵から原民喜あて	昭和25年5月17日消印	其後御健筆のことへ存じあげます。・昨年は怠けたので今年は良い仕事をしたい。・「高橋新吉の詩集」の感想も書きたいものの一つ
524	754	(封書)	新藤千穂から原民喜あて	年月日未詳	原民喜様 現代詩人集に加えて頂くにはあまりに粗末、・「現代詩人集」に掲載していただくには、粗末ですが、送付します。・400字詰原稿用紙、封筒無し
525	341	葉書	末松美子から原民喜あて	昭和22年4月27日消印	御機嫌よろしうお過しの御事と存じ上げます。・消息欄にの事などについてお願い・紅茶会を近日開きたい

526	342	葉書	末松美子から原民喜あて	昭和22年12月15日記	お寒さ厳しうございます。実は本日文芸家協会から電話あり・文芸家協会から電話があり、創作傑作特集号に「夏の花」が乗ることになった、ぜひ承諾得たい
527	343	葉書	末松美子から原民喜あて	昭和25年2月14日記	その後は御無沙汰申し上げまして・群像の小説が書きあがったと聞いた・神田へも来て下さい、写真をお渡ししたい
528	756	封書	末松美子から原民喜あて	昭和26年1月5日記	新年のおよろこび申し上げます。・新年の挨拶・水曜会(10日)について・能楽書林用箋、封筒
529	757	封書	杉岡照夫(「文学会議」編集部)から原民喜あて	昭和23年12月16日記	拝啓 御筆硯益々御清穆の段欣快至極に存上ます・50枚の小説依頼・創作代表選集の謝礼・和紙2枚・速達
530	758	(封書)	杉岡照夫から原民喜あて	年未詳12月24日記	冠省御芳稿有難く拝誦いたしました。・預かった原稿が当局でうまくおればいいが・作品「詮衡」について・日本文学振興会用箋、封筒無し
531	759	封書	杉村友一(文学界)から原民喜あて	昭和25年7月20日消印	前略 先日は御手数をかけ、申しわけありませんでした。・先日のお詫び・「文学界」に30枚の小説依頼・文が途中で終わっている(2枚目から紛失?)・文芸春秋用箋
532	344	葉書	杉山平助から原民喜あて	昭和10年4月8日消印	「焰」有難く落手・「焰」の礼状
533	351	葉書	鈴木重雄から原民喜あて	昭和23年10月15日消印	新年号の原稿の件、間違いなく承知して居ります。・新年号原稿の件・「個性」の原稿執筆中なので、間に合わなければ、旧作になります
534	355	葉書	鈴木茂三郎から原民喜あて	昭和26年1月1日記	新年おめでたうございます。・お年玉くじ付年賀はがき
535	353	葉書	鈴木信太郎から原民喜あて	(昭和23年)12月4日記	御便り有難う存じます。・慶応義塾の焼跡スケッチの件承知しました
536	352	葉書	鈴木信太郎から原民喜あて	昭和24年2月24日記	おくれてすみませんでした。・遅れたお詫び・三田文学表紙の件・鈴木信太郎「早春の海邊」の絵はがき
537	354	葉書	鈴木信太郎から原民喜あて	昭和24年5月21日記	前略 御無沙汰してゐてすみません・「三田文学」の表紙は、印刷がよく出来ている・長崎へ行くので次の原稿は長崎から送る
538	345	葉書	鈴木亨から原民喜あて	昭和22年8月11日消印	早速御返事下さつてありがたう存じました。・原稿採用についての返事・プレスコード検印有
539	349	葉書	鈴木亨から原民喜あて	昭和22年9月20日記	御葉書いただきました。・2、3日のうちに4、5枚のエッセイを送る・テーマは「詩人の在り方」
540	346	葉書	鈴木亨から原民喜あて	昭和22年9月26日消印	六号記御送りしました。五枚に入れようと苦心しましたが・6号記を発送・5枚にまとまらず6枚になった
541	760	封書	鈴木亨から原民喜あて	昭和23年3月5日記	稿料をお送り下さつてありがたう存じました。・稿料のお礼・「立原道造」の評伝を書きたい、詩の運命を考えてみたい・400字詰原稿用紙
542	347	葉書	鈴木亨から原民喜あて	昭和23年3月18日記	三田文学御送り下さつて、ありがたう存じました。・「異端について」という題で椎名麟三論を書いてみたい・20日は欠席

543	348	葉書	鈴木亨から原民喜あて	(昭和23年8月)21日 消印	「三田文学」八月号たしかに、いたゞきました。前便の号は・「三田文学」八月号受取る・「山辺は寂し」という題で津村信夫論を書いている・10月2日の会までには出来る予定
544	350	葉書	鈴木亨から原民喜あて	昭和26年1月1日記	明けましておめでとうございます・新年の挨拶と、結婚報告(島崎嶺子)
545	761	(封書)	鈴木亨から原民喜あて	年未詳8月1日記	おたより拝承しました。こんな詩しか、いま書けません。・平俗きわまりない、粗雑な詩しか書けない。だめなら返却を・電気通信工学校200字詰原稿用紙、封筒無し
546	762	(封書)	鈴木亨から原民喜あて	年月日未詳	締切におくれて申訳ありません。・締切に遅れたお詫び・新人特集号の受け取った・電気通信工学校200字詰原稿用紙、封筒無し
547	763	封書	鈴木亨から原民喜あて	年月未詳4日記	御葉書拝見しました。野間考だけにした方が、僕も扱い易い・締切までにはまともです・「高原」の掛川氏から小泉氏のことで連絡あり・電気通信工学校200字詰原稿用紙・未投函
548	764	(封書)	鈴木亨から原民喜あて	年月未詳14日記	先日は失礼いたしました。けふ、別紙のやうな葉書を友人からもらひました。・無派で文学をやりたい・封筒無し
549	755	封書	諏訪優から原民喜あて	昭和24年1月21日 消印	未知の私から突然お手紙差し上げることをおゆるし下さい。・「三田文学」の後記で野村英夫氏の死を知り悲しむ・同封の原稿「頌歌」を投稿したい・400字詰原稿用紙
550	356	葉書	諏訪優(聖家族編集部)から原民喜あて	昭和26年1月1日記	賀春・お年玉くじ付年賀はがき
551	358	葉書	青磁社から原民喜あて	昭和21年9月4日消印	拝復 新藤千恵氏の住所は・新藤千恵の住所通知
552	357	葉書	芹沢光治良から原民喜あて	昭和25年6月30日記	御作「夏の花」をありがとうございました。・「夏の花」のお礼
553	359	葉書	仙台地方貯金局から原民喜あて	昭和26年1月11日 消印	貯金通帳に利子を記入しますから通帳を御提出下さい・郵便貯金利子記帳のお知らせ・転送符付
554	364	葉書	早慶出版会自由丘支部から原民喜あて	昭和25年8月30日 消印	拝啓 貴兄にはその後益々清祥の段賀しあげます・「職域別早慶紳士録」の販売・転送符付
555	360	葉書	祖田裕子から原民喜あて	昭和25年2月23日 消印	先日はお寄り下さいまして珍しいものいろいろ頂きまして・先日は珍しいものを有難う御座いました・遠藤氏が四月に出発
556	361	葉書	祖田裕子から原民喜あて	昭和25年5月24日記	先日は御本本当に有難う御座居ました。・本のお礼・遠藤さんにお別れを言いたいので、原さんから連絡を入れてください
557	362	葉書	祖田裕子から原民喜あて	昭和25年10月12日記	お葉書ありがとうございました。・日曜日、天気がよければ訪問します
558	363	葉書	祖田裕子から原民喜あて	昭和26年1月20日 消印	新年おめでたうございます。相変らずの筆不性で御無沙汰ばかり・遠藤さんの「群像」読んでみます・新宿に転居予定
559	382	葉書	第一書房から原民喜あて	昭和10年4月5日記	拝復 御照会の『セルパン』の広告料は・『セルパン』の広告料について
560	383	葉書	高垣(主婦の友社)から原民喜あて	昭和25年9月18日記	前略、御手紙拝受いたしました。御希望の金額・ご希望の金額が用意してあります、都合のいいときに来て下さい

561	366	葉書	高島高から原民喜あて	昭和 23 年 1 月 24 日記	肅啓「三田文学」御惠贈下さり嬉しく存じました。・「三田文学」のお礼・東京時代に読んでいた
562	365	葉書	高島高から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 1 日記	新賀正 元旦・年賀状
563	367	葉書	高島高から原民喜あて	昭和 25 年 1 月 1 日記	今年も益々御健勝にて御健筆・新年の挨拶・お年玉くじ付年賀はがき
564	368	葉書	高橋誠一郎から原民喜あて	昭和 22 年 11 月 25 日記	其〇拝披〇未だ何の思付もない
565	369	葉書	瀧井孝作から原民喜あて	昭和 10 年 8 月 1 日記	先達御葉書有難存じました・転居通知
566	370	葉書	滝口修造から原民喜あて	昭和 23 年 1 月 28 日消印	拝啓三田文学並びお手紙有難く拝見いたしました・三田文学と手紙のお礼・病気がちで仕事が出来ない・西脇氏のエッセイの載っている号が欲しい・プレスコード検印有
567	371	葉書	滝野隆三から原民喜あて	昭和 13 年 1 月 1 日記	謹賀新年・年賀状
568	765	(封書)	竹越和夫から原民喜あて	昭和 22 年 2 月 20 日記	前略 立春の候益々御健筆のことと存じます。・「文学会議」季刊誌に変更・臨事増刊号に小説執筆依頼、同封葉書でお返事下さい。・日本文学振興会用箋、封筒無し
569	372	葉書	竹越和夫(日本文芸家協会)から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 28 日記	前略過日はご来訪・稿料を送っていると遅くなるのでとりに来て欲しい・プレスコード検印有
570	373	葉書	武脇藤介から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 9 日記	啓、過日は御近著「焰」の御寄贈有難くお礼を・「焰」の礼状・作文にして批評を書きたいと思っている
571	766	封書	龍野咲人から原民喜あて	(昭和 23 年)12 月 17 日記	前から手紙を差上げたいとおもつてをりました・「雲の裂け目」「画集」など好きな愛読者・山室静の友人・時間があれば 100 枚程度の小説作品を見てほしい
572	374	葉書	田中千禾夫から原民喜あて	昭和 23 年 12 月 2 日消印	拝啓前略 今月の初めこっちに転居してから今やと・転居後落ち着かず原稿がかけない・三田文学賞受賞の御祝い
573	375	葉書	谷川徹三から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 9 日記	御著「焰」いただき有難う存じました・「焰」のお礼
574	376	葉書	谷田昌平から原民喜あて	昭和 24 年 9 月 15 日記	秋風を感じられる様になり、急に涼しくなつて参りました。・文芸時評は佐藤春夫氏のロマンテック・リアリズム論をとりあげる・20 日の締め切りに間に合わなければ 1 月号に廻して欲しい
575	377	葉書	谷田昌平から原民喜あて	昭和 25 年 1 月 1 日記	明けましておめでとうございませう・年賀状・お年玉くじ付年賀はがき
576	378	葉書	谷田昌平から原民喜あて	昭和 26 年 1 月 1 日消印	昨年は御無沙汰勝で失礼いたしました。・近頃リルケを読んでいる・お年玉くじ付年賀はがき
577	379	葉書	谷田昌平から原民喜あて	昭和 26 年 1 月 5 日記	つめたい日がつづいています。その後おかわりございませんか・知人の詩雑誌「爐」に関係した・リルケノートを書き始めた、送るので読んで色々教えて欲しい
578	380	葉書	谷田昌平から原民喜あて	昭和 26 年 1 月 28 日記	一番寒い季節になりました。・リルケノートを読んでいただき感謝・ついで折にでも遠藤君の住所を知らせてください

579	381	葉書	谷田昌平から原民喜あて	昭和26年2月26日記	先だつては遠藤君の住所早速お報せ下さいましてありがとうございました。・リルケノートⅡができたので送ります・遠藤君の住所を知らせてもらったお礼
580	493	葉書	中国配電株式会社から原民喜あて	昭和22年8月15日消印	拝啓 猛暑の折柄益々御隆昌の段大慶至極に・増資新株式の案内・往復はがき(返信せず)
581	494	葉書	中国配電株式会社から原民喜あて	昭和26年1月31日記	株主総会決議御通知 拝啓 益々御隆昌の段・配当金は大阪銀行振込にて送金
582	1436	空封筒	中国配電株式会社から原民喜あて	年月日未詳	料金後納
583	767	封書	末田信夫(長光太)から原民喜あて	昭和10年4月8日消印	君から早速云って呉れたらしく今日原から本を・本を原に送ってもらったのでお礼を伝えてほしい・クラシックについて・熊平から末田あての葉書が封筒に入れられている・黎明社の封筒
584	384	葉書	末田信夫(長光太)から原民喜あて	昭和10年5月6日消印	冠省、広島へ行つて来た。十二三日程旅行した・熊平(兄)、澄田が本を欲しいといていた・熊平、澄田、長久の住所
585	385	葉書	末田信夫から原民喜あて	昭和19年1月18日記	端書を有難う、年末に戻り、・戯曲を書き上げた・近々会いたい
586	1417	空封筒	末田信夫(長光太)から原民喜あて	昭和20年9月29日記	日本映画社の封筒
587	768	封書	末田信夫から原民喜あて	昭和20年10月23日記	オ手紙アリガトオ、ボクノ手紙ハ4通力5通出シタ筈ダガ、一通モトドイテナイラシイネ・手紙のお礼・東京の様子・日本映画社用箋、封筒
588	769	封書	末田信夫から原民喜あて	昭和20年11月29日記	原君、手紙ト端書ヲ有難オ 矢張りオボツカナイ空気ダネ・「近代文学」の永井君に自分の詩のノートを預けているので、機会があれば見てほしい・1枚目と3枚目裏に詩あり・日本映画社200字詰原稿用紙
589	770	封書	末田信夫から原民喜あて	昭和20年12月22日記	両手が化膿シテ二十日バカリ寝テイマシタ・雑誌を出す金がほしい・よい文学を期待している・200字詰原稿用紙
590	771	封書	末田信夫から原民喜あて	昭和21年2月11日記	手紙読んだ、こつちからも、女房もすゝめて、君に広島でくづぐつせぬ方がよかるおと、・広島から早く上京したほうがいい・食料や荷物について・朝日映画社用箋
591	386	葉書	末田信夫から原民喜あて	昭和21年2月21日記	葉書ヲ見タ、多分行違イニオレノ手紙ヲ見タト思イマス・上京するときは米持参が良い・映画に没頭している・速達
592	772	封書	末田信夫(長光太)から原民喜あて	昭和21年2月26日記	二十一日附のお手紙を拝見致しました。・東京への転入は職があれば直ぐ出来る・食料について・末田登志子代筆・400字詰原稿用紙
593	387	葉書	末田信夫から原民喜あて	昭和21年2月27日消印	葉書デ失敬 手紙ヲ見タ・上京しろ、何とかなる
594	388	葉書	長光太から原民喜あて	昭和21年12月29日記	雪ノ中ニイマス、今日ユクリナク、三田文学ヲ見マシタ、ヨクナツタネ・三田文学を見て、小生の詩は弱いと思う
595	1419	空封筒	長光太から原民喜あて	昭和22年5月19日消印	
596	773	封書	長光太から原民喜あて	昭和22年6月1日記	元気ダロオカ、君ワマダ、馬込ノ氷室ニイルノカ・自殺について・詩や原稿を書くことはどうでもよくなった・札幌の住所は内緒にしてほしい

597	1418	空封筒	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 6 月 26 日記	プレスコード検印、開封シール有
598	774	封書	長光太から原民喜あて	(昭和 22 年)7 月 6 日記	原君。ひつこしたね。ほつとした。そこで居られるといいね。・詩を書留で送ったが届いてないよね・詩の韻律のこと
599	390	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 21 日消印	暑イネ、先ゴロ詩ヲオクツタノダガトイテイマスカ・送った詩の感想を知りたい・小説を書くと、近代文学に掲載してもらえるか佐々木君に問い合わせをしている・プレスコード消印有
600	1420	空封筒	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 (22 日)	速達、書留扱い
601	391	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 28 日消印	有難ウ、端書デサツソク君ガ心配シテクレタコトヲ知り・半分書いた小説と、整理した詩集「青」を送る、小説「流体」も送る・プレスコード検印有
602	1421	空封筒	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 31 日記	
603	1422	空封筒	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 8 月 1 日記	プレスコード検印、開封シール有
604	389	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 8 月 3 日消印	ポエジイ。僕ヲヒツツノ言葉ヲ探シテイルノダ、ト詩人ガユウ。・堀口大学「バレイイ文学論」引用・詩について・プレスコード検印有
605	1423	空封筒	長光太から原民喜あて	(昭和 22 年)8 月 13 日記	プレスコード検印、開封シール有
606	781	封書	長光太から原民喜あて	(昭和 22 年)8 月 26 日記	原民喜様 君が詩について抱負するところわなないと云うのにわ、驚いた・早く詩集を出版しなさい・3 枚目裏に「擬唱」四連詩有
607	392	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 10 月日未詳消印	前略 手紙ト雑誌ト端書ヲアリガトウ・送ってもらった詩、雑誌のこと
608	394	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 11 月 24 日記	端書アリガトウ、アノ小説ワ、メイワクダツタカシラト、気ニシテイマス・小説と詩について・高村光太郎「暗愚小伝」の前では頭を下げた
609	393	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 11 月日未詳消印	手紙ヲダシタアトエ、端書キガキマシタ、・6 号雑記のようなものを 400 枚書いた・近況報告
610	395	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 12 月 24 日消印	二十尺ノ軒カラ至 5 寸位ノ氷柱ガ窓ノ外ニ五十本モナランデ氷ノ・近代文学の中村真一郎の「詩ノの革命」が手元にあれば貸して欲しい・「コスモス」第六号みつけたら、お願いします
611	396	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和 22 年)12 月 24 日記	三田文学 2 冊ヲアリガトウ、スツキリシテヨイネ・「夏の花」の詩をまとめて是非発表したまえ
612	397	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 22 年 12 月日未詳消印	オ端書有難ウ、コチラワ、3 尺カラ 4 尺ノ雪ノシタ・マチネ・ポエティックの批評・詩集は今年中にはまとまらないと思う
613	398	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和 23 年)1 月 2 日記	三田文学ヲアリガトウ、ボクノ 6 号雑記チトハズカシカツタ、・君の小説はいいね、おさえすぎるほどおさえである・職を探すので詩集はひどく遅れると思う
614	400	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和 23 年)1 月 19 日消印	端書アリガトウ、アドレスニハ必ラズ、スト書イテ下サイ・百田宗治と対面・草野新平は日本一の詩人・プレスコード検印有

615	401	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和23年)1月20日記	端書デ失敬シマス、手紙ヲアリガトウ、詩集ノコトハ、・詩集のことは佐々木君と相談してください・短詩を70書いたが推敲途中なので入れなかった・1/3枚目(402へ続く)
616	402	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和23年)1月20日記	君ワ神田ノ住人ニナツテチヨクチヨク本屋ヲノゾケルノデヨイネ・フランス語の詩集があれば買って置いて欲しい・小説と論評を東北文学に頼んで返してもらった・2/3枚(403へ続く)
617	403	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和23年)1月20日消印	詩集ノコトガ気ニナルノデマタカイトキマス、参考ニシテ下サイ・詩集は雑誌のかたちかB版にして豪華な綺麗な本にしてください・とにかく詩集については僕は、豪華版主義です・3/3枚目
618	404	葉書	長光太から原民喜あて	昭和23年1月23日消印	タテツヅケニ端書ヲカイトテ済ミマセン、イツカオ願イシタ・中村真一郎氏の「詩の革命」が載っている近代文学を貸して欲しい・次号の詩学でマチネ・ポエティクを批判している・石橋が東京の出版社に勤めているので、会うことをすすめる
619	405	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和23年)1月28日消印	「廃墟カラ」ノ最后ワ書キカエナイ方が、マトマツテイマス・「廃墟から」の最後は書き換えないほうがまとまっている・「傷」が届いた、推敲して送る・総合文化協会会員に格がいつの間にか上がった
620	409	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和23年)1月30日記	アチコチカラ、コンド近代文学ニノツタ詩ワヨイト云ツテクルノダケレド・近代文学に掲載された詩が良いといわれるが、出した覚えがない、びっくりしている
621	406	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和23年)1月31日記	近代文学ヲ送ツタユウ端書ヲアリガトウ・「韻律論」というより「韻がわからん論」を500枚書いた・近代文学が何が掲載されたのか不安・1/2枚目(407へ続く)
622	407	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和23年)1月31日消印	②デン虫ノ角ノヨオニ、ビクビクトフルエルノデネ、・貞吉の難しい性格について・詩(人夫以来)を推敲してまとめたい・民喜の小説をあちこちで見かける・2/2枚目(407の続き)
623	410	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和23年)2月1日記	只今、近代文学9月号落手、中村君ノヲヨンデミタガ、思ウホドノ・近代文学9月号で中村君の作品を読んだが大したことはなかった・詩のこと
624	411	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和23年)2月7日記	今ネ、東京ニイル若イ映画ノ友人カラ近代文学ヲウケツツテ・近代文学に掲載された詩が君の紹介だと知って厚意に頭が下がる・フランスの詩をよみあさってる
625	412	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和23年)2月8日記	更科源蔵ノトコロエ行キ、留守ダツタノデ、戻リ・丸島氏と対面、その報告・丸岡さんにお礼を伝えてください
626	413	葉書	長光太から原民喜あて	昭和23年2月14日記	啓上、心平サンガ序文ヲカイトルソウデス、・心平さんが序文、装幀をしてくれる・最後に佐々木氏が出版に際し骨折ったことを書いてください・1/2枚目(414へ続く)・プレスコード検印有

627	414	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 15 日記	②モシモ、君ノ手元ノ雑誌ニ、マチネ・ポエチック作品集第二、第三、第五、… ・マチネ・ポエチックの作品集があれば貸してほしい ・フランス語を勉強しておけばよかった ・2/2 枚目(413 の続き) ・プレスコード検印有
628	415	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 18 日消印	オ端書落手、有ガトウ、近イウチニ、推敲ガヒトマヅ出来タノヲ送レルト思イマス ・詩集を売るためにも雑誌で名が通るよう、作品をまた送る ・長江には君の住所を教えておいた ・「群像」の野間宏の批評が見たい
629	420	葉書	長光太から三田文学編集部(原民喜)あて	昭和 23 年 2 月 24 日消印	三田文学第 14 号ヲアリガトウ御座イマシタ ・三田文学 14 号のお礼と感想
630	417	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 4 日記	前略、ホボ序文ガデキ、心平サンガ持ツテ出京シタソウデ ・序文ができ、心平さんが持って出京したそうだ ・他詩集の事 ・1/2 枚目(418 へ続く)
631	418	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 4 日記	②ト「陽気ナ土曜日」トユウニツノ詩劇ト ・「陽気な土曜日」等の 4 つの詩劇を出版してお金にしたい ・詩集のことを頼む ・2/2 枚目(417 の続き)
632	419	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 15 日記	端書ヲ有ガトウ、跋ガデキタソウデ、アリガトウ ・跋が出来たので、そのお礼 ・詩の推敲のこと
633	421	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 25 日記	啓、丸岡ニ会ツタラ、丸岡サンガ ・佐々木氏に詩を送った、詩集の宣伝に使ってもらつつもり ・近代文学から稿料を貰った、尽力をしてもらったお礼
634	422	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 26 日記	三田文学ヲアリガトウ、ミスプリントガアツタヨ ・三田文学のお礼 ・池田みち子の作品について
635	423	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 27 日記	端書ガユキチガイニナツタネ、「ワタシワウチカエスナミノヨオニ」ニシタラドウカシラ ・三田文学への小説 50 枚承諾 ・世界評論へ自由党の「告白」小説を送った
636	424	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 4 月 2 日記	偶然気ガムイタノデ、小説 46 枚オクリマス ・小説 46 枚を送付する ・作品内容 ・1/4 枚目(425 へ続く)
637	425	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 4 月 2 日記	②進ムニシタガツテ、人物ノ主観ヲトオシテ、境遇ヲアキラカニ ・小説の内容 ・この作品をきっかけに「花をさいなむ」を連作する ・4/2 枚目(426 へ続く)
638	426	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 4 月 2 日記	③相変ラズ、プロダクションワ欠当モツカナイノデネ ・「花をさいなむ」のあとはどどん書くつもり ・人間なんていちばんわからん化物だね ・3/4 枚目(427 へ続く)
639	427	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 4 月 2 日記	④君ノ意見ヲキカセテ下サイ、送ツタノフ、ソレニアマリ食イサガラナカツタケド ・人間なんて肉体で統一されている断片に近い、それを論理づけるのは無理 ・4/4 枚目
640	428	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 4 月 6 日記	今日、「花ヲサイナム」ヲ送りマシタ、少々手ヲ入レタノデス ・「花をさいなむ」を送付 ・きれいごと(偽善的)でない、ありのままを作品にしたい

641	429	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 4 月 12 日 記	オ端書ヲアリガトウ、詩集ガキマツタソウデ ウレシイデス・詩集が決定して嬉しい・子 供が 10 月に産まれる予定
642	430	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 4 月 12 日 消印	前略、小説ワドウデシタカ、アトデ大分ニ カカルトコロモ・小説の感想伺い、内容説 明・墨地に鉛筆書き
643	431	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 4 月 16 日 消印	花ヲサイナムヲサツソク読ンデクレテウレシ イ・「花をさいなむ」について・今、少年た ちの犯罪をテーマに「暴流」を書いている
644	432	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 4 月 26 日 消印	広島ワドウデシタカ、熊平ニ会ツタデスカ・ 広島はどうだったか・「花をさいなむ」中の 「牧里」を「小泉」に治して欲しい
645	435	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 5 月 8 日記	オ端書ヲアリガトウゴザイマシタ、私モイヨ ヨ・更科氏の紹介で就職することが決まっ た
646	436	葉書	長光太から原民喜あて 昭和 23 年 5 月 11 日消 印	昭和 23 年 5 月 11 日 消印	別便ドイツカノ「ドン底」ノヲ送リマシタ、出来 ワフルイヨウデスガ・別便で「どん底」送 る・近代文学に「流体Ⅱ」を送る・「花」も 近いうちに送る
647	433	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 5 月 12 日 記	昨日オクツタ雑文ドオ考エテモ愚作ダネ、ア ンナモノデモノセテモ・京都の長江くんが、 佐々木さんに詩論や詩を見てもらいたいと いっているので送付した、君も見てください
648	434	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 5 月 17 日 消印	コチラモ天気ガツツキマス、背ガズツト痛ム ノデ、ゴロゴロシテイマス・武田泰淳が民 喜の文章の確かさを褒めていた・金策、就 職のこと
649	437	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 5 月 18 日 消印	端書ヲアリガトオ、アレドン底ニツカエマス カ、ソレナラ、・心平が職に就くなどといっ てくれるが、金がない
650	438	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 5 月 23 日 消印	三田文学 5 月号イタダキマシタ、有リガトウ ゴザイマス・流体Ⅲまで書いた・「花」は 2,3,4 をいっぺんに書いて送る
651	439	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 5 月 31 日 消印	ソノ後アイカワラズ、履歴書ナドカイテルガ、 ドウニモ、ススマセン・6 月の収入の当て がないので小説の稿料の前借りをしたい
652	440	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 6 月 5 日消 印	元気ワイカガ、閉口シテイマス、総合文化ノ 稿料ヲアテニシテタラ、・アンプルファイア という機械を売る外交として働く約束で借 金をした・「花」の続きは遅れる
653	445	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和 23 年)6 月 11 日 消印	其ノ後御元気デスカ、イツゾヤ原稿ヲモラツ タ「野性」ワ・「野性」が印刷所に入ると たんに駄目になった・原稿は 16 頁ぐら いで雑誌にして出す
654	441	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 6 月 16 日 消印	御案配アリガトウ、全クカタジケナイ、九島 氏ニ酒ヲ売ッテ・雑誌記者の職につけそ う・近く伊藤信夫になる
655	462	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 6 月日未詳	オ端書ミマシタ、ヤハリ、ソウカネ、ボクモ、 アトニナツテ・原稿の誤りは直して速達で 送る・「さいなむ」と「流体」をカミユのよ うに書きたかった・就職がまだ決まらない
656	444	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 8 月 5 日消 印	三田文学 7 月号有ガトウ、立派ダネ、今、総 合文化工手紙シタ・「三田文学」7 月号のお 礼・詩集の出版まで間があるので推敲しよ うと思い、出版社に頼んだ

657	442	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 8 月 18 日 消印	オ端書アリガトウ、冠婚用ノ酒ヲ自分デワノ メヌ始末・初校に手を入れさせてもいい、 君や佐々木君に任せる・毎朝ヒロボンデ 推敲シテイマス
658	443	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 8 月 30 日 消印	中野泰雄氏ノ配慮デ、推敲デキルコトニナ ツタ、君ノハガキノアトデ・詩を推敲でき ようになった・10月に子供が産まれる・講 演をやらされる、疎ましいことだ
659	446	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 9 月 7 日記	9月7日、今日手紙ヲウケトツタ、心配ヲカケ テ恐縮シタ・稿料を借りたつもりで頂い た・詩集の原稿が郵便局で紛失したらしい
660	447	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 9 月 24 日 消印	詩集ノ原稿ヲ絶望ラシイデス・心平が手紙 で、原の原爆の話は是非「歷程」に載させ て欲しいといってきた・歷程同人になっ てほしい・「花をさいなむ」2,3,4 に着手、出 来次第送る
661	448	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 1 日 記	十月一日午後十時四十七分、男児が死産 シマシタ、・10月1日夜、男の子が死産、 詩集もろとも死産したわけです・生きて産 まれたら男なら龍太、女ならこころと名付け ようと思っていた
662	449	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 8 日 消印	草野氏カラ、マタ、君ヲ詩人ノ本質ヲモツテ イル人デ・草野氏が詩人として歷程同人に なれと言ってきた・荒君から君に小説 を渡すように言ってきたので見てください
663	450	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 11 日 記	オ葉書アリガトウ、ボクノ詩ケ自壊作用ヲ オコシテイルノデ・忙しくて当分原稿を送れ ない・“笑顔”と書いたら“わらいがお” と読むやつがいる。
664	451	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 21 日 消印	端書トソレカラ稿料ヲ有リガトウ・「純粹 詩」造形文学がかつてに同人にして雑誌に 刷り込んで困っている・昭森社の森谷さ ん、荒氏が君に小説を渡すといってきた
665	452	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 23 日 消印	貞吉ト会ツタソウデ、トテモ嬉シイ、タビタビ 会イタマエ・貞吉に会ったそうでよかつ た・妻の産後の様子
666	453	葉書	伊藤信夫(長光太)から 原民喜あて	昭和 23 年 10 月 26 日 消印	近代文学 10 月ト三田文学 10 月アリガト ウ・近代文学と三田文学 10 月号のお礼・ 無断で同人に載せられて困っている
667	454	葉書	伊藤信夫(長光太)から 原民喜あて	昭和 23 年 11 月 13 日 消印	元気デスカ、小説書イテイマスカ。花ヲサイ ナムノ2ト3ヲヤツト・「花をさいなむ」1~3 を書き上げた、4,5,6 はこれから少しずつ書 こうと思う。
668	399	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 11 月 15 日 消印	葉書ヲ見テビツクリシマシタ、九島君モ小生 モ・九島も小生も早大出で三田文学本部 を引き受けるとは、皮肉だね・3月号の短 編のメ切を知らせて欲しい・川崎書店が 「野性」という文化雑誌を引き受けたので面 白くなってきた
669	775	封書	長光太から原民喜あて	昭和23年11月17日 記	原民喜様 別便で花をさいなむ・Ⅱ・Ⅲを送 りました・別便で「花をさいなむ」Ⅱ、Ⅲを 送付・続編約 300 枚の予定・酪農大学 150 字詰原稿用紙
670	456	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 11 月 26 日 消印	三田文学 11 月号ヲ有リガトウ、マダ九島君 ニワ会イマセン・「三田文学」11 号のお 礼・「花をさいなむ」の序章の提示部、80 枚 を送った、後 160 枚程続く

671	457	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 12 月 6 日 消印	水上賞オメデトウ、当然ダト思ウヨ。近頃リルケノ短編ヲヨンダ・水上賞のお祝い・「花をさいなむ」Ⅱは丸岡さんが言うようになおせそうにない・プレスコード検印有・1/2 枚目(438 へ続く)
672	458	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 23 年 12 月 6 日 消印	九島氏ニハ電話4,5回シタガ、マダ会イマセン・「花をさいなむ」の序章を書き終えて、他の推敲をしたい・造形文学の同人の件で福田律郎が信じられない・プレスコード検印有・2/2 枚目(457 の続き)
673	459	葉書	伊藤信夫(長光太)から原民喜あて	昭和 23 年 12 月 24 日 記	三田文学ヲアリガトウ、今日、花ヲサイナムⅡ-VIIヲ送りマシタ・三田文学のお礼・「花をさいなむ」ⅡからⅦを送付・マルテの手記、阿部公房等が、私の形成のスタイルを暗示する
674	463	葉書	伊藤信夫(長光太)から原民喜あて	昭和 23 年月日未詳 消印	ヒヨツトシタラ、真善美ノ中野氏カラ君エ「瘧」トユウ詩ヲ・姓が変わった(末田→伊藤)・詩「瘧」、その他の詩について・詩集の原稿がまだ届かない・お産が近づいてきた
675	464	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 1 日 消印	オメデトウ、例ニヨツテ年賀御礼デス・年賀状・川崎書店「野性」が月刊になり店員として働く・詩でもエッセイでもいいので君の原稿を送ってください
676	465	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 5 日 消印	飛ンダオ願イナノデスガ、三田文学ノ若イエツセイストデ・三田文学内で T.E.ヒュームの「灰燼のひとつの新世界観」について書いてくれる人を紹介してほしい・「野性」の第一号に乗せたい、稿料は 1 枚 100 円位
677	466	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 6 日 記	マタ郵送中ニ原稿ガ紛失シタノデワナイカシラン・原稿がまだ届かない・総合文化の対応の悪さ・詩集を出す意志がなくなった
678	455	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 17 日 消印	①カラ②見ルタビニ、ヨクモコレガ詩トイエルモノダト・詩稿を紛失された・近いうちに引越します・2/3 枚目(408 へ続く)
679	467	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 17 日 消印	①前便出シタコロエ君ノ手紙ヲイタダキマシタ・手紙のお礼・自分の仕事を自分の成長に一致させたいので作品のすべてをたえず書き直す必要がある・1/3 枚目(455 へ続く)
680	468	葉書	伊藤信夫(長光太)から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 22 日 消印	三田文学一月号落手シマシタ・三田文学一月号落手・仕事以外で人と会うのは君ぐらいだ
681	416	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 2 月 22 日 記	三田文学2月号ヲ有りガトウ、コレカラ読ミマス・真善美から詩集の原稿を送ってきた・「野性」は来月に出る
682	469	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 3 月 1 日 消印	書クノニ追ワレテイマスカ、私ワ職業ノタメニカスカスニナツテイマス・「アムバルワリア」-西脇順三郎があれば貸して欲しい
683	470	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 3 月 9 日 消印	大分頑張ツテルヨウデスネ、ウマク書ケマスカ・三田文学に私の詩論を載せてもらえないか
684	471	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 3 月 31 日 消印	オ端書落手、有りガトウ存ジマス・「野性」を出版した・第 2 号に遠藤氏に書いて欲しい頼んでみてください・「花」はどうですか? 批評してください・プレスコード検印有

685	473	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 4 月 4 日消印	済ミマセンガ、山室静氏ノ最近ノ住所ヲオシエテ下サイ・山室静氏の住所を教えてください・最近、技術と観念の密着性について考えている
686	1424	空封筒	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 4 月 6 日記	榊新世界映画社の封筒
687	472	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 4 月 27 日消印	四月号ノ三田文学ヲアリガトウ。ナカナカガツシリシテキマシタネ・野中頼正夫という詩人が私の小説を新聞で褒めているとのことだが、どんなことを言っているのか教えて欲しい
688	474	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 5 月 20 日消印	三田文学ノ 5 月号ヲイタダキマシタ、有ガトウゴザイマス・貞吉と民喜の知人の向井俊平氏に会った・三田の通信講座を読んでいる柴田治夫の作品を送るので見てほしい
689	475	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 7 月 4 日消印	忙シイデスカ、トウトウ、カリエスニナリマシタ、ソレデ・カリエスになってしまったので、治療費の工面のため詩を売ってほしい
690	1425	空封筒	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 7 月 11 日消印	榊新世界映画社の封筒
691	477	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 7 月 14 日消印	今、藤島君カラ、手紙ガキテ、逸見論トユウノワ、逸見論デナク・詩の雑誌に載せる逸見論のこと・100 枚ほどの作品論は準備しているが、書評で書いたほうがいいですか
692	476	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 7 月 21 日消印	オ端書拜見、背中ワ少シ疼キガカルクナリマシタ・一人で社務をしている・詩を近いうちに送る・結核でないことが分った
693	478	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 8 月(4 日)消印	オ端書ヲ有リガトウ、不景気ナンダネ・三田文学が沢山売れるように、若い人々を中心にしてみようか
694	479	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 8 月 5 日消印	写真と鎮魂歌のついている雑誌を有りがとう・「鎮魂歌」はよかった。民喜と奥さんの「牡丹灯籠」を書くことを勧める・12 月に子供がうまれる
695	480	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 8 月 10 日消印	行キチガイニ君ノ手紙ガキマシタ、アアユウ詩ガイクラデモ・君の詩が本質的だといつも思わせる。僕のは偽物だよ。
696	460	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 8 月 日未詳消印	手紙ト原稿料ト君ノ作品ノツタ雑誌ヲ有リガトウ・詩を推敲したものを 2,3 送る・カリエスの疑いあり。これからレントゲン写真をとるところです
697	481	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 9 月 14 日消印	三田文学 10 月号落手シマシタ、有リガトウ、ドウヤラ辛イラシイネ・吉田満君に会った。三田文学支部をすらしい
698	482	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 9 月 28 日消印	元気デスカ、コレカラシバラク、ソチラワイイデスネ・今年の水賞のこと・吉村君が三田文学を盛んにしたいといっていた
699	776	封書	伊藤信夫(長光太)から原民喜あて	昭和 24 年 10 月 15 日記	原民喜様 手紙を見ました。少し呆れました。・使わない作品は送り返してほしい・近代文学に預けてある近松の原稿の行方を調べてほしい・170 字詰原稿用紙、川崎書店の封筒
700	484	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 10 月 24 日消印	三田文学 11 月号有リガトウ、サテ、近松論ワ、佐々木氏ノコロニ・近松論は佐々木氏のところにあつたが不要になったので三田の偉い人に見てもらってください

701	483	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 11 月 24 日 消印	12 月号イタダキマシタ、追白が自分が思ツ テイタヨリ ・お金に困って不眠症になりまし た
702	492	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年 12 月(26 日)消印	梶子デキズダラケニヒキズリダサレ、トニカ ク元気デ ・23 日に男の子が生まれた ・君 も子供が出来ることを祈る
703	408	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年月未詳 17 日消印	③君が早々三田ノコロノコトヤ、相ヶ谷ノコ ヤ祐天寺ノコロノコトヤ ・「花をさいなむ」を 8,9,10 まで書くべきか書き直すべきか感想 を聞かせて欲しい ・3/3 枚目(467,455)
704	487	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年月未詳 17 日消印(秋)	元気デスカ、心配シテイマス、コチラワ ・ 「追白」を三田文学に載せる予定がないの なら、未来派に連載中の「抵抗」に書き直し て載せたい
705	486	葉書	長光太から原民喜あて	(昭和 24 年)月未詳 24 日消印	お手元ニアズケタ詩ノコトデスカ、モシマ ダ、ドコニモ ・詩の推敲をしたいので手元 にある詩を鎌倉の池田克己宛に送ってくだ さい ・近代文学にある詩も送ってください
706	461	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 24 年月日未詳	オ端書ヲ拝見シマシタ、三月号ニノセテイタ ダイタソウデ全クスマナク存ジマス ・端書と 3 月号掲載のお礼 ・原稿を批評と一緒に返 却して欲しい ・長編をまとめるつもり
707	488	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 25 年 2 月 3 日消 印	ドウシテイマスカ、「野性」ヲ別便デ送りマシ タ ・「野性」を別便で送付 ・詩稿を寄せてく ださい ・往復はがき(返信) ・転送符付
708	489	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 25 年 5 月 24 日 消印	前便みましたか、そのあとで、春啓堂の ・ 就職先(春啓堂)の紹介 ・経営者は中村 胖、堀内大学の弟子
709	490	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 25 年 5 月 28 日 消印	朝日の斉藤譲一から返事が来た。 ・朝日 の斉藤譲一から返事が来て良い仕事があ るようにするとのこと ・恒久的な仕事に就 いてください
710	1426	空封筒	伊藤信夫(長光太)から 原民喜あて	昭和 25 年 6 月 4 日記	
711	491	葉書	長光太から原民喜あて	昭和 25 年 11 月 23 日 消印	アタタカイ雪ノ下ニイマス、コチラデワドウシ テモ本屋ガ ・鈴木虎雄の「支那詩論史」を 古本屋で注文してください ・「唐宋詩説史」 「宋元詩説史」は本になっているかどうか分 りませんか
712	485	葉書	長光太から原民喜あて	(年月日未詳)	原稿ヲアリガトウ、野性ヲ改題シナクテワナ ラナクナリマシタ ・「野性」から「パンセ」に 改題しようと思う ・詩集は当分出版しませ ん
713	777	(封書)	(長光太から原民喜あ て)	年月日未詳	前略 君の最初の本受取つた立派だね。 ・ 中村有氏に本を送付してほしい ・小説 50 枚書き上げた ・黎明社 200 字詰原稿用紙、 封筒無し
714	778	(封書)	(長光太から原民喜あ て)	年月日未詳	前文御免 熊平が新聞で見ただので、一冊欲 しいと云つて来た ・熊平が一冊欲しいとい うので住所を記入しておく ・文芸首都に半 頁の広告を出すかどうか返事下さい ・黎明 社 200 字詰原稿用紙、封筒無し
715	779	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 9 月 29 日記	君ガ下痢ヲ始メタトキイテ、憂エテイマス、ド オデスカ ・民喜の安否を気遣う ・広島 の写真を見た ・日本映画社 200 字詰原稿用 紙、封筒無し ・昭和 20 年?

716	780	封書	末田信夫(長光太)から原民喜あて	年未詳 1月24日記	日々痩せるとわ、どうしたことが、君の手紙に驚いて居る・上京の際の下宿は、よければ家へ。・朝日映画社用箋、私製封筒
717	782	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 4月6日記	原民喜様 稿料をいただきました有がとう・稿料を受取る、次回からは借金返済分にしてほしい・「花」の感想を聞かせて欲しい・170字詰原稿用紙、封筒無し
718	783	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 5月8日記	原民喜様 元気でしょう、当地も花が咲きましたが、山に白雪が光り・シナリオ職をしている・近代文学に詩稿「遡航」を送ったが、返してこない・北日本映画会社用箋、封筒
719	784	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 6月4日記	原民喜様 あの男わ僕らが少年の頃、エスペラントとエスペラント語で「花をさいなむ」落手・生活に追われているので原稿がかけない・北日本映画会社用箋、封筒無し
720	785	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原君、端書デ云ツタ詩稿ノ整理ガデキタノデ送りマス・子供のときから、23、4歳の頃を中心に書き溜めていた詩稿を送る・伊藤スエのこと・342字詰原稿用紙両面使用、封筒無し
721	786	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 12月2日記	原民喜様、懇篤なお手紙と端書とを有難う・新仮名づかいに反対・草野氏が詩論を出版してくれる・封筒無し
722	787	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 1月7日記	丸岡さんによろしく。原民喜様 三田文学を有難う。・草野心平の詩集はすごい・自分の詩集について・封筒無し
723	788	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	手紙を有難う、君に気の毒したのわ、僕であつた・草野心平から「歴史」に詩を出すように言われた・サルトルについて・封筒無し
724	789	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原君、前便ニヒキツツキ、病氣デヒマヲ得タ間ニ、推敲シタノデ、・推敲した詩を送る・詩論・封筒無し
725	790	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原君、29日ツケノ手紙ヲ見テビツクリシタ、君ガ食糧デコマツテルナド・熊平と民喜と3人が中心になって「写生」という詩の雑誌をつくりたい・政治のこと「ウルトラ」・日本映画社 200字詰原稿用紙、封筒無し
726	791	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 2月27日記	原民喜様 端書有難う「どん底」承知しました・「どん底」承知した・詩論をかいている・400字詰原稿用紙、封筒無し
727	792	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 9月10日記	原民喜様 詩集についての君の意見をまつてゐるが、仕事でか、家さがしてか・詩集について・三田文学で詩論を書かせてほしい・夫婦問題・封筒無し
728	793	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 9月7日記	原民喜様 「青」の感想をよんだ。有難う。・「青」の民喜の感想の事・プロダクションを創めようとしている・詩「ヒバリ」のこと・恋人が流産した・封筒無し
729	794	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 11月8日記	資本集中排除法デ、コチラノ会社ヲ消エルラシイデス・会社がつぶれるらしいので金が入ってこない・「ヒバリ」の詩は他で出す事になったと伝えてほしい・封筒無し

730	795	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原民喜様 三田文学拝見、びつくりしました。・「三田文学」に載った自分の詩のこと・12月に子供が産まれる・「近松」を読んでほしい・川崎書店150字詰原稿用紙、封筒無し
731	796	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原君 今朝ヨオヤク何時カ見セタ君ノ詩ガアル形ヲソナエタノデ・詩稿「机」とその説明・「野火」のお詫び・朝日映画社400字詰原稿用紙、封筒無し
732	797	(封書)	(長光太から原民喜あて)	年月日未詳	二伸、藤島君ニ「青」ヲ送りカエシテクレト、頼ンダンダケド、郵税大変ナノカ・藤島君に「青」を送るようにと伝言してください・酪農大学150字詰原稿用紙、封筒無し
733	798	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原民喜様 雑誌を有りがとう・「長光太」論は汗が出た。・友人阿部行蔵に雑誌を送ってもらえないだろうか・170字詰原稿用紙、封筒無し
734	799	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原民喜様 作品に没頭していたのですができましたか・「詩と詩人」に詩がでる・小説を送ります・思想について・150字詰原稿用紙、封筒無し
735	800	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原君、丸岡サンカラ、端書ヲイタダイタ・丸島という人に近く会いにいづもり・同封の六号雑記はいつでも使ってください・新世界映画社200字詰原稿用紙、封筒無し
736	801	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	今、詩稿を見た手紙をうけとつた。・朝日君の詩稿を見て、君の戯作だと思った・原稿の裏に朝日氏の作品を解説・新世界映画社200字詰原稿用紙、封筒無し
737	802	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 8月11日記	原民喜様 暑いことだね、端書を見た、・「精密工作機械」という13年前に書き始めた戯曲を書き直している・中村氏が私のエッセイを出版する・「花をさいなむ」は地元の同人雑誌へ出す・3枚目の裏に「新婚賦」という鉛筆書きの詩あり・北日本映画株式会社400字詰原稿用紙、封筒無し
738	803	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	同封の葉書は熊平の批評である・同封の葉書は熊平の批評・短歌一首・封筒無し
739	804	(封書)	長光太から原民喜あて	年未詳 8月9日記	原君 旭川カラ戻ツテ、8月2日ノ端書ト3日ノ手紙ヲウケトツタ・「青」を読んでほしい・「机」の詩稿・封筒無し
740	805	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原民喜様 出発シヨウニモ会社が腰ヲヌカシタカ、・短歌と俳句から引き出せる詩の形の説明、定型詩に取り組んで発表したい・ノート紙両面使用、封筒無し
741	806	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原君 『坂』わ澁刺として、捉えがたい動きに迫つてゐるようだね・「坂」の批評・「ヒバリ」は君のところにあるか、知らせてください・封筒無し
742	807	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原民喜様 お手紙有りがとう。小説わくだらないのが多すぎるから・20枚の短篇小説書きます・民喜の詩のこと。音韻的なことの指導・400字詰原稿用紙、封筒無し

743	808	(封書)	長光太から原民喜あて	年月日未詳	原民喜様 お手紙有りがとう。仕事に追われていますが・日本の「散文」について・日本の散文は散文ではない、俳文、歌文である・400字詰原稿用紙、封筒なし
744	1427	空封筒	長光太から原民喜あて	年月日未詳	上書きのみ
745	495	葉書	坪田譲治から原民喜あて	昭和22年7月8日記	拝復 おハガキと雑誌有難う存じました・ハガキと雑誌のお礼・「忘れがたみ」がとても感銘深く、涙こぼれるおもいででした。・プレスコード検印有
746	496	葉書	妻木新平から原民喜あて	昭和22年7月8日消印	先日は、おいで下さいましたのに御逢い出来ず残念でした。・夏の花を拝見。感銘を受けた作品として、私の記憶に残るものを感じました
747	497	葉書	妻木新平から原民喜あて	昭和23年1月6日消印	神田の方に御引越しの由、でもよかったですね・家が見つかってよかったですね
748	809	封書	鶴岡朝子(東京実業社)から原民喜あて	昭和10年4月1日記	時候不順の折から御健勝していらせられますか・原稿受取る・4月号送付・文芸春秋社発行雑誌広告値段表同封
749	498	葉書	寺崎浩から原民喜あて	昭和24年3月28日消印	仲々立派ないゝ本が出来てうれしく思ひます。・「夏の花」はアメリカのペンクラブへ寄贈し、翻訳してもらおうべき
750	542	葉書	白水社(寺村五一)から原民喜あて	昭和10年4月8日記	拝復御葉書拝誦致しました。「焰」は各書店に配布・各書店に「焰」を配布・次回発行の「白水」では掲載します
751	543	葉書	白水社(寺村五一)から原民喜あて	昭和10年5月1日記	拝啓昨日は失礼致しました。お目にかへつて後間もなく・読売新聞社が著者紹介をするので、経歴を知らせてほしい
752	810	封書	寺村五一(白水社)から原民喜あて	昭和10年5月9日記	拝啓 本日中島氏から同封控への通りの原稿を・中島氏からの原稿、読売新聞社へ送付・係りは木村武雄・白水社用箋
753	544	葉書	白水社(寺村五一)から原民喜あて	昭和10年5月10日記	前略読売新聞より批評と共に貴下の御写真を掲載致したき由・読売新聞社の木村武雄氏に写真を送ってください
754	500	葉書	十返肇から原民喜あて	昭和24年3月30日記	拝復、柴田錬三郎氏のこと、承知いたしました。・柴田錬三郎氏の件承知・「三田文学」今月号の原、若尾の作品良かった
755	499	葉書	豊島与志雄から原民喜あて	昭和10年4月3日記	御著「焰」御恵送附下・「焰」受け取りのお礼
756	811	封書	豊田四郎から原民喜あて	(昭和23年)4月22日記	前略 「三田文学」お恵存にあずかりありがとう存じました・随筆原稿期限延期の件・「夏の花」を借りたい・プレスコード検印
757	501	葉書	豊田四郎から原民喜あて	昭和24年3月25日記	前略 ねながら乱筆にて失礼します。そろそろ、・約束した随筆の枚数を教えてほしい・療養所内での精神生活の一端にでも触れたい
758	502	葉書	豊田四郎から原民喜あて	昭和24年5月31日消印	前略、五月末迄に御約束の原稿、部屋の引越その他・原稿の清書に2、3日かかるため一週間遅れる。400字詰24枚から25枚の予定・速達
759	503	葉書	豊田四郎から原民喜あて	昭和24年6月15日記	前略 先日、貴著「夏の花」をおくつただき、早速・「夏の花」のお礼と感想・原稿がまとまらない
760	812	封書	十和田操から原民喜あて	昭和22年5月30日記	おなつかしく存じました。・奥様のご冥福をお祈りしてやみません。・原稿依頼のお礼・朝日新聞東京本社用箋

761	504	葉書	十和田操から原民喜あて	昭和 22 年 11 月 2 日記	こちらこそ失礼しております、小説書こう書こうと・「夏の花」について・15号の締切を30日ぐらいにしてほしい・プレスコード検印有
762	505	葉書	十和田操から原民喜あて	昭和 22 年 12 月 10 日記	ごぶさたしております。先日水上先生会にお招き下さいまして・講演会の時に会えず心残り・「廃墟から」を楽しみにしている・「夏の花」を文芸家協会の傑作年鑑へ投票した・プレスコード検印有
763	506	葉書	十和田操から原民喜、丸岡明あて ]	昭和 24 年 3 月 27 日記	御健筆拝読何よりと存じます・「笑いについて」はすぐに書けそうです、締切り前に送ります
764	507	葉書	十和田操から原民喜あて	昭和 24 年 10 月 22 日記	雑誌をいつも有難うございます・水上賞の候補者を送ろうと思ったが、遅れてしまった
765	813	封書	十和田操から原民喜あて	年末詳 3 月 8 日記	またおめにかゝりたく思いながら・「夏の花」のお礼と感想・朝日新聞社 200 字詰原稿用紙、封筒無し
766	822	封書	永井龍男から原民喜あて	昭和 24 年 3 月 14 日記	思ひがけず「夏の花」御寄贈にあづかり厚く御礼申し上げます。・「夏の花」のお礼・受賞のお祝い・200 字詰原稿用紙
767	518	葉書	長尾雄から原民喜あて	(昭和 22 年 10 月)24 日記	随筆号の御通知たしかに受手。久しぶりで何か書かして・随筆号に何か書かせていただきます・締切りは 12 月末ですね
768	814	封書	中川雅枝から原民喜あて	昭和 24 年 7 月 13 日消印	其の後御無沙汰いたしております。先達は御多忙のところ・稿料を同封の為替にて支払う・夕刊新大阪用箋・書留
769	815	(封書)	中川雅枝から原民喜あて	年月日未詳	お寒さの折柄・原稿依頼、テーマは、「私の創作方向」「現代大学への不満」「批評への抗議」・夕刊新大阪用箋、封筒無し
770	519	葉書	中島健蔵から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 18 日記	御高著御惠興下され厚く御礼申し上げます。普通の文壇人が見落して・焰のお礼
771	816	封書	中島健蔵から原民喜あて	年月未詳 28 日記	昨日はわざわざ御来訪のところ失礼致しました。・来訪、好物送付のお礼
772	508	葉書	中田耕治から原民喜あて	昭和 22 年 10 月 19 日消印	拝復 三田文学の文芸時評の件、たしかに御引受致しました。・文芸時評の件承諾・原稿は今月末までに持参します
773	509	葉書	中田耕治から原民喜あて	昭和 22 年 11 月 4 日消印	お手紙ありがたうございました。文芸時評らしくないので・「文芸時評」の原稿持参、次回原稿について
774	510	葉書	中田耕治から原民喜あて	昭和 22 年 11 月 28 日消印	十五号の為の「文芸時評」お届け致しました。・十五号の為の原稿を送付・二回で打ち切らせてください
775	511	葉書	中田耕治から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 5 日消印	拝復、枚数九枚位 締切三月廿日・「戦後文学の展望」を書かせていただきます
776	512	葉書	中田耕治から原民喜あて	昭和 23 年 7 月 1 日記	好学社の小泉哲弥といふ方から「古代文学序説」を受け取りました。・書評をするようにと言われたが、書評の期日、枚数が不明なので教えてほしい
777	817	(封書)	中田耕治から原民喜あて	年月日未詳	原民喜様 貴著「夏の花」有難う存じました。・「夏の花」のお礼・河出書房用箋、封筒無し
778	818	(封書)	中田耕治から原民喜あて	年月日未詳	原民喜様 原稿、三枚との仰せですが、五枚になっちゃったのです。・「苦しく美しき夏」に心打たれる・原稿 3 枚の予定が 5 枚になった。削らないでほしい・400 字詰原稿用紙、封筒無し

779	823	封書	長野春樹から原民喜あて	昭和 10 年 10 月 7 日記	貴稿、拝受。深謝。あなたの創作集には感服いたしました。・原稿受取る・創作集に感服した。特に短いもの
780	819	封書	中村喜久夫から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 13 日記	拝復 御手紙有難く拝見いたしました。・末田氏を通じ、同窓のよしみで御会いしたい・著作出版界社の封筒
781	820	封書	中村地平から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 11 日記	お手紙有難くなつかしく拝見しました。・執筆中の作品が出来たら、掲載してほしい・収録枚数をお知らせ下さい
782	513	葉書	中村地平から原民喜あて	昭和 26 年 1 月 1 日消印	謹賀新年 健康が意にまかせぬまま、平素失礼のみつづけて居りますが・年賀状・病状は回復している・お年玉くじ付年賀はがき
783	821	封書	中村地平から原民喜あて	未詳年 3 月 17 日記	其後御元気にてお仕事に御精進の趣で何よりに存じます。・「夏の花」受け取りのお礼・奥さんの死と被爆の御見舞い・病床口述のため代筆・プレスコード検印有
784	515	葉書	中村眞一郎から原民喜あて	昭和 22 年 6 月 20 日消印	深切なお手紙大変有難うございました。「文芸叢書」は批評等ばかり・エッセイ集の話はもう少し考えさせてください。一度ゆっくり相談にのってもらえませんか
785	514	葉書	中村胖から原民喜あて	昭和 24 年 1 月 25 日記	啓 御親切なお便りいただきありがとうございます。・手紙の礼状・関西軽金属物株式会社からハガキ
786	517	葉書	中山崇から原民喜あて	昭和 23 年 1 月 1 日記	謹賀新年 先日はわざわざお知らせ下さいまして有難うございます。・年賀状
787	516	葉書	那須国男(人間編集部)から原民喜あて	昭和 25 年 9 月 30 日消印	前略御無沙汰致して居ります貴稿の稿料非常に遅れて申し訳ありません・稿料支払いの遅れのお詫び、月曜日には用意できません・鉄ノ暴風を拝借します 川崎
788	825	封書	西村辰五郎(西村陽志)から原民喜あて	昭和 10 年 5 月 2 日記	原民喜様 先夜は失礼いたしました。・「焰」受け取りのお礼と感想・各篇あまりに短いので驚いた
789	824	封書	西村芳雄から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 15 日記	原様 初めての手紙で失礼致します。・「焰」に感動。是非一部ほしい。・月刊雑誌「著作出版界」編集部の名詞貼布
790	520	葉書	二宮孝顕から原民喜あて	昭和 22 年 11 月 25 日記	御端書拝見致しました。随筆特集号に何か書きたいと思っております。・随筆特集号への原稿承諾
791	521	葉書	二宮孝顕から原民喜あて	昭和 23 年 1 月 15 日記	前略明後十七日の会には、午後授業がありますので、残念乍ら欠席致します。・十七日の会の欠席通知・校正刷りを廻送してください
792	522	葉書	二宮孝顕から原民喜あて	昭和 25 年 6 月 9 日消印	此の度左記へ転居致しましたから御通知申し上げます・転居通知
793	1429	空封筒	日本通運株式会社から原民喜あて	年月日未詳	料金後納
794	527	葉書	日本麦酒株式会社から原民喜あて	昭和 25 年 1 月 1 日消印	新春を御慶び申し上げます・年賀状・お年玉くじ付年賀はがき
795	528	葉書	日本麦酒株式会社から原民喜あて	昭和 25 年夏	暑中御見舞い申し上げます・ニッポンビールの絵はがき・転送符付
796	523	葉書	日本文芸家協会から原民喜あて	昭和 23 年 12 月 17 日消印	拝啓 益々御清栄の段お慶び申し上げます 陳者、・「文芸年鑑」の昭和 23 年度版完成・24 年度版のために必要事項を記入してほしい・往復はがき(往信)・プレスコード検印有

797	526	葉書	日本文芸家協会から原民喜あて	昭和24年2月1日消印	所得税確定申告の件特報 今般所得税確定申告に就て当協会は・確定申告の件についてお知らせ・転送符付・孔版刷
798	524	葉書	日本文芸家協会から原民喜あて	(昭和24年)6月22日記	拝啓 時下初夏の候 益々御清栄の御事と存じ上げます・税金対策についての意見伺い
799	525	葉書	日本文芸家協会から原民喜あて	(昭和24年)10月29日消印	前略 創作代表選集の重版印税の件に就きお問合せがございましたが・創作代表選集の重版印税について
800	1430	空封筒	日本文芸家協会から原民喜あて	昭和25年9月2日消印	文芸家協会ニュース、アンケート在中のもの
801	841	封書	日本文芸家協会から原民喜あて	昭和26年1月8日消印	著作権法改正に関する質問書・現行著作権法とブラッセル規定との対象(資料)
802	535	葉書	能楽書林から原民喜あて	昭和26年1月1日記	謹賀新年・年賀状・お年玉くじ付年賀はがき
803	529	葉書	野口富士男から原民喜あて	昭和23年3月6日消印	このところ体の調子がわるく、先日の会合の折にも・会合欠席のお詫び・5枚のエッセイ依頼承諾
804	530	葉書	野田開作から原民喜あて	昭和23年5月10日記	博多のどんたくを見ました。この馬鹿騒ぎの中に、日本のお祭りの中にあった・博多どんたくと文学の変化について
805	531	葉書	野田開作から原民喜あて	昭和23年6月11日記	御無沙汰してをります。無理押しに書いていくためか、すつきりした小説と・小説特集号と、短編集特集号は力の限り書いてみます。
806	827	封書	野田開作から原民喜あて	昭和23年9月4日記	九月四 野田開作 原民喜先生 今日まで十日あまり、頑張つてみましたが、駄目なのです。・「芥川竜之介への手紙」の原稿は書けない。急で申し訳ない・速達
807	826	封書	野田開作から原民喜あて	昭和24年3月31日記	別便で、小説原稿「磔刑の青春」(六十三枚)お送りしました。・別便で小説原稿「磔刑の青春」(解説付)送付・慶応義塾体育会野球部用箋
808	532	葉書	野間省一から原民喜あて	昭和25年1月1日記	謹賀新年・年賀状・お年玉くじ付年賀はがき
809	533	葉書	野村英夫から原民喜あて	昭和22年6月21日記	おはがき拝見致しました。丁度只今作品を一つ試みてをりますので・近日中に30枚程度の原稿を送る
810	534	葉書	野村英夫から原民喜あて	昭和22年11月14日記	お葉書拝見致しました。いつも色々とお心におかけ戴き厚く感謝・短編「春は薄緑の服を着て」を書く
811	828	封書	橋本福夫から原民喜あて	昭和22年6月14日記	御丁寧な御書状をいただき恐縮に存じました。・「同人日記」を書いた・プレスコード検印、開封シール有
812	536	葉書	埴谷雄高から原民喜あて	昭和24年8月2日消印	「夏の花」有難うございました。これをはじめて原稿で読んだときの感動や・夏の花の礼状・傑作だと思えます
813	829	封書	濱井信三(広島市長)から原民喜あて	昭和25年5月13日記	拝啓 新緑の候 益々御清栄の段賀し奉ります・「夏の花」の礼状・和紙
814	830	封書	濱井信三から原民喜あて	昭和25年6月11日記	謹啓 入梅の候益々御多祥の段賀し奉ります・スイスにおいて開会する、M・R・A 世界大会参加について援助していただいたお礼・活版印刷
815	537	葉書	原奎一郎から原民喜あて	昭和22年11月25日記	拝復 明春の三田文学に随筆をとの仰せ確に承知致しました。・三田文学への随筆依頼了承

816	832	(封書)	原奎一郎から原民喜あて	年未詳 1月17日記	前略 厳寒の折御元気の事と拝察致します。・三田文学の随筆特集号の依頼を受けたが、風邪の為約束を果たせず、お詫び・封筒無し
817	538	葉書	原健忠から原民喜あて	昭和22年7月1日消印	冠省先日十月号、三月号の小説御依頼をうけ・10月号3月号の小説原稿依頼をそのままにしておいたお詫び・教師職は忙しい
818	539	葉書	原健忠から原民喜あて	昭和23年9月10日消印	前略 過日は突然御邪魔致し失礼しました。・「芥川龍之介へ送る手紙」を送付
819	540	葉書	原健忠から原民喜あて	昭和24年1月8日消印	新春を寿ぎます。旧年中は色々とお世話になりました。・3月号への小説24枚送付・稿料のお礼
820	541	葉書	原健忠から原民喜あて	昭和24年12月16日消印	冠省先日三田文学の会に始めて出ました。・三田文学の会に始めて出た。・ご依頼の小説の締切りはいつ頃でしょうか
821	831	(封書)	原健忠から原民喜あて	年未詳 5月10日記	拝復 お葉書有難う存じます・依頼の原稿は一応書けました・200字詰原稿用紙、封筒無し
822	833	封書	春山行夫から原民喜あて	(昭和10年)5月15日記	拝啓 新緑の候お元気の趣大慶と存じます。・「焔」のお礼・第一書房用箋、封筒
823	836	(封書)	東川恒から原民喜あて	年未詳 1月20日記	原稿がおくれて申し訳ありません。・原稿が遅れたお詫び・病氣と縁を切りたい・封筒無し
824	548	葉書	樋口勝彦から原民喜あて	昭和23年7月17日消印	不順なお天気で閉口して居ります。御変わりありませんか。・「三田文学」6月号と、稿料150円のお礼
825	834	封書	樋口勝彦から原民喜あて	昭和23年10月1日記	拝復 御手紙拝見いたしました。御元気で御活躍の御様子何よりと存じます。・「ざくろ文庫」の件・私の名前が売れてからの法が貴兄に有利になると思うので、来年夏以降のほうがいいのでは?・200字詰原稿用紙
826	545	葉書	樋口勝彦から原民喜あて	(昭和24年)2月5日記	拝復お端書拝見しました。貴兄の御噂は時々伺ってゐます。・三田文学の原稿承知しました・20日までに必ずお届けします
827	546	葉書	樋口勝彦から原民喜あて	昭和24年5月10日記	御葉書拝見しました。御見舞の御言葉どうも有難う・御見舞いのお礼、体調は回復に向っています・ご依頼の原稿は送付します
828	547	葉書	樋口勝彦から原民喜あて	(昭和24年)9月14日記	前略 御金子有難う御座いました。金百円確かに拝受いたします。・原稿量100円拝受、有難うございます
829	835	(封書)	樋口勝彦から原民喜あて	年未詳 10月27日記	前略 過日は『ざくろ文庫』の勝本さんの御本を有難うございました。・「ざくろ文庫」の勝本氏の本、「三田文学」10月号、100円受け取りの、お礼・訳本の件・200字詰原稿用紙、封筒無し
830	566	葉書	東京市立日比谷図書館から原民喜あて	昭和10年4月4日記	一 焔 一部 前記ノ図書本館へ御寄贈被下御芳志ノ「焔」一部寄贈礼状
831	549	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和22年5月9日記	拝復。玉翰拝誦。『時評』の件たしかにかしこまりました。佐々木君の「時評」の件・三田文学拝受
832	550	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和22年7月1日消印	お便りありがたく拝見しました。拙稿文芸時評、・文芸時評、八月の初めまでに送ります

833	551	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 10 日記	「三田文学」第十号ありがたう存じました。・「夏の花」にとても感動しました。三部作のうちのものとか、あとが待たれます ・三田文学 10 号のお礼
834	552	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 22 年 8 月 15 日記	拝復 お便りありがたく拝見しました。・13 号の「文芸時評」原稿を 20 日前後に直接能楽書林にお届けします ・プレスコード検印有
835	559	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 22 年 9 月 5 日記	拝啓。拙稿「文芸時評」おくれてしまひまして申し訳ございません。・「文芸時評」原稿の遅れのお詫び ・速達
836	560	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 24 年 3 月 5 日記	『夏の花』ありがたく頂きました。大変見事な出来栄え ・「夏の花」のお礼、感想
837	553	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 22 年 9 月 12 日記	拝復。お便りありがたう存じました。いろいろ御迷惑おかけ申します。・十四号の締切りが九月末なら大丈夫
838	554	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 22 年 9 月 24 日記	前略。実は小生今日より十月二日まで金沢方面旅行 ・旅行に行きます。戻り次第執筆、10 月 10 日までに原稿を届けます。ご了承下さい
839	555	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 23 年 1 月 1 日記	御転居の御通知拝見しました。いつもお目にかゝるつもりで ・「三田文学」は段々良くなっていて、嬉しく思います ・転居通知拝見
840	556	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 10 日消印	前略「近代文学」二月号にも予告いたしておきましたが、・二〇世紀文学研究会、第一回研究会への案内状
841	557	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 12 日記	拝啓。ごぶさた致しをりました。・三田文学 14 号を受取った ・30 枚程度のエッセイを書くつもり ・プレスコード検印あり
842	558	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 27 日記	拝復。お便りありがたく拝見しました。・「純粋小説論」9 枚を 4 月 20 日にお届けします ・エッセイは多忙のため無期延期にしてほしい
843	561	葉書	平田次三郎、本田清から原民喜あて	昭和 24 年 6 月 10 日記	前略。過日、御願ひ申し上げました『近代文学九月号』・「近代文学」9 月号への執筆依頼の件 ・重ね重ねお願い、20 日までに原稿を取りに伺う
844	562	葉書	平田次三郎から原民喜あて	(昭和 24 年)6 月 10 日記	拝復。別冊の折口氏の書評了承いたしました。詳しいことは ・別冊の折口氏の件了承 ・「近代文学」の小説、是非お願いします
845	563	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 24 年 9 月 9 日消印	お便り久し振りでうれしく拝受。・「群像」の感想 ・ゲーテの原稿依頼は了承 ・貴誌で毎月 2 頁位、演劇について掲載してほしい
846	837	封書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 24 年 11 月 5 日記	拝啓 いつぞやは大変申し訳ない失礼仕りまして、誠にお詫びの申し様とさせていただきます。・不義理のお詫び ・「那須国男一人と作品一」の原稿は、の締切はまだ間に合うでしょうか ・実業之日本社 200 字詰原稿用紙
847	564	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 25 年 2 月 2 日消印	御転居のお通知拝受。ご無沙汰いたしをりました。 ・転居通知受取る ・絵はがき(上村松園 夕暮)
848	565	葉書	平田次三郎から原民喜あて	昭和 25 年月日未詳	御元氣のことゝ存じます。この度「近代文学」八月号を、・「銷夏特別号」への寄稿依頼

849	838	封書	平田次三郎から原民喜あて	年未詳 3月25日記	原民喜様 三月廿五日 佐々木基一氏を通じてお願い申上をきました・依頼した創作集の原稿をの者に預けてほしい・未投函(切手、あて先なし)・200字詰原稿用紙、近代文庫社の封筒
850	839	(封書)	平田次三郎から原民喜あて	年未詳 6月4日記	原民喜様六月四日 小社宛編集部より御申越の「近代文学の現状」という記事を送付・過日の「小説集」未完のお詫び・短編の原稿8月10日までほしい・200字詰原稿用紙、封筒無し
851	567	葉書	藤井康博(やすひろ)から原民喜あて	昭和22年1月1日記	謹賀新年 元旦・年賀状
852	840	封書	藤井やすひろから原民喜あて	昭和22年6月17日記	前略 お葉書うれしく拝見しました。・25日に編集室により、エッセイを持ち帰りたい
853	568	葉書	藤井康博から原民喜あて	(昭和24年)1月1日記	謹賀新年 本年もよろしく御指導下さい・年賀状
854	569	葉書	藤井康博から原民喜あて	年月日未詳	お葉書有難うございました。今後も送稿致しますから・詩稿以外のものも見ていただきたい・甥御さんの下宿の件はあまりご期待なさぬように
855	571	葉書	藤川栄子から原民喜あて	昭和23年月日未詳	遠路をはるばるとお出願ったりお礼状をいただいたり・訪問や礼状のお礼
856	570	葉書	藤川栄子から原民喜あて	昭和24年3月7日消印	前略、御丁寧に御書面をいただき其と「夏の花」2冊お送りいただき・「夏の花」のお礼・カットのこと・アトリエを移転した
857	572	葉書	古山登(改造編集局)から原民喜あて	昭和25年10月23日消印	冠省、先日御便り中の(遙かな旅)、御待ちして居りますが、「遙かな旅」の原稿を至急送付してください
858	254	葉書	近代文学社から原民喜あて	昭和24年6月1日消印	拝啓、其後愈々御健筆と存じます・テーマ「今後の文学」、十枚執筆依頼
859	573	葉書	文潮社から原民喜あて	昭和24年10月24日消印	拝復お葉生拝承御稿料遅延を重ね・稿料支払い遅延のお詫び・来月中旬頃までにはお届けします
860	574	葉書	分銅惇作から原民喜あて	(昭和22年)6月16日記	拝啓、昨日は突然お訪ね致し、御多忙中の所を、誠に失礼致しました。「千家元麿詳論」を、是非ご一読下さい
861	575	葉書	文圃堂書店から原民喜あて	昭和10年6月13日消印	拝復、お問合せ「宮沢賢治全集」は申込金はいりません。「宮沢賢治全集」申し込みの質問についての返事・往復はがき(返信)
862	842	封書	平和をまもる会から原民喜あて	昭和24年7月20日記	平和擁護基金募集についてのお願い・平和擁護基金へのご意見と、援助のお願い・総会議事録と会名簿・活版刷
863	576	葉書	平和を守る会から原民喜あて	昭和24年8月12日消印	平和をまもる集い 首切りと弾圧、デマと挑発これこそ戦争の準備だ・平和をまもる集いの招待券
864	843	封書	平和をまもる会から原民喜あて	昭和24年12月12日記	おねがい 四月の平和擁護大会以来九ヶ月を経まして・機関誌の発行計画・会費送付の案内・「全面講和促進大会」の招待券・活版刷
865	584	葉書	法政大学父兄会から原民喜あて	昭和23年9月19日記	謹啓 初秋の候益々御健勝のこと・拝察慶賀の致りに存じます。・第五回教養講座の案内
866	585	葉書	鳳文書林から原民喜あて	昭和23年1月13日消印	前略 高原に関しましては種々絶大なる御援助を賜り有難たく・「高原」第5集、未着の件の問い合わせの返事

867	577	葉書	星野辰雄から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 12 日記	拝啓、過日は御著書のご恵送与り厚く御礼申し上げます。本の礼状・ジュネーブでの国際労働議会に出席する
868	579	葉書	堀口大学から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 5 日記	お手紙拝見いたしました。ご来示のやうな諸条件の・依頼内容にあった原作を思いつかない・絵はがき(白根大風合戦)
869	578	葉書	堀口太平から原民喜あて	昭和 26 年 2 月 17 日記	第三号凝視発行の準備をいたして居ります。「凝視」3号の原稿を至急送付下さい
870	580	葉書	堀越秀夫から原民喜あて	(昭和 23 年)2 月 28 日消印	前略、暫く御無沙汰して居りますが御変りなく。「三田文学」3 月号がまだ届いておりません、以前住所変更をお知らせしたのですが、どのようになっていますか
871	581	葉書	堀越秀夫から原民喜あて	昭和 23 年 11 月 10 日消印	秋も深くなりましたが、御健筆のことへ存じます。・原稿「墓地」は如何でしたか、お知らせください
872	582	葉書	堀越秀夫から原民喜あて	昭和 24 年 5 月 6 日消印	陽春の季節も過ぎて、夏に近づこうとして居りますが、・結婚、転居のお知らせ
873	844	(封書)	本多秋五から原民喜あて	昭和 23 年 10 月 2 日記	前略「ある女の生涯」といふのは、私の友人で、郷里の小学校の校長・友人の原稿「ある女の生涯」を三田文学に掲載してもらえないか・第一回近代文学同人会の開催案内・封筒無し
874	583	葉書	本多秋五から原民喜あて	昭和 24 年 8 月 4 日記	拝啓 毎日大へんな暑さですが、いかがお暮しですか・遠藤周作氏の神西清論の乗っている「三田文学」をお送り下さい・佐々木君と一緒に海へ来ませんか
875	587	葉書	牧章造から原民喜あて	昭和 25 年 11 月 17 日記	前略、昨日御詩稿拝受いたしました。・「岬」へ載せるはずの詩を「凝視」へ頂きたいと思ひます。「凝視」をご支援くださるようお願いいたします
876	588	葉書	牧章造から原民喜あて	(昭和 25 年)11 月 30 日記	①急激な寒波襲来でおどろきましたが、御元気でいられますか。・作品を「凝視」へ頂くことに決め、ご了承下さい。・十一日会は十七日に梶山氏宅に決定。・1/2 枚目(589 へ続く)
877	589	葉書	牧章造から原民喜あて	(昭和 25 年)12 月 1 日消印	②こんどは上林さんと、耕さんがみえられる筈です。そのほか、新しい人・以前の原稿を「凝視」が頂いたので、九州の「岬」から(原さんの)玉稿依頼を再三受けている。12 月 10 日頃迄にご無理を願いたい。・2/2 枚目(資料番号 588 の続き)
878	586	葉書	牧章造から原民喜あて	昭和 25 年 12 月 7 日消印	御詩稿ありがとうございます。たびたびの御無心に対して御厚志頂き・「岬」への詩稿の礼状
879	590	葉書	牧章造から原民喜あて	昭和 26 年 1 月 1 日記	祝春照應・年賀状・お年玉くじ付年賀はがき
880	845	封書	増井廉(吉田満)から原民喜あて	昭和 25 年 1 月 28 日記	謹賀新春 昨年中は一方ならぬお世話様に相成りました。・昨年 11 月に札幌文学会設立・吉田満から増井廉と改名・転送符付
881	887	(封書)	吉田満から原民喜あて	年未詳 7 月 12 日記	謹啓 盛夏の候と相成りました。・「連続せる断片」を三田文学掲載していただいたお礼・200 字詰原稿用紙、封筒無し
882	591	葉書	増田博から原民喜あて	昭和 22 年 12 月 16 日記	御手紙拝見しました。・発表を中止してほしい・プレスコード検印有
883	592	葉書	松本恵子から原民喜あて	昭和 23 年 3 月 13 日記	御はがき拝見致しました。「戦後の子供」四月二十日までに・「戦後の子供」を 4 月 20 日までに送る

884	846	(封書)	松本恵子から原民喜あて	年未詳 3月18日記	来月から少し忙しくなりますので、お約束の原稿を急いで書いてしまいました。・原稿を急いで書いたのが長くなった・封筒無し
885	847	(封書)	松本恵子から原民喜あて	年未詳 7月1日記	先日は失礼いたしました。「人魚姫」について三枚書きましたが、こんなので「人魚姫」を3枚書いた・民喜の童話を楽しみにしている・封筒無し
886	1431	空封筒	間宮茂輔から原民喜あて	昭和23年1月17日消印	速達
887	602	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和22年7月24日消印	十二号目次拝見。・後記を早速書きます・平田君やその他の初めての人の紹介をお願いします。
888	593	葉書	丸岡明から原民喜あて (三田文学編集部)	昭和21年4月23日消印	前略お端書と原稿、確かに落手致しました。・端書と原稿受取りました。
889	594	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和21年6月24日記	先日はおいで頂き有難う存じました。・土曜日に六号記原稿を落手・住所連絡
890	595	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和21年7月9日消印	金曜日にはわざわざおいでいただきながら、留守にして失礼申上げました。・詩稿を見て、いいものを選んでほしい・別便で詩稿を送った・プレスコード検印有
891	596	葉書	丸岡明から原民喜あて	(昭和21年7月29日)	1雑誌おかげで活発になって来ました。・「夏の花」を拝見、少々危険のようです。・六号記を又ひとつお願いします・プレスコード検印有
892	597	葉書	丸岡明から原民喜あて	(昭和21年11月18日)	△山本君といふ塾生の詩が来てゐます。見てやってください。・「夏の花」を思い切って9号に発表したい・いけない所を校正の時に直してほしい・プレスコード検印有
893	598	葉書	丸岡明から原民喜あて	(昭和21年)月未詳10日消印	前略 投稿の詩、それから、前々から・投稿の詩と、他の詩をひとまとめにして別便で送った・意見を聞かせてほしい
894	599	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和22年3月9日消印	昨日、「人間」の松田一谷君が来て、君に小説を書いてもらいたい・「人間」の松田一谷君が君に小説を書いてほしいといっているの、一度訪ねてください
895	600	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和22年4月23日消印	○幸川君の長篇「掌の性」短篇集「夜の虹」美紀書房より・加藤道夫君が「創作」面白い文章を書いていたが、新劇時評をかいてもらえないか・プレスコード検印有
896	608	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和22年5月11日記	編集後記受取りました。又お手紙の旨よく判りました。・叢書の方「夏の花」以下の結構です。・日射病になりました。
897	848	封書	丸岡明から原民喜あて	昭和22年6月14日消印	前略 お端書拝見しました。先日は失礼いたしました。・文芸春秋の花房氏へ会ってみませんか・名詞同封します・400字詰原稿用紙
898	607	葉書	丸岡明から原民喜あて	(昭和22年)6月25日記	先日の原稿、松田君から戻って来ました。・先日の原稿が松田君より戻る、異なったものでもう一度書き直してほしい・プレスコード検印有
899	601	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和22年7月4日消印	今、弟が来て、雑誌をもって来てくれました。淋しい表紙ですが・東方社新人小説集の件で小説をひとつ選んでほしい
900	603	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和22年9月10日消印	△11号はもう製本中であることを云って頂くこと。・今後検閲を受けねばならなくなるので心配

901	604	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和 22 年 9 月 16 日記	今日岩崎君がみえ、西脇さんの本のこと進行するやうよく・中村真一郎氏の詩論集はどうなりましたか・あなたの小説集の題名は何となりますか
902	605	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和 22 年 10 月 7 日記	十二号 頁の都合で、土橋和彦君の原稿を、十二号に廻すことにしました。・土橋和彦君の原稿を 12 号に廻します・15 号の巻頭原稿がなくなったので心当たりがあれば依頼してほしい
903	606	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和 22 年 10 月 21 日消印	先ほどは失礼しました。神田の事務所の件・青木巖氏にも、学校宛に原稿依頼せよ・新人号は中村喜一郎君に小説を書いてほしい
904	609	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和 22 年 11 月 10 日記	ながらく神田へ出掛けず、万事お願いして申訳ない・三田文学後記拝見・ざくろ文庫の編集会をやろう
905	610	葉書	丸岡明から原民喜あて	昭和 25 年 2 月 20 日記	先日は留守にして残念しました。やっと熱はひきましたが、風邪のため・「夏の花」の時の未使用の絵を雑誌に使いたいのので貸してほしい・ペンクラブの広島行きで話したいことあり
906	611	葉書	丸岡明から原民喜あて	年月未詳 27 日記	○履歴書の人どうなりましたか。今日弟に、庄司君の短篇「豚」を渡しました。・庄司君の短編「豚」は 14 号に入りますか・鈴木重雄君は 15 号に「黒い小屋」を載せたい・新人号について
907	612	葉書	丸岡明から原民喜あて	年月未詳 20 日記	▲庄野、原、南川、太田、二宮、庄司、諾否を取った方がよいでせう。・「新春随筆特集」の提案
908	613	葉書	丸岡明から原民喜あて	年未詳 12 月 15 日消印	▲出せるやう考えへておます。16 号編集有難う存じました。・16 号編集こと・水上さんの会について・水上賞を出せるよう考えている
909	614	葉書	丸岡明から原民喜あて	年未詳 7 月 1 日記	△説を発表したもの一人、推薦するやうに云って来ました。・雑誌をもっと文学的にしましょう・東方社から今までに小説を発表した新人一人を推薦するよに言ってきた
910	615	葉書	丸岡明から原民喜あて	年月未詳 30 日記	いつぞや世話をしてみた聖書物語書く気がありますか。四〇〇枚に書きませんか。・聖書物語を 400 枚書きませんか・初版五千部、六万円ぐらいになるはず
911	849	(封書)	丸岡明から原民喜あて	年未詳 4 月 3 日記	前略、体の調子悪く、このところ、連絡が取れず申訳ない次第です。・三田文学 9 月号創作特集の編集を手伝ってください・謡曲界 250 字詰原稿用紙、封筒無し
912	850	(封書)	丸岡明から原民喜あて	年月日未詳	前略 三田文学の今度の小説、再読、大変に面白く思いました。・こちらの叢書の小説集、夏の花など一連の小説に編んでほしい・封筒無し
913	851	(封書)	丸岡明から原民喜あて	年未詳 5 月 14 日記	前略 紅茶会のあとは、遅くまで、ご迷惑でした。・角川君に短篇集の話をしたが、直ぐにどうにかはならない・三田文学の広告について・封筒無し
914	616	葉書	水田博から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 30 日消印	先日は失礼いたしました。早速御返事申上げるところでしたが・頼まれていた下宿の件・当てにしていたところに親戚が入ったのであしからず

915	625	葉書	三田文学編集部から原民喜あて	(昭和23年)11月26日消印	三田文学紅茶会 久しぶりで左記の通り紅茶会を開催致します・11月30日の紅茶会開催のお知らせ
916	626	葉書	三田文学編集部から原民喜あて	昭和25年2月1日消印	拝啓 御健勝のほどおよろこび申し上げます・2月8日の第一回水曜日の案内・孔版刷
917	627	葉書	三田文学編集部から原民喜あて	昭和25年2月4日記	御申越のこと二つとも致しました。今日はとても暖か郊外は・大屋の「赤い波」群像で合評をしてくださる事を嬉しく思います
918	628	葉書	三田文学編集部から原民喜あて	昭和25年3月30日消印	拝啓 御健勝のことと存じ上げます。水曜会を左記の通り致したいと存じます・4月5日の水曜会開催のお知らせ・孔版刷
919	629	葉書	三田文学編集部から原民喜あて	昭和25年6月19日消印	その後は御無沙汰申上げてをります。先日の水曜会は如何・水曜会について・三田文学は送付したが何処かで紛失した様子なので、別便でお送りします
920	630	葉書	三田文学編集部から原民喜あて	昭和25年8月25日消印	拝啓 残暑厳しき折、御変りな・9月6日の水曜会のお知らせ
921	631	葉書	三田文学編集部から原民喜あて	年月未詳7日記	お暑さ厳しうございます折柄御機嫌如何でいらつしゃいますか・別便の雑誌は明治大学の学生が原さんへと持ってきたもの・近況伺い
922	632	葉書	三菱銀行から原民喜あて	昭和23年9月25日記	拝啓 益々御清祥の段御慶び申し上げます。・応募の新株式は御申込額どおり引き受けました。
923	617	葉書	南川潤から原民喜あて	昭和22年11月23日記	御はがき拝受。御元気の御様子は三田文学その他で拝見しておりました。・三田文学に是非書かせていただく
924	618	葉書	南川潤から原民喜あて	昭和23年2月19日消印	御はがき拝受。毎度愚もつかぬものばかり書かせて頂くのは・原稿依頼承諾
925	853	封書	南川潤から原民喜あて	昭和23年7月12日記	太田咲太郎氏、水木京太氏の御死去に対し・三田文学同人として太田咲太郎氏と水木京太氏の御死去に供花していただいたお礼と、代金同封について・書留
926	619	葉書	峰雪栄から原民喜あて	年月日未詳	今年は愉快でしたか。貴方が幸福であつたのなら、もう・忘年会の案内(12月20日)・孔版刷・往復はがき(往信)
927	621	葉書	三宅周太郎から原民喜あて	昭和22年12月10日記	拝復お手紙拝受。皆様御健在の事と存じますが丸岡、長岡君たちへ・雑誌のお礼・締切りの延期を
928	852	封書	三宅周太郎から原民喜あて	年未詳7月18日記	拝復 仰により同封原稿三枚お送り申しますからよろしく。・原稿三枚おくります・上京したいが部屋がない・プレスコード検印、開封シール有
929	622	葉書	宮野正郎から原民喜あて	昭和23年2月16日記	御返稿有難うございました。下らない原稿の注文に追廻されている間・返稿のお礼・「冬の虹」は書き続けるつもり・近々転居予定
930	623	葉書	宮野正郎から原民喜あて	昭和24年4月3日消印	私の想像する以上に御迷惑をおかけした事と存じますが有がたく拝受・迷惑をかけたお詫び・孤独について
931	624	葉書	宮野正郎から原民喜あて	(昭和25年)11月22日記	御返稿有がとうございました。別便にて郵送料お返しいたします。・返稿のお礼・「光りと水」も返稿してほしい
932	620	葉書	宮元さえ子から原民喜あて	昭和23年7月22日消印	お葉がき拝見致しました。エッセイを・エッセイの依頼を承諾

933	854	封書	村次郎から原民喜あて	昭和 22 年 8 月 7 日記	拝復。御厚志有難うございました。・送付した原稿は「坂」「礫」と題しているが、前回の「風の歌」の補稿・封筒に原稿在中とあり
934	855	封書	村次郎から原民喜あて	昭和 22 年 8 月 10 日記	追伸、先に訂正を、又訂正を。・前便の原稿は破棄して、此度のをお願いします。・詩稿「礫」・封筒に原稿在中とあり
935	633	葉書	村次郎から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 28 日記	《三田文学》や稿料送っていただいたのに、年老いた祖父の病重く・「三田文学」の稿料のお礼・近況
936	856	封書	村次郎から原民喜あて	昭和 23 年 7 月 2 日記	〇書いてある自分が・詩以外のジャンルはかけないので辞退させていただきます
937	634	葉書	村次郎から原民喜あて	(昭和 23 年)8 月 8 日記	前略。拙稿お送りしました後で、《控》みてみましたら《坂》四行目に、・原稿に誤りを発見。おまへへ(誤)→おまへに(正)に訂正おねがいします
938	857	封書	村次郎から原民喜あて	昭和 24 年 9 月 6 日記	拝啓。御返事を差上げず、大変遅くなって申し訳ありません。・ご無沙汰のお詫び・作品「遠景」をおくります。やはり、「風の歌」に入るべきものです・速達
939	858	(封書)	村次郎から原民喜あて	年未詳 9 月 24 日記	冠省。かはらない御懇切有難うございます。・詩作「坂」「礫」の推敲の不十分さを後悔している・封筒無し
940	635	葉書	村井満寿子(近代文学同人会)から原民喜あて	昭和 24 年 2 月 24 日記	前略。御著『冬の花』を近代文学サロンの書評にとりあげさせていたぶきたいと存じますが、・「冬の花」を近代文学サロンの書評にとり上げるので、一冊お贈り頂きたい
941	636	葉書	村井満寿子(同人ニュース編集室)から原民喜あて	昭和 24 年 6 月 29 日消印	不順な天候でございますがいかばお過しでいらつしやいませうか・近いうちに同人ニュース 9 号発行したいので近況および新刊等を編集室までお寄せ下さい・往復はがき(返信せず)
942	637	葉書	目黒一から原民喜あて	昭和 25 年 1 月 7 日消印	新春を迎えて喜びを感じます。・お年玉くじ付年賀はがき
943	859	(封書)	安田保男から原民喜あて	年月日未詳	暑中御伺ひ申上ます。先生には益々御活躍のこと、拝察、誠に慶賀に堪へません。・作品「君は」を送付・封筒無し
944	862	封書	薮崎正壽から原民喜あて	昭和 24 年 6 月日未詳	原民喜先生 小生は一切の面に於る明確な自信の・詩を同封(雑誌切抜、詩 5 篇)、助言してほしい・「三田文学」の送付依頼・「或る日」「自画像」2 篇の詩を記載・エアーメール、プレスコード検印、開封シール有
945	860	封書	薮崎正壽から原民喜あて	昭和 24 年 11 月 20 日記	原様 御返信本日頂戴いたしました。・三田文学のお礼・砂糖を送ります・詩稿「面」「なげうり」「道化」・エアーメール
946	861	封書	薮崎正壽から原民喜あて	昭和 25 年 8 月 3 日消印	原民喜様 もつと早く便りしなければならなかったのですが・日本への送金困難・ブラジルのサンパウロへ移転・本の共同購入についての相談・「瘦犬」「途上」「旅情」「山中の石」の 4 篇の詩記載・エアーメール、転送符付
947	640	葉書	山尾和子から原民喜あて	昭和 24 年 4 月 11 日消印	前略、陽春の候益々御健闘の事と存じ上げます。さて、今回・萬里閣編集部を 3 月で退職することになった。今後、一切の連絡は佐藤氏に

948	638	葉書	山室静から原民喜あて	昭和23年10月12日記	昨日御手紙認めたのですが、何だか、アドレスを書かずに・ザクロ文庫へ載せる作品の相談
949	863	封書	山室静から原民喜あて	昭和24年2月5日記	原民喜様 先日はお手紙ありがとうございました。・三田文学の随筆「花について」は近日中に送る予定・「夏の花」に期待しています。
950	639	葉書	山室静から原民喜あて	昭和24年6月23日消印	おたよりありがとうございました。・講演日程の打ち合わせ、簡単であれば2日にやっても結構です
951	864	封書	山室静から原民喜あて	年未詳10月10日記	原民喜様 ザクロ文庫に何か訳すやうにこのおすゝめありがとうございました。・ザクロ文庫への作品出品承諾・内容構想4つ
952	641	葉書	石橋貞吉(山本健吉)から原民喜あて	昭和24年3月25日消印	拝啓 益々御清栄の事御慶び申し上げます・結婚、転居の報告・活版刷
953	642	葉書	山本達也から原民喜あて	昭和22年11月22日記	冠省、いま帰郷の途中車中でペンを走らせておます。・「花のソネット3」の最後の二行を「今は薫れさゆらいで迫り来る夕間の薄明の中に」と直します。
954	643	葉書	山本達也から原民喜あて	昭和23年1月3日記	拝復、お正月に暫く上京しました。三田文学二冊、僕の留守に届いて・新潟に転居予定・「越路」という中篇を書き始めた
955	865	(封書)	山本達也から原民喜あて	年月日未詳	詩原稿受取りました。・詩稿受取る・学校へ勤務するのは4月の予定・「花のソネット3」だけ出しました。1と2は送ります・封筒無し
956	866	(封書)	山本達也から原民喜あて	年月日未詳	拝啓 此方は二月も終らうといふ此頃になってまた寒い日々が続いて雪が降り積んでおます・「花のソネット3」ができたので送ります。・資格審査委員会に書類を提出・封筒無し
957	867	(封書)	山本杜夫から原民喜あて	年未詳8月20日記	御無沙汰いたしてをります。夏の休みに上京してお訪ねするつもりでをりましたが、・ソネット2つ「秋に」「何時からか」を同封・教師生活のこと・新人文芸化名簿に名前「山本杜夫」が載る・400字詰原稿用紙、封筒無し
958	644	葉書	吉田小五郎から原民喜あて	(昭和23年)2月16日記	御ハガキ拝受。只今駄原稿の執筆で多忙、もう二ヶ月したら、・多忙につき、二ヶ月したら何かお届けできると思う、シャギエルに困んだものを書きたい・プレスコード検印有
959	868	封書	吉田小五郎から原民喜あて	昭和23年8月31日記	八月三十一日 原様 お約束の期限を外し、申訳ないと思ひます・遅れていた原稿を昨日書き上げた、届けます。・速達便、プレスコード検印有
960	645	葉書	吉田小五郎から原民喜あて	昭和23年9月27日記	過日は御手数おかけしまして相すみませぬ。・別便でお送りしました。
961	646	葉書	吉田小五郎から原民喜あて	昭和24年7月17日記	御懇書正に落手。休暇中に必ず何か書いておとゞけます。・休暇中に何か書きます。・三田文学のお礼
962	869	(封書)	吉田小五郎から原民喜あて	年未詳9月20日記	九月二十日 原様 先日送りました原稿の中、気になる箇所がありましたので・訂正箇所あり、原稿返送願ひ・封筒無し

963	870	封書	吉村英夫(臼井書房)から原民喜あて	昭和 22 年 4 月 26 日記	略 御無沙汰致してみます。その後お変わりありませんでせうか。・別便にて「詩風土」4月号と「江戸時代語の研究」を送る。・「国語国字問題」特集への回答葉書紛失のため、再依頼。・速達。・200字詰原稿用紙
964	871	封書	吉村英夫から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 5 日記	略 過日お便り有難く頂戴致しました。・「かりそめの夫婦」に対する批評のお礼。・「家なき人々」という長編に挑んでいる。・200字詰原稿用紙
965	872	封書	吉村英夫から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 10 日記	略 暑さも激しくなつて参りましたが、お変わりなくお暮しのことと存じます。・「詩風土」7月号の原稿料同封。・「詩風土」と「三田文学」の誌上で交換広告をしてくれないか。・200字詰原稿用紙
966	647	葉書	吉村英夫(「詩風土」編集室)から原民喜あて	昭和 22 年 7 月 18 日消印	本日は三田文学広告原稿慥かに頂戴しました。種々御配慮に預り。・三田文学の広告原稿受取る。・長光太氏の原稿を下さり感謝。詩風土17集に載せる予定
967	648	葉書	吉村英夫から原民喜あて	(昭和 22 年)8 月 8 日消印	暑中お見舞申上ます。明日詩風土八・九月号お届け致します。・三田文学の広告に誤植があり申し訳ない。・詩「廃者」について。・1/2 枚目(資料番号 649 へ続く)
968	649	葉書	吉村英夫から原民喜あて	昭和 22 年 8 月 8 日消印	②(といつても前句と、附句の発展的飛躍はせず)を取り入れました。・詩に就いて。・山本健吉氏とよく会う。・2/2 枚目(資料番号 648 の続き)
969	650	葉書	吉村英夫から原民喜あて	昭和 22 年 8 月 24 日消印	略 早速御返事頂きまして有難く存じました。・京都で作家クラブ結成予定。・若尾氏の住所をついでの折にでもお教え下さい。・プレスコード検印有
970	651	葉書	吉村英夫から原民喜あて	昭和 22 年 9 月 18 日消印	略 すつかり秋らしくなりました。昨日城さんが東京から見え、・若尾氏、真下氏、大月氏、の諸氏をご紹介に預りお礼申し上げます。
971	652	葉書	吉村英夫から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 13 日消印	お便り有難く頂きました。京都はこの二三日見違へる程暖くなりました。・長女が誕生しました。・今年はずっくり取り組んでいきたい
972	653	葉書	吉村英夫から原民喜あて	昭和 23 年 9 月 22 日消印	大変御無沙汰してみます。その後お活躍の程。・「存在」4 号の「抵抗について」について。・三田文学の広告の件
973	873	封書	吉村英夫から原民喜あて	昭和 24 年 4 月 25 日記	御返事を早速頂き有難く存じました。・若尾さんに会い、「夏の花」について語った。・山岸外史「眠られぬ夜の詩論」別送する。・200字詰原稿用紙
974	654	葉書	吉村英夫から原民喜あて	昭和 24 年 6 月 18 日消印	前略、突然お窺ひしてお疲れの処大変御迷惑をおかけしました。・「存在」が三田文学の姉妹誌になる。・三田文学で近代詩集特集をしていただきたい
975	874	(封書)	吉村英夫から三田文学会(原民喜)あて	年未詳 5 月 2 日記	前略 つまらぬ作品ですが、余白があれば掲載して頂ければと思い、送附しました。・作品送付、よければ掲載してほしい。・200字詰原稿用紙、封筒無し

976	875	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年未詳 5月20日記	略 過日は、玉稿御恵稿に預り厚く御礼申上ます。・「朝・晝・夜」は「詩風土」に頂いた。・三田文学所載の「はじめての朝」以下の作品は「日本浪漫詩集」に入れました。・200字詰原稿用紙、封筒無し
977	876	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年未詳 7月18日記	拝復 お端書拝見致しました。・最近作を同封する。・「詩風土」の編集が予定通りいかないの困っている。・200字詰原稿用紙、封筒無し
978	877	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年未詳 8月2日記	略、いろいろ御配慮に預り厚く御礼申上ます。・作品「はじめての朝」を、できたらまた見てほしい。・未使用の原稿用紙別送。・臼井書房編集室 400字詰原稿用紙、封筒無し
979	878	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年未詳 9月13日記	略、この前は大変失礼致しました。・「貧しき詩」を読んでもらったお礼。・近作を同封しています。・臼井書房 400字詰原稿用紙、封筒無し
980	879	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年未詳 9月27日記	この前、若尾氏が、わざわざ私の方まで訪れてくれました。・山本健吉夫人の告別式へ参加する。・エッセイ同封。・臼井氏と意見が合わず、12月号で「詩風土」から手を引く。・臼井書房編集部 400字詰原稿用紙、封筒無し
981	880	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年未詳 9月27日記	略 お便り頂きながら、遅れて失礼しました。・原稿用紙の代金は支払いましたので結構です。・野長瀬氏の住所記入。・臼井書房小型便箋、封筒無し
982	881	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年未詳 10月10日記	略、秋冷の頃、御多忙中の事と存じます。・以前送った「はじめての朝」後半部分を推敲、近作も同封。・京都は文化祭で賑わう。・臼井書房編集室 400字詰原稿用紙、封筒無し
983	882	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年未詳 10月15日記	拝復、早速御返事に接し有難く存じました。・「はじめての朝」の訂正原稿と詩を送付、原稿を差し替えてほしい。・「詩風土」10月号近日中に送る。・臼井書房編集室 400字詰原稿用紙、封筒無し
984	883	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年未詳 11月2日記	略 色々御配慮に預り、恐れ入ります。・山本健吉氏に会い、詩に対する私の考えに激励して頂いた。・新年に上京したいと思っている。・臼井書房用箋、封筒無し
985	884	(封書)	(吉村英夫から原民喜あて)	年月日未詳	本日、早速御返事を頂き、有難く存じました。・詩論。・少しづつ連句の表現方法を勉強したい。・季刊誌を出す予定。・臼井書房 270字詰原稿用紙、封筒無し
986	885	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年月日未詳	略 上京中は大変御迷惑をかけました。・三田文学 15号の広告原稿をいただいた。・詩稿「はじめての朝」同封。・臼井書房 400字詰原稿用紙、封筒無し
987	886	(封書)	吉村英夫から原民喜あて	年月日未詳	早速御返事頂き有難く存じます。・詩「かりそめの夫婦」何度も推敲し、詩風土 6月号へ載せた。・詩の話、接続詞について。・三田文学へ臼井氏と小池を紹介してくれた事感謝。・臼井書房編集部 400字詰原稿用紙、封筒無し

988	888	封書	羅府新報編集部から原民喜あて	昭和 23 年 8 月 12 日記	前略 本日貴稿掲載の三田文学三冊御寄贈を泰くし・原民喜の作品の載った三田文学を受取る・羅府新報への転載断わる・封筒の内側に本文有(はがきレター)、エアメール
989	889	封書	紀伊国屋書店レツェンゾ編集部から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 13 日記	拝復、本日御送附の弊誌五月号に掲載の・5月号に掲載の広告原稿及び、広告料金を受取る・一枚五圓也の領収書あり・レツェンズ編集部の便箋
990	893	封書	若尾徳平から原民喜あて	(昭和 23 年)4 月 7 日記	お葉書ありがたく拝受致しました。・近作短篇を同封いたします。「母子裸像」を書いたので、三田文学の埋め草になれば幸いです・東横映画用箋
991	892	封書	若尾徳平から原民喜あて	(昭和 23 年)5 月 6 日記	原民喜様 お元気でいらつしやいますか。・丸岡さんより原稿を送るようお手紙を頂いたので、下手ですが、送ります・400 字詰原稿用紙
992	656	葉書	若尾徳平から原民喜あて	昭和 26 年 1 月 1 日記	謹賀新年 元旦・年賀状・お年玉くじ付年賀はがき
993	1435	空封筒	若尾徳平から原民喜あて	年月日未詳	・東横映画宣伝部の封筒・速達
994	655	葉書	和木京太から原民喜あて	(昭和 23 年)11 月 24 日記	啓上。公用の御手紙拝読。大晦日まででいいとあれば、何と都合しても・何と都合をつけても原稿をお送りします。
995	890	封書	和木京太から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 7 日記	原民喜様 御懇書誌に白水社を通じての貴著の御恵贈にあづかり御好意有り難く存じます。・著書恵贈のお礼
996	891	封書	和木清三郎(三田文学会)から原民喜あて	昭和 10 年 4 月 17 日消印	啓上 先日は美しき御本「焰」一部・「焰」の礼状・慶応義塾用箋、封筒
997	657	葉書	渡国一之から原民喜あて	昭和 23 年 2 月 12 日消印	拝復。いつも御世話になって居ります。・原稿の件今月は無理。・信州浅間温泉の絵はがき
998	658	葉書	渡国一之から原民喜あて	昭和 24 年 7 月 3 日消印	恐縮いたして居ります。・恐縮しております・宛名連名
999	894	(封書)	原民喜あて発信人未詳	年月日未詳	拝復。お書状有難うございました。久しい・5 枚ほどの依頼の原稿を送ります・以前送った短篇と随筆も早めに載せてほしい・封筒なし(草野新平の書簡に同封されいたもの)
1000	895	封書	原民喜あて発信人未詳	年月日未詳	原民喜先生三田文学の隆昌を喜んでゐる一人です。・原民喜の愛読者から作品投稿の際の同封の手紙・200 字詰原稿用紙

### (3)遺書

目録番号	資料番号	資料名	年月日	注記
1001	969	原民喜から永井すみ子あて遺書	年月日未詳	長い間御世話にばかりになりました 貞恵と死別れて六年あまりも生きてまいりました・新教育事業協会 200 字詰原稿用紙、封筒無し、佐々木基一宛(資料番号 969)に同封
1002	970	原民喜から佐々木基一あて遺書	年月日未詳	ながい間、いろいろ親切に頂いたことを嬉しく思ひます。・400 字詰原稿用紙、封筒入り

### 3. 名刺

目録番号	資料番号	資料名	年月日	注記
------	------	-----	-----	----

1003	998	名刺	青木茂	東京帝国大学文学部社会学科
1004	999	名刺	青山庄兵衛	(株)山王書房取締役
1005	1000	名刺	青山庄兵衛	(株)思索社編集部
1006	1001	名刺	朝倉稔	大同レーヨン(株) 南川潤より 裏一住所の記入有
1007	1002	名刺	遊部久藏	慶應義塾大学経済学部助教授
1008	1003	名刺	厚見進	理研映画(株) 教育映画部長
1009	1004	名刺	尼寺誠一郎	東邦産業研究所 裏一住所記入有
1010	1005	名刺	荒正人	近代文学者 宮川氏を紹介
1011	1006	名刺	荒木武	広島市議会議員文教委員長
1012	1007	名刺	池島信平	文芸春秋新社編集局長 兼「文芸春秋」編集長
1013	1008	名刺	イサト ツネアツ 爲郷恒淳	読売ウィークリー編集部次長 読売新聞記者略歴3枚と記入有
1014	1009	名刺	石井立	筑摩書房編集部
1015	1010	名刺	石塚美子	泉社「講談の泉」編集部
1016	1011	名刺	石橋晃一	集英社編集部 五枚(動物)、絵、二半、山、三年と記入有 裏一各7枚と記入有
1017	1012	名刺	石橋貞吉(山本健吉)	図書出版角川書店編集長
1018	1013	名刺	石森俊夫	大日本雄弁会講談社「少女クラブ」編集部
1019	1014	名刺	石山皓一	(株)苦楽社「苦楽」編集部
1020	1015	名刺	イズミ 出海 偉佐男	(株)「主婦と生活社」編集局
1021	1016	名刺	井田源三郎	講談社「キング」編集部
1022	1017	名刺	伊藤正三	時事通信社
1023	1018	名刺	伊藤進一	津上商事株式会社取締役雑貨部長
1024	1019	名刺	乾直恵	東京出版株式会社 裏一住所記入有
1025	1020	名刺	稲吉正治	能楽出版社監査役
1026	1021	名刺	今井達夫	馬込町東三丁目 手書きの名刺 裏一地図記入有
1027	1022	名刺	今野円輔	東京日日新聞社文化部
1028	1023	名刺	岩崎良三	慶應義塾大学予科教授
1029	1024	名刺	上村一之	株式会社信英堂
1030	1025	名刺	薄田純一郎	中国新聞社編集局
1031	1026	名刺	梅野幸一	ルネサンスコットンクラブ
1032	1027	名刺	梅野幸一	東京市新宿 裏一梅野宅への手書きの地図
1033	1028	名刺	海老塚富夫	(株)三洋商会農水産第一部
1034	1029	名刺	海老原光義	岩波書店編集部
1035	1030	名刺	遠藤七郎	図書出版真光社
1036	1031	名刺	大石眞	(株)小峰書店編集部
1037	1032	名刺	太田咲太郎	世田谷区羽根
1038	1033	名刺	大塚達雄	日本電興株式会社経理部財務課
1039	1034	名刺	大橋亀吉	大橋工業株式会社取締役社長 裏一色川氏他13名の記入有
1040	1035	名刺	大橋直矢	安田興業株式会社 圣卒、遠藤周作友人、小説と記入有
1041	1036	名刺	大屋典一	東京都新宿区 集英社金澤一氏への紹介記入有
1042	1037	名刺	岡崎清記	日本交通公社広島支店外国課長
1043	1038	名刺	小川裕	慶應義塾大学法学部政治学科研究会員
1044	1039	名刺	奥野信太郎	慶應義塾大学教授 塾生松村瑛君を紹介します 丸岡明様と記述有
1045	1040	名刺	奥野信太郎	三田文学会 招待券と記述、押印有
1046	1041	名刺	小倉豊文	広島大学文学部史学科
1047	1042	名刺	尾竹二三男	城南印刷株式会社

1048	1043	名刺	尾竹二三男		杉並商工新聞編集長
1049	1044	名刺	落合雄三		東西文化通信社週刊インタビュー記者
1050	1045	名刺	尾張幸也		株式会社世界社トップライト編集部
1051	1046	名刺	掛川榮一郎		慶應義塾大学文学部学術研究団体連盟 裏-原稿、次回、指導など記入有
1052	1047	名刺	笠井賢太郎		笠井賢太郎写真工房 裏-大柴朗の住所記入有
1053	1048	名刺	柏木忠人		進路社「進路」編集部 裏-12月10日まで10枚 藤枝静男と記入有
1054	1049	名刺	梶山英夫		(株)賣文館 令女界 若草編集部
1055	1050	名刺	片山修三		(株)思索社取締役社長 裏-地図記入有
1056	1051	名刺	加藤美希雄		新夕刊新聞社文化部 裏-住所記入有
1057	1052	名刺	加藤元彦		慶應義塾大学通信教育部主事
1058	1053	名刺	門向誠治		東西文化通信社週刊インタビュー記者
1059	1054	名刺	金井利博		中国新聞社社会部
1060	1055	名刺	金子耿		共同通信ヨリノ紹介 武麟と記入有
1061	1056	名刺	河内潔士		大阪府岸和田
1062	1057	名刺	川崎俊郎		三井船舶(株) 裏-金千円右オアヅカリ頂シマシタ 川崎 原様と記入有
1063	1058	名刺	川島勝		大日本雄弁会講談社「群像」編集部
1064	1059	名刺	河邊健一		(株)目黒書店「人間」編集部
1065	1060	名刺	河本英三		東京大学学生新聞編集部
1066	1061	名刺	河盛好藏		東京都杉並区
1067	1062	名刺	九島勝太郎		札幌市北五條
1068	1063	名刺	雲井貞長		細川書店
1069	1064	名刺	雲井弘長		細川書店
1070	1065	名刺	栗林種一		文化新聞社編集局長
1071	1066	名刺	小池吉昌		日比谷出版社 娯楽雑誌「文芸読物」編集部 原民喜様今度、日比谷出版社に勤ムいたしました。と記入有
1072	1067	名刺	小池吉昌		千代田区神田駿河台 都立図書館閲覧統計係
1073	1068	名刺	古我菊治		株式会社新樹社
1074	1069	名刺	古賀哲夫		広島図書株式会社 教科書局長、図書館長
1075	1070	名刺	小埜學		社団法人共同通信社特信文化部 24日3枚半と記入有
1076	1071	名刺	小松太郎		鎌倉市大町
1077	1072	名刺	近藤良男		日本放送協会演出部
1078	1073	名刺	紺野耕一		中国新聞社編集部
1079	1074	名刺	齋田昭吉		八雲書店
1080	1075	名刺	齋藤讓一		朝日新聞社東京本社出版局 図書編集部次長 裏-地図記入有
1081	1076	名刺	齋藤稔		大日本雄弁会講談社 出版局文芸課
1082	1077	名刺	坂井朝彦		日本赤十字社振興課「博愛」編集部
1083	1078	名刺	坂部通男		株式会社駿河銀行 賀正と記入有
1084	1079	名刺	坂本一龜		河出書房編集部
1085	1080	名刺	佐々木基一		近代文学社 裏-住所、地図の記入有
1086	1081	名刺	佐々木基一		近代文学社連絡事務所 共同書房、文学時標社に抹消線を引き、手書きで修正
1087	1082	名刺	佐藤信		朝日新聞東京本社 アサヒグラフ編集部 朝日新聞記者
1088	1083	名刺	佐藤達雄		日本電興株式会社 労働組合書記長 抹消線有 裏-日本電興(株)経理部 大塚達雄氏より昭和25年4月16日の短信有
1089	1084	名刺	佐野文哉		株式会社巖松堂書店編集部

1090	1085	名刺	篠原盛藏	長崎市市長室附 兼調査統計課長
1091	1086	名刺	清水三郎	東京都大森局
1092	1087	名刺	志村孝夫	河出書房編集部
1093	1088	名刺	菅野喜勝	朝日新聞東京本社 出版局写真部
1094	1089	名刺	菅原利雄	東京都台東区浅草橋
1095	1090	名刺	杉森久英	河出書房
1096	1091	名刺	杉村友一	文芸春秋新社「文学界」編集部
1097	1092	名刺	鈴木重雄	世界経済新聞、大阪新聞 編集局文化部
1098	1093	名刺	鈴木重雄	世界日報文化部 裏一地図記入有
1099	1094	名刺	鈴木重雄	産業経済新聞、大阪新聞 編集局文化部 婦 3枚と記入有
1100	1095	名刺	鈴木重雄	三田文学会
1101	1096	名刺	鈴木晴義	株式会社信英堂社長 9月6日と記入有
1102	1097	名刺	雀	趣味の焼鳥
1103	1098	名刺	須永昭	巖松堂出版株式会社「芸苑」「生活学校」編 集部 裏一飲まねえと北村という友達を失うと 記入有
1104	1099	名刺	瀬尾欽一	梓書房
1105	1100	名刺	千勝三喜男	角川書店編集部
1106	1101	名刺	高木四郎	河出書房 裏一草野心平住所の記入有
1107	1102	名刺	高聳幸雄	主婦之友社編集部 出版課長
1108	1103	名刺	高橋清次	大日本雄弁会講談社「群像」編集長 六月十 日百枚、裏一19字詰 71行群像七月号と記入 有
1109	1104	名刺	田川博一	文芸春秋新社「文芸春秋」編集部
1110	1105	名刺	竹内良夫	読売新聞社 編集局文化部
1111	1106	名刺	竹田博	河出書房「文芸」編集部
1112	1107	名刺	竹之内静雄	株式会社筑摩書房 専務取締役
1113	1108	名刺	多田久次	文明社「文明」編集部
1114	1109	名刺	田中淳剛	慶応義塾 文研幹事 裏一慶応義塾大学学術 研究団体連盟の住所
1115	1110	名刺	丹波靖	文学界社
1116	1111	名刺	常田富之助	株式会社 目黒書店「人間」編集部
1117	1112	名刺	角田富江	劇団東童
1118	1113	名刺	鶴岡朝子	社団法人東京実業組合連合会 東京実業社 「福」発行所
1119	1114	名刺	徳田一穂	東京都文京区 裏一江藤氏の照会文記入有
1120	1115	名刺	豊田清史	広島県教育委員会社会教育課 中国新歌人 連合 裏一6時-7時プチピエルと記入有
1121	1116	名刺	十和田操	東京都目黒区 裏一地図の記入有
1122	1117	名刺	中井正文(文彦)	広島県佐伯郡
1123	1118	名刺	中川啓造	株式会社 三和銀行室町支店支店長代理
1124	1119	名刺	中川雅枝	新大阪新聞社東京支局 4枚月末と東京日日 新聞社の住所記入有
1125	1120	名刺	中戸川宗一	文芸春秋新社「文芸春秋」編集部
1126	1121	名刺	中野王吉	夕刊中国社編集局報道部長
1127	1122	名刺	中野達彦	真善美社編集部 裏一野田開作住所記入有
1128	1123	名刺	中山勝次	世界日報文化部
1129	1124	名刺	中山崇	工学院工専科学工業科 一枚は住所変更記 入有
1130	1125	名刺	長尾正憲	広島図書株式会社編集局長
1131	1126	名刺	長岡光郎	日本出版協会日本読書新聞編集部
1132	1127	名刺	那須國男	(株)目黒書店「人間」編集次長 岩本修三氏 の照会文の記入有

1133	1128	名刺	根岸茂一		三田文学会
1134	1129	名刺	野原一夫		図書出版角川書店編集部
1135	1130	名刺	野原一夫		(株)月曜書房編集部
1136	1131	名刺	橋川文三		潮流社「潮流」編集部
1137	1132	名刺	羽白幸雄		広島大学教授 広島ペン・クラブ幹事長
1138	1133	名刺	長谷川俊吉		岐阜県大井保健所
1139	1134	名刺	濱井信三		広島市長
1140	1135	名刺	原民喜		三田文学編集部 裏-荒井幸江氏の住所記入 (一枚のみ)
1141	1136	名刺	原民喜		武蔵野市住所記入
1142	1137	名刺	原民喜		三田文学編集部
1143	1138	名刺	原民喜		(株)朝日映画社演出課
1144	1139	名刺	原通久		近代文学社
1145	1140	名刺	日向敏雄		日本文化建設連盟書記長 全国製本紙工商 工業協同組合連合会書記長
1146	1141	名刺	平河内郡壽		大森税務署 大蔵事務官
1147	1142	名刺	平田次三郎		東京都杉並区 1月20日短信あり
1148	1143	名刺	マリオ 平田万里遠		慶應義塾大学新聞
1149	1144	名刺	平山信義		読売新聞社編集局文化部
1150	1145	名刺	廣瀬春見		読書倶楽部
1151	1146	名刺	福本保夫		壽紙業(株)
1152	1147	名刺	藤井義雄		(株)好日社編集長
1153	1148	名刺	藤田正		巣枝堂書店「俳句の國」編集部
1154	1149	名刺	藤田實		河出書房編集部
1155	1150	名刺	古山登		改造社「改造」記者
1156	1151	名刺	分銅倅作		東京文理科大学国文学研究室内
1157	1152	名刺	細谷晴信		東京都芝区
1158	1153	名刺	堀越秀夫		東京都台東区
1159	1154	名刺	本多清		近代文学社
1160	1155	名刺	眞尾倍弘		前田出版社 文壇・編集部 16日5時ごろと記 入有
1161	1156	名刺	牧章造		東京都港区
1162	1157	名刺	松井慶訓		日本麦酒株式会社目黒工場 5月一杯座談会
1163	1158	名刺	松岡照夫		社団法人日本文芸家協会 文学会議編集部 主事
1164	1159	名刺	松田一谷		アンクレイズマガジン編集次長
1165	1160	名刺	丸博		日本電気株式会社 三田製造所勤労課
1166	1161	名刺	丸岡大二		能楽社
1167	1162	名刺	水田博		立教大学講師 政治経済研究社 裏-浦和の 住所
1168	1163	名刺	南川潤		桐生市宮本町 押印有 裏-4月19日付の短 信記入有
1169	1164	名刺	三橋久夫		社会教育連合会 教育雑誌、随筆、庄司、丸 岡、五月と記入有
1170	1165	名刺	宮川寶龜		日本書院 文芸雑誌饗宴
1171	1166	名刺	村井満壽子		近代文学社 裏-月曜 午後2枚と記入有
1172	1167	名刺	村岡敏		広島図書株式会社 広島印刷株式会社 総務 部
1173	1168	名刺	目黒謹一郎		(株)目黒書店取締役社長
1174	1169	名刺	森本秀夫		東京都世田谷
1175	1170	名刺	守屋謙二		慶應義塾大学文学教授 裏-北原氏の住所
1176	1171	名刺	守屋陽一		川崎市生田

1177	1172	名刺	山尾和子		(株)萬里閣編集部
1178	1173	名刺	山口勝		(株)竹内書房 歴史小説編集部
1179	1174	名刺	山崎正治		公認地主共同地所部 領収書1月26日付 裏 一岩田氏住所記入
1180	1175	名刺	山田益雄		広島市議会事務局 市政調査課長
1181	1176	名刺	山本達也		日本工具協議会
1182	1177	名刺	横道金一郎		河童書房
1183	1178	名刺	米川正夫		東京都杉並区
1184	1179	名刺	若杉慧		川口市根岸
1185	1180	名刺	和木清三郎		慶応義塾 一部抹消線有 裏一住所記入有
1186	1181	名刺	和田豊彦		朝日新聞東京本社「こども朝日」編集部

## 4. 写真

目録番号	資料番号	資料名	年月日	注 記
1187	997-1	写真		ネガフィルム 原民喜あての11.4cm×7.9cmの 白封筒入り
1188	997-2	写真		原民喜、貞恵、友人
1189	997-3	写真		集合写真
1190	997-4	写真	年未詳 3月19日	婚礼写真、広島市立町、林弘写真場にて撮影 裏面に「コレハ三月十九日ニウツシタ怪写真デ アル」と記述有
1191	997-5	写真		「碑銘 遠き日の石に刻み 砂に影おち 崩れ 墮つ 天地のまなか 一輪の花の幻」と刻んで ある旧記念碑の写真
1192	997-6	写真	(1981年3月)	原民喜没後 30年回顧展(東京 紀伊国屋書 店)の写真

## 5. 新聞・雑誌類

目録番号	資料番号	資料名	年月日	注 記
1193	1191	赤旗	1945年12月19日	P2 戦犯追求カンパ 広島島の記事
1194	1192	赤旗	1945年12月26日	
1195	1193	文学時標	1946年1月1日	P4 作家案内佐々木基一「鲁迅」・同三部
1196	1194	アカハタ	1946年3月1日	
1197	1195	文学時標	1946年4月15日	P3 文学検察『岡崎義恵』佐々木基一・同二 部
1198	1196	文化新聞	昭和21年4月15日	
1199	1197	文化新聞	昭和21年4月22日	
1200	1198	毎日新聞	昭和21年6月17日	
1201	1199	東京新聞	昭和21年11月3日	P1 社説 平和への宣言 新憲法発布
1202	1200	東京新聞	昭和21年11月4日	P1 新憲法特集
1203	1201	毎日新聞	昭和21年11月4日	P1 新憲法特集 P3 切り取り有(新憲法)
1204	1202	文学新聞	昭和21年12月1日	P4 全国各地支部の代表 佐々木基一の名前 有・22年1月18日の消印有
1205	1203	一橋新聞	昭和21年12月5日	P4 切り取りあり(文壇と文学との記事)
1206	1204	東京新聞	昭和21年12月7日	P2 「復興期の精神」花田清輝著 佐々木基 一・同二部
1207	1205	読売新聞	昭和21年12月9日	
1208	1206	文化タイムズ	1946年12月21日	P2 下部中央の「筆者紹介」の欄に佐々木基 一氏、新日本文学会と紹介文有
1209	1207	文学新聞	昭和22年2月1日	

1210	1208	早稲田大學新聞	昭和 21 年 9 月 21 日	
1211	1209	文化タイムズ	1947 年 2 月 17 日	
1212	1210	週刊文化タイムズ	週刊文化タイムズ 1947 年 2 月 24 日	・同二部
1213	1211	日本読売新聞	日本読売新聞 昭和 22 年 2 月 26 日	P2 「淪落と青春と肉体ー坂口安吾の近作断 想ー」佐々木基一
1214	1212	文化タイムズ	文化タイムズ 1947 年 3 月 3 日	
1215	1213	政経新報	政経新報 昭和 22 年 3 月 10 日	P4 精神の “三月危機”、「微笑する権利と文 化のあり方」佐々木基一
1216	1214	文化タイムズ	1947 年 3 月 10 日	・同二部
1217	1215	東京新聞	昭和 22 年 3 月 20 日	P2 文化欄 「戦争のスタイル」佐々木基一
1218	1216	文化新聞	昭和 22 年 3 月 24 日	
1219	1217	週刊文化タイムズ	1947 年 3 月 24 日	・同二部
1220	1218	夕刊新大阪	昭和 22 年 3 月 25 日	
1221	1219	夕刊新大阪	昭和 22 年 3 月 27 日	P2 広島県小久野島のかつての毒ガス工場の パイプから1トン近い銀が発見された。
1222	1220	政経新報	昭和 22 年 3 月 3 日	
1223	1221	文化タイムズ	1947 年 4 月 14 日	
1224	1222	週刊文化タイムズ	1947 年 4 月 28 日	
1225	1223	文化タイムズ	1947 年 5 月 8 日	P2 東宝映画「戦争と平和」の映画紹介記事 戦争の惨を描く
1226	1224	一橋新聞	昭和 22 年 5 月 15 日	
1227	1225	週刊文化タイムズ	1947 年 5 月 26 日	
1228	1226	労文タイムズ	1947 年 6 月 1 日	広島県内の組合の活動状況
1229	1227	文化ウイクリー	昭和 22 年 6 月 2 日	・寄贈印有
1230	1228	文化タイムズ	1947 年 6 月 2 日	
1231	1229	週刊文化タイムズ	1947 年 6 月 9 日	
1232	1230	読売新聞	昭和 22 年 6 月 23 日	「新しきリアリテ」佐々木基一
1233	1231	週刊文化タイムズ	1947 年 8 月 11 日	
1234	1232	読売ウィークリー	昭和 22 年 10 月 25～ 11 月 1 日	P4「人工降雨 実用化すは近い」・火災後に 雨が降る P14「最も孤独な行為」佐々木基 一 ・読書法について ・合併号
1235	1233	週刊文化タイムズ	1947 年 11 月 3 日	P2 書評 自明の理の魅力 花田清輝著「錯 乱の論理」佐々木基一 ・同二部
1236	1234	週刊文化タイムズ	1947 年 12 月 1 日	
1237	1235	週刊文化タイムズ	1947 年 12 月 22 日	
1238	1236	世界日報	1948 年 3 月 15 日	P2 「必死な質問」佐々木基一
1239	1237	文学新聞	1948 年 3 月 15 日	
1240	1238	クロニクル	1948 年 4 月 1 日	P4 「アンケート共産党は愛されているかー私 の徳田・野坂観」佐々木基一

1241	1239	文学新聞	1948年4月1日	
1242	1240	文学新聞	1948年5月1日	
1243	1241	第一新聞	昭和23年8月1日	P2「知識人戦線」に触れて 佐々木基一・知識人と大衆
1244	1242	国際タイムス	1948年9月5日	P2「平和への意志」原民喜
1245	1243	一橋新聞	昭和23年10月1日	
1246	1244	中国新聞	昭和23年12月26日	P4 郷土出身花形作家訪問記「静かなり三田文学の雄 原民喜」「評論に気吐く新時代人 佐々木基一」
1247	1245	文化タイムズ	1949年3月8日	P3「創造と実践」座談会 佐々木基一、岩藤雪夫、窪川鶴次郎、松田解子、松本正雄・座談会の模様の写真掲載・100号着年号・同二部
1248	1246	文化タイムズ	1949年3月23日	P1 国連「人権宣言」にこたえ近く「平和宣言」発表 P2「創造と実践」座談会 佐々木基一、岩藤雪夫、尾久保川鶴次郎、松田解子、松本正雄・同二部
1249	1247	文化タイムズ	1949年4月5日	P2「創造と実践」座談会③ 佐々木基一、岩藤雪夫、尾久保川鶴次郎、松田解子、松本正雄・いかに国土を愛しめくか、文化活動のすべてを貫くもの・同二部
1250	1248	文化タイムズ	1949年4月12日	P2「創造と実践」座談会④ 佐々木基一、岩藤雪夫、尾久保川鶴次郎、松田解子、松本正雄・同二部
1251	1249	日本読書新聞	昭和24年8月24日	P1「平和を飽く迄護ろう」P2「典型的な文壇的短篇－戦後風でない戦後作品」佐々木基一・同二部
1252	1250	図書新聞	昭和24年9月6日	P2「石川淳著最後の晩餐」書評 佐々木基一・すでに名匠達人の域
1253	1251	夕刊内外タイムス	昭和24年10月13日	P1「原爆も含む武器調査」P2「結合と分離を繰返す－政治と文学の本質は同一」佐々木基一
1254	1252	報知新聞	昭和24年10月13日	P2 文化と生活欄 原民喜著「砂漠の花」・エッセイ・堀辰雄の「牧歌」から文体、自分の作風について・同二部
1255	1253	日本読書新聞	昭和24年11月16日	P1「叙事詩的な方向－新人の記録的文学について」佐々木基一 P4「原子力時代と文学」
1256	1254	日本大学新聞	昭和24年12月10日	P2「より高次の仮設を」小泉哲也・ペンによる書き直しあり
1257	1255	日本読書新聞	昭和25年1月11日	P2「温味ある教訓書－著者の体験から滲み出た説得性」佐々木基一
1258	1256	夕刊中国	昭和25年4月20日	P2「原爆体験以降」原民喜・エッセイ
1259	1257	革命戦士	1950年8月5日	
1260	1258	夕刊伊勢	昭和25年8月6日	P1「一匹の馬」原民喜・エッセイ・8月6日7日の被爆直後の体験記
1261	1259	名古屋タイムズ	1950年8月7日	P2「一匹の馬」原民喜・エッセイ・8月6日7日の被爆直後の体験記
1262	1260	新山梨	昭和25年8月9日	P2「一匹の馬」原民喜・エッセイ・8月6日7日の被爆直後の体験記
1263	1261	文芸家協会ニュース	昭和25年8月31日	

1264	1262	北海道新聞	昭和 25 年 10 月 28 日	「二つの頭」原民喜・童話
1265	1263	夕刊とうほく	昭和 25 年 11 月 6 日	P2 「気絶人形」原民喜
1266	1264	学園新聞	1951 年 9 月 24 日	P2 たくましい描写「崩れゆく」で崩れた感 佐々木基一・同二部
1267	1265	東京大学学生新聞	昭和 26 年 11 月 15 日	P6 「原民喜、真青な裸形の針」佐々木基一・ 民喜の人物評、全身写真、略年譜掲載 「長田 新の原爆の子の読后感想」壺井栄・読后感 層・100 号記念特集号
1268	1266	アサヒグラフ	1950 年 8 月 16 日	P19 「ヒロシマを記録した人々告知板」原民 喜の略歴と写真

## 6. その他

目録番号	資料番号	資料名	年月日	注 記
1269	971	木箱		原民喜の蓋付の木箱（全集 3「吾亦紅」机参照）
1270	972	神前結婚式次第書	(1933年3月)	神前結婚式次第、親族盃之次第、式場見取り図、席順表、鶴羽根神社・両面印刷
1271	973	祝詞	昭和8年3月17日	昭和八年三月十七日を吉日と定め婚姻の式を行ふとして・民喜と永井貞恵の結婚式の祝詞・折り目で切断されている
1272	974	領収書	昭和10年3月31日	33円80銭 焔 白水社の広告料として・東京日日新聞発行所から原民喜あて
1273	975	仮領収書	昭和10年4月30日	白水社から原民喜 朝日新聞広告料及木版代・仮領収書
1274	976	計算書	昭和10年11月15日	白水社から原民喜「焔」委託販売・計算書
1275	977	教育免許状	昭和17年11月27日	原民喜の英語の教育免許状・免許状
1276	978	処方箋	昭和19年9月25日	原貞恵の処方箋 調剤師堂野前・千葉医科大学用箋
1277	979	罹災証明書	昭和20年8月8日	原民喜の原爆罹災証明書 東警察署発行
1278	980	個人金融通帳	昭和21年～23年	原民喜の個人金融通帳・昭和21年4月27日～23年4月26日まで記入・半分に破れている
1279	981	眼鏡処方箋	昭和23年12月17日	原民喜の眼鏡処方箋
1280	982	出資証明	昭和21年3月1日	原信嗣から原民喜あて 原商店用箋
1281	983	財産税額通知書	昭和22年2月28日	大森税務署から原民喜あて 財産税額通知書・納付税額内訳書
1282	984	財産税額通知書	昭和22年3月7日	財産税納付のため第一封鎖預金等の支払いの記入表 三和銀座より5,290円の支払いの記録有
1283	985	財産税納付書	昭和22年3月7日	大森税務署から原民喜あて納付書
1284	986	郵便貯金通帳	昭和19年～昭和22年	原民喜の郵便貯金通帳 昭和19年2月15日から昭和22年3月20日まで
1285	987	郵便貯金通帳	昭和17～23年	原民喜の郵便貯金通帳 昭和17年12月26日から昭和23年1月8日まで
1286	988	煙草配給割当票		原民喜の煙草配給割当票
1287	989	給与袋		丸岡出版社から原民喜あての給与袋 昭和24年1月分
1288	990	印税領収書	昭和24年2月9日	丸岡出版社から原民喜あての印税領収書「夏の花」の印紙
1289	991	印税計算書	昭和24年4月27日	丸岡出版社から原民喜あての「夏の花」印税計算書
1290	992	領収証書	昭和24年1月28日	神田税務署から原民喜あて 原民喜納付の所得税の領収書(735円)
1291	993	名刺入れ		へび皮の名刺入れ(写真2枚、罹災証明、金融通帳など入っていた)
1292	994	供食整理票	昭和25年	原民喜の供食票 12月1日から12月31日までの1日3食93食分 昭和24年1月4日登録

1293	995	葬儀会葬者芳名録	(昭和26年3月16日)	表紙とも7枚×3冊
1294	996	故原民喜氏会葬者名簿	昭和26年3月16日	原民喜会葬者名簿 硫酸紙便箋
1295	1267	講演会案内状		慶応義塾大学総長(潮田江次)から原民喜あて・プログラムと資料
1296	1268	所得税確定申告説明書	昭和24年1月	昭和23年分の所得税確定申告の説明書・申告書の書き方・簡易税額標
1297	1269	日本文芸家協会特別ニュース	昭和25年7月21日	昭和25年度分所得税7月申告及び変動所得の平均課税選択申告についての御注意・右肩ホッチキス留め(前後二枚外れている)
1298	1410	酒肴料袋		朝日映画社から原民喜あて
1442	1437	印税票		2枚・能楽書林のマークに民喜の押印入り(「夏の花」用)・1枚に66個あり、2枚で計132個
1443	1438	原商店用箋		3枚・未使用・広島市幟町京橋筋 合名会社原商店
1444	1439	未使用はがき		49枚・拝啓 時下益々御清祥のことと存じます・「三田文学」購読依頼状(孔版刷)・表に三田文学の住所印が押してある・五拾銭はがき
1445	1440	未使用絵はがき		2枚・箱根芦の湯硫黄温泉松坂屋本店 民喜から妻貞恵あての書簡に使用の絵はがき(目録番号126)と同組?
1446	1441	未使用絵はがき		8枚・銚子名所の絵はがき・犬吠岬燈台他・表に「机」の朱印有
1447	1442	未使用絵はがき		3枚・伊香保町の絵はがき・涼気の雫り他
1448	1443	未使用絵はがき		3枚・日光の名所の絵はがき・日光中禅寺湖大尻他
1449	1444	未使用絵はがき		16枚・巖島風景(袋入)の絵はがき・大鳥居他・表に「机」の朱印有・内5枚は「10.6.1 宮じま」のスタンプ有
1450	1445	未使用絵はがき		1枚・廃墟の広島写真の絵はがき
1451	1446	カラ小包(包装紙)		宮野正郎から原民喜あて・小包の包装紙・書留小包扱い

## 7. 三田文学関係

### (1)原稿・草稿類

目録番号	資料番号	資料名	著者	年月日	注 記
1299	1332	夜の詩(詩稿)	朝日柊一郎 (朝日厚輝)・著	1946年6月	梟が夜の衣をまきちらす そんな夜にはきまって 私は何ものか流れ去るかすかなひびきをきく・詩稿14行
1300	1333	夏の生態(詩稿)	朝日柊一郎・著	1946年7月	露に濡れた薄明の中で 画家はカンバスに向ふ・詩稿11行
1301	1334	夏(詩稿)	朝日柊一郎・著	1946年7月31日	夜 暗い海に 無数の星が降った ・東京製品 400字詰原稿用紙 ・詩稿19行
1302	1335	ひとりごと(詩稿)	朝日柊一郎・著	1946年8月	立秋ののちいくにち ざくろの葉にやすらひが 星の光もてちりばめられたとき ・詩稿30行
1303	1336	梟の夜(詩稿)	朝日柊一郎・著	1946年8月	見苦しい人間の「智慧」も「欲望」もすててしまはう ・詩稿24行
1304	1337	秋の序章(詩稿)	朝日柊一郎・著	1946年9月6日	いもちよ 風と吹き 雲と去り 水と流れ いま あなたの前に 幼な子のやうに度ましく ・牛田郁文舎製 400字詰原稿用紙 ・詩稿35行
1305	1338	朝の詩(詩稿)	朝日柊一郎・著	1946年9月11日	これはいけなすがたであらうか たましひの夜のノクチュルヌは止んだ故に ・牛田郁文舎製 400字詰原稿用紙 ・詩稿28行
1306	1339	鉛筆(詩稿)	(朝日柊一郎・著)	1946年9月19日	その艶ある稜角に沿って光の波は流れる 磨 <small>さき</small> かれ澄みきったその芯の尖端 ・牛田郁文舎製 400字詰原稿用紙 ・詩稿20行
1307	1340	情熱の形成(詩稿)	朝日柊一郎・著	1946年9月20日	せきれいよ お前は私の臉に宿る新鮮な季節の窓 ・牛田郁文舎製 400字詰原稿用紙 ・詩稿22行
1308	1341	動物詩二篇 鳶、鷄(詩稿)	朝日柊一郎・著	1946年9月	<small>うち</small> 鳶は体内に一つの活火山を保ち 舞ふとき 火口を 己の厳肅な環を 刻む ・牛田郁文舎製 400字詰原稿用紙 ・詩稿「鳶」10行、「鷄」12行
1309	1342	少年の讃歌(詩稿)	(朝日柊一郎・著)	1946年10月	哀しむことはわるいことだろうか 少年が愛し つづけた一羽のせきれいを ・牛田郁文舎製 400字詰原稿用紙 ・詩稿
1310	1343	悲恋の曲 みきさんにささぐ(詩稿)	(朝日柊一郎・著)	1946年12月	まり子よ わかれの時がきた 哀しい時だ 風は暗い谿間へぼくを倒し 寂しくつづく野 まり子よ ・牛田郁文舎製 400字詰原稿用紙 ・詩稿
1311	1345	ソネット(詩稿)	(朝日柊一郎・著)	1947年3月	そのかみの涙に濡れしはた 人知らぬいのりを秘めし ・同じ題の詩二篇 ・牛田郁文舎製 400字詰原稿用紙 ・詩稿14行づつ
1312	1346	ソネット―夜によせて―(詩稿)	(朝日柊一郎・著)	1947年3月	いやはてのときもしらなくて 夕映そむる空のはたてに ・牛田郁文舎製 400字詰原稿用紙 ・詩稿14行
1313	1344	若き日のいのり(詩稿)	(朝日柊一郎・著)	1947年5月5日	蒼い街の屋根屋根がほのかにほのかに重なりゆく夜 ・詩稿となっているがエッセイ、散文のようなもの ・牛田郁文舎製 400字詰原稿用紙

1314	1347	ソネット(詩稿)	(朝日柊一郎・著)	1947年8月	ついで 空しくも飾並めし柱は潰え そのかみのたかく 迎ぎしさんたるいらかはもはやない ・牛田郁 文舎製 400 字詰原稿用紙 ・詩稿 16 行
1315	1348	ソネット(詩稿)	(朝日柊一郎・著)	1947年8月	ふとさざめくる かるき羽風 そのかみの花の かつら 園 のむらさきのポレンの香 ・牛田郁文舎 しこう ぎょう 製 400 字詰原稿用紙 ・詩稿 14 行
1316	1349	樹に寄せるソ ネット(詩稿)	朝日柊一郎・ 著		吹きまくる風の中で 樹よ お前は誰に転身を 欣求するのか ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿 用紙 ・詩稿 15 行
1317	1350	浦かふか	朝日柊一郎・ 著	(1947年5月)	建築家タイユ氏 街で会ふ毎に、ぼくの劇場を 見に来たまへ、と ・1、ある日の会見 2、クラ ラ、タイユ 3、友人シンプソンの話 4、タイユ 氏の手紙 の4章からなる小説 ・右側を綴じ ひもでとじてある
1318	1351	頌歌	(朝日柊一 郎・著)	1947年6月10日	ものたちをつつましく歌うことだ ものたちの名 はぼくがつけるのではない ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙 ・詩稿? 散文?
1319	1352	理想・人間・詩 (詩稿)	(朝日柊一 郎・著)	1947年5月	お母さま ふるさとに冬はふかい 落陽が楠を 射て騒騒と風になります ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙、右肩のりづけでとめてあ る ・詩稿
1320	1353	夜の序歌(詩稿)	(朝日柊一 郎・著)	1947年5月	ぼくは夜がこわかった 墓地の老松ではふくろ うが啼いた ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用 紙 ・詩稿 12 行
1321	1354	寄宿舎の夜	(朝日柊一 郎・著)	1947年5月	寄宿舎のまかないのつんぼの婆やは猫が好き だった ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙
1322	1355	白鳥の死(詩稿)	(朝日柊一 郎・著)	1947年5月	……あの白鳥は死にました ……羽の生え た衣裳は美しく空に輝きました ・牛田郁文舎 製 400 字詰原稿用紙、右上のりづけでとめて ある ・詩稿? 散文?
1323	1356	春に詠める(詩 稿)	(朝日柊一 郎・著)	1947年5月	やわらかにまるぶしろがねの鈴のように みず しさのたかく萌えてた丘のこごしき ・牛田郁 文舎製 400 字詰原稿用紙 ・詩稿 17 行
1324	1357	わかれの歌(詩 稿)	(朝日柊一 郎・著)	1947年5月	母よ わかれのときです 古き愛撫を散りゆく 枯葉にのせ ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用 紙、右肩のりづけでとめてある ・詩稿 20 行
1325	1358	庭の夜(詩稿)	(朝日柊一 郎・著)	1947年6月	その水仙のしめやぎてささやく夢よ その庭つ つむ夜夜のやわかにもひろぐる ・牛田郁文 舎製 400 字詰原稿用紙 ・詩稿 34 行
1326	1359	部屋の祝祭(詩 稿)	(朝日柊一 郎・著)	1947年6月	見古した本の背の金文字がほのかに揺れる 私の眼の描く光の花びらにつつまれて ・牛 田郁文舎製 400 字詰原稿用紙 ・詩稿 18 行
1327	1360	つぐみ(詩稿)	(朝日柊一 郎・著)	1947年6月	枯れたむくろの枝と そよふくかすかな風とあ れば ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙 ・ 詩稿 10 行

1328	1361	勝利者(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1947年6月	みちみちぼくの手は色あせた金色の鞘を走った・「勝利者」と「ソネット」がある・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙・詩稿「勝利者」17行、「ソネット」16行
1329	1362	別離(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1947年8月	いつの日からか わたしが歩きはじめてからわたしの靴の底ふかく・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙・詩稿 18 行
1330	1363	机(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1947年8月	銀いろの光線の交錯の場 しずかにレディエーションは乱舞する・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙・詩稿 15 行
1331	1364	窓(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1947年8月	それはどんなものであってもいい・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙・詩稿 15 行
1332	1365	歩く人(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1947年8月	ヘリコンの山から朝がくる たかい樹樹のつらねを通れば ぼくのすぐよかな炎は太陽に映え・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙・詩稿 27 行
1333	1366	習作 34(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年2月25日	こわれたピアノがある 時を打たぬ時計がある・ノート紙・詩稿 8 行
1334	1367	習作 35(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年2月28日	ありとある木の葉のふるえが太陽に焼かれてつめたく黒く大地に身を伏せるとき・第八高等学校文芸部原稿用紙 1/4、裏使用、表に詩「恋」の一部有・詩稿 14 行
1335	1368	習作 36(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年3月1日	ぼくらすべてが追はれたのだ 獄吏に化けた欲望のレビヤサンに・原稿用紙 1/4 裏面使用、表に詩「恋」の一部あり・詩稿 11 行
1336	1369	闇はぼくらを… 習作 37(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年3月1日	夕雲はみな丸くなって梢に休らった 薔はみな木の葉に埋って黒くなった・ノート紙、裏書あり・詩稿 14 行
1337	1370	習作 38(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年3月6日	深い闇のなかでぼくは祖先たちの給姿を開く・ノート紙 1/2 枚・詩稿 19 行
1338	1371	習作 39(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年3月3日	覆面男がホオルの柱に口オブを結へて倒そうとした・ノート紙、裏に詩の一部あり・詩稿 12 行
1339	1372	原始の牧場 41 (詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年3月7日	明滅する階上階下のシャンデリヤ ありとある扉は閉ぢて暗黒のベルが鳴る・用箋紙片使用・詩稿 13 行
1340	1373	Volontelin 1(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年3月13日	ぼくはすでに知ったのだ はてしなき封落の肉の相貌を・ノート紙使用、裏に交響曲についてのメモ有・詩稿 14 行
1341	1374	義務(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年3月19日	きっと どこかに ぼくらをえらぶ人があるのだ ぼくらの眼に 恋人がこんなにも大きく映るのは・ノート紙使用、裏に詩「舞踏への断章」有・詩稿 11 行
1342	1375	未知なるものに (詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年3月31日	ぼくらをはなれて横たはる恋人をめぐって ぼくらの耳のふたたび聴くこともない音が・ノート紙使用、裏にメモ有・詩稿 25 行
1343	1376	雲雀(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年4月1日	びいろ びいろ るぼんちいの ちいの ちいの ぼえていくす・ノート紙、裏にメモ書きあり・詩稿 34 行
1344	1377	鶯(詩稿)	(朝日柗一郎著)	1948年4月1日	ほお ほお ほお ほけ ほおほお どうってい おお うるりくす・ノート紙、裏にトルストイ(武者小路実篤)よりトルストイの言葉の書き写しあり

1345	1378	畳(詩稿)	(朝日柗一郎・著)	1948年4月6日	だれがこうしてぼくらをひきもどしてしまふのだらう あの龍の欄間の谿あひの陽光が壁につらなる ・ノート紙、裏にドエトイエーフスキエ作、米川正夫訳の「カラマゾーフの兄弟」の書き写しあり ・詩稿 25 行
1346	1379	朝の詩(詩稿)	朝日柗一郎・著	年未詳 5月27日	やぶれさけたやうな朝の道である 両側はずみれのほひのする農家である ・400 字詰原稿用紙 ・詩稿 15 行
1347	1380	小詩二篇 閑寂境・路上の真実(詩稿)	朝日柗一郎・著	年未詳 6月	稜の上 生ひ繁る萱の間に光る 池 ・400 字詰原稿用紙 ・詩稿「閑寂境」8 行、「路上の真実」7 行
1348	1381	露(詩稿)	朝日柗一郎・著	年未詳 6月	びわの葉が濡れ光る 赤ぼったい月の光に ・400 字詰原稿用紙 ・詩稿 14 行
1349	1382	理想(詩稿)	朝日柗一郎・著	年未詳 6月	蜘蛛は黙々と自らの網の中に月を縫ひ入れる ・400 字詰原稿用紙 ・詩稿 10 行
1350	1383	無題(詩稿)	朝日柗一郎・著	年未詳 8月27日	たそがれは早ふかい夜に沈んでみた 灯の洩る家々を訪なふかすかなささゆきは ・400 字詰原稿用紙 ・詩稿 39 行
1351	1384	盲目の少女・巡礼者の祈り(詩稿)	(朝日柗一郎・著)		盲目の少女は空高く翔んだ かくしてこそ少女の瞳は開かれるのだった ・右上を綴じひもでとじてある、各頁右下に三田文学印有 ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙 ・詩稿「盲目の少女」27 行、「巡礼者の祈り」24 行
1352	1385	その夜(詩稿)	(朝日柗一郎・著)		その夜 天蓋にはいくつかの星が流れたのだけれど ・ノート紙、裏に「三の手紙」あり、斜線が引かれている ・詩稿 14 行
1353	1386	夜(詩稿)	(朝日柗一郎・著)		まどろむ壁に夜の影がほそくはかなくむせんである ・ノート紙使用、裏に「青い鳥、あなたはじっとだまっている」の記入有 ・詩稿 15 行
1354	1387	うつろひ(詩稿)	(朝日柗一郎・著)		白い部屋に あなたのおもかげを訪ねる ・ノート紙使用、裏に「散文詩かまどの夜」の書き出し有、斜線が引かれている ・詩稿 29 行
1355	1388	(詩稿)	(朝日柗一郎・著)		あなたは笑みかける ばらいろの夕雲がその身を伏せてある地に立って ・ノート紙使用、裏に草稿のようなメモ書きあり ・詩稿 16 行
1356	1389	その女(詩稿)	(朝日柗一郎・著)		その女は夜になると深い深い夢の沼の底へと沈むのであった ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙 ・詩稿
1357	1390	牧師と猫—ある村祭にて—(詩稿)	(朝日柗一郎・著)		村人たちの唄は環となり 旗となり 村をめぐるその中で ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙 ・詩稿 24 行
1358	1391	故郷と母と夕の歌(詩稿)	(朝日柗一郎・著)		鳩よ ぼくはお前を忘れていた ・1~4 章まであり ・牛田郁文舎製 400 字詰原稿用紙 ・詩稿
1359	1392	原民喜氏の作品について	遠藤周作・著		孤独者がとぼす、わびしい、然し消える事のない灯について、・民喜の作品は、厳しく死を凝視め、死に脅かされながらも、純粋なものと、美しいものとの信じ祈ろうとする意思がある ・鎌倉文庫 400 字詰原稿用紙 ・批評
1360	1393	雪夜(訳詩)	奥野信太郎・著		今宵なんといふ雲のみだれであらう ・對雪杜子美の漢詩の訳 14 行 ・三省堂出版部 400 字詰原稿用紙

1361	1394	序文	草野心平・著	1948年3月5日	切ない絶望から発する登高への意図は或ひは海への憧憬は、・長光太の詩集「登高」の序文・400字詰原稿用紙
1362	1395	少年の午後	(小泉哲也・著)		私が孤りで書物を開いてみた時あのひとは開いてあった扉から・No.12、13と番号あり・400字詰原稿用紙・小説
1363	1396	風の夜(詩稿)	小泉哲也・著		更かまりし夜を吹き通る風の音 外の樹々のうれ 梢鳴らしつつ・400字詰原稿用紙・詩稿27行
1364	1397	秋・素描、無象の韻(詩稿)	(小泉哲也・著)		巨大な鉄のクレエンが風に齒軋りたてゝみた・「秋・素描」と「無象の韻」の2篇・好学社200字詰原稿用紙・詩稿「秋・素描」9行、「無象の韻」11行
1365	1398	血液(詩稿)	(小泉哲也・著)		血液は 外気に触れたとき すでに 死んでゐる・好学社200字詰原稿用紙・詩稿20行
1366	1399	頭蓋骨考 エラスムスの「愚神礼讃」について	小泉哲也・著	年未詳 10月14日	エラスムスはルネサンスを代表する知的精神の権化みたいな、えらい人です。・エラスムスの「愚神礼讃」の批評・ヤコブセンの書評ととりかえてほしいと民喜宛の手紙あり・好学社200字詰原稿用紙
1367	1400	宿命への回帰—大手拓次詩集	(小泉哲也・著)		詩人は所詮自己の悦楽と陶醉の為にのみ、郷愁の呪文を織り続ける巫女に過ぎない。・大手拓次の詩集について、詩風に触れる・好学社200字詰原稿用紙
1368	1401	原民喜君を推す	佐藤春夫・著		数年前から漠然とこの頃の三田文学には人材が集まつてゐるような気がしてゐた。・原民喜を三田文学賞へ推薦する・三田文学一月号と右上に書かれ、校正されている・左肩に、10～14のページ数あり・400字詰原稿用紙
1369	1402	東京の菊—東京哀歌のうち—(詩稿)	佐藤春夫・著		東京の兵火の荒里 山の手の矢来の原に 八はぐさ 重葎 莠 は枯れて・400字詰原稿用紙・詩稿15行
1370	1403	黒い日輪	長光太・著		机ヨ、黒イ日輪ノ枯梗イロノ青ゾラノシタニ雪山ガアツタ。・キリスト教、宗教のこと・400字詰原稿用紙、右端綴じひも有・エッセイ?
1371	1404	脚本3	(長光太・著)		紙屋治兵衛 きいの国や小はる 心中天の網島(近松研究)・上、河庄の場 中、紙屋の場下、大和屋前から網島大長裏の場・深沢紙店製400字詰原稿用紙、右側綴じひも有
1372	1405	脚本4	(長光太・著)		原典など見たこともないわれらが、底本として用ひたのは(近松研究)・藤田乙男「近松全集第12巻」、上田万年「近松語録」、坪内逍遙「近松研究」、佐々政一「近松評釈 天の網島」、「大近松全集第1巻」の心中天網島の解説、それぞれから文章を抜粋して、意見を述べる、批評・深沢紙店製400字詰原稿用紙、右肩綴じひも有

1373	1406	脚本 5	(長光太・著)	閑雅なる友よ、西鶴は元禄六年に此の世を去つた、(近松研究)・近松の作家活動の時代背景描写。將軍徳川吉宗、享保、封建的農業体制、經濟、紙のこと、酒屋のこと(治兵衛とからめて)・深沢紙店製 400 字詰原稿用紙、右側綴じひも有
1374	1407	脚本 6	(長光太・著)	直ちに「心中点の網島」に直面する喜びを、友よ、われらは再び延ばさねばならぬ(近松研究)・近松の作家活動の背景、元禄文化、恋愛事情、町人文化、生活等説明・深沢紙店製 400 字詰原稿用紙、右端綴じひも有
1375	1408	脚本 7	(長光太・著)	寛容なる友よ、われらの如く叙述の公式を無視し(近松研究)・近松門左衛門の生涯、作品解説、批評・深沢紙店製 400 字詰原稿用紙
1376	1409	原民喜著『焰』に就いて	中島健蔵・著	「文壇には垣がある」と云ふ言葉は、様々な意味に解釈される。・「焰」の批評、解説(写し)・白水社用 400 字詰原稿用紙

## (2) 書簡類

目録番号	資料番号	資料名		年月日	注 記
1377	1270	葉書	阿部能成から三田文学編集部あて	昭和 23 年 1 月 10 日記	亀井高孝著 西洋史学説・亀井高孝著「中学の西洋史」が興味深く読まれる・往復はがき(返信)No.3
1378	1271	葉書	阿比留信から三田文学編集部あて	昭和 23 年 1 月 17 日	草野文男著「中国戦後の動態」・草野文男の「中国戦後の動態」の説明・往復はがき(返信)
1379	1272	葉書	阿比留信から丸岡明あて	(昭和 23 年 3 月 3 日)	「三田文学」いただきました。・三田文学のお礼と感想・教科書の仕事が終わったら、批評の仕事をしたい
1380	1327	(封書)	阿部光子から丸岡あて	年未詳 6 月 17 日記	毎日うつつうしいことでございます。・先日送った原稿の 2 回目の題を「八重むぐら」にしたい・封筒無し
1381	1322	(封書)	池田能雄から三田文学あて	年未詳 6 月 24 日記	前略「三田文学」のみなさんお元気ですか・詩を送付します・封筒無し
1382	1275	葉書	石坂洋次郎から三田文学編集部あて	昭和 23 年 1 月 10 日消印	ラクロ「危険な関係」・「危険な関係」の感想・往復はがき(返信)No.1
1383	1276	葉書	板倉卓造から三田文学編集部あて	昭和 23 年 1 月 18 日消印	河上肇の自叙伝三巻まで読みました。・河上肇の自叙伝について・往復はがき(返信)No.8
1384	1273	葉書	井汲清治から三田文学編集部あて	(昭和 22 年 8 月)14 日記	随筆の原稿遅延して相すみません。・随筆の原稿遅延のお詫び・10 枚ぐらい書きます
1385	1274	葉書	井汲清治から三田文学編集部あて	昭和 23 年 1 月 18 日	「宗湛日記」桑田忠親著(高桐書院版)・桑田忠親著「宗湛日記」のないよう説明、解説・往復はがき(返信)No.6
1386	1277	葉書	岩佐東一郎から三田文学編集部あて	昭和 23 年 1 月 11 日記	回答 一、「伝記」「詩学」「春燈」「リーダーズ・ダイジェスト」・回答 1~3 まで・6 号雑誌を送る・往復はがき(返信)No.3
1387	1278	葉書	岩田豊雄から三田文学編集部あて	昭和 23 年 1 月 17 日消印	両三年来演劇は文学座・演劇、映画について・転居通知・往復はがき(返信)No.6
1388	1279	葉書	内田誠から三田文学編集部あて	昭和 22 年 12 月 1 日消印	謹啓 御丁寧なお手紙で恐縮いたしました。・期日までに原稿を送ります

1389	1280	葉書	内田誠から三田文学編集部あて	昭和23年1月12日消印	一、リーダーズダイジェスト 二、ビリーローズの疑ひの余地もなく・回答一〜三まで・往復はがき(返信)No.1
1390	1281	葉書	浦松佐美太郎から三田文学編集部あて	昭和23年1月14日消印	文芸春秋、玄想、三田文学、改造等みんな御寄附を受けてあるものばかりです・文芸春秋、玄想、三田文学等寄贈していただいているが、心から感心した小説はなかった・往復はがき(往信)No.4
1391	1283	葉書	岡本太郎から三田文学編集部宛	(昭和22年)12月20日	御申越の件・御申越の件は年内に何とかしましょう
1392	1284	葉書	奥野信太郎から三田文学編集部あて	昭和22年12月3日消印	原稿の件承知いたしました。・原稿の件承諾・プレスコード検印有
1393	1282	葉書	尾崎徳郎から三田文学編集部	昭和23年3月15日記	前略 尾崎孝一 昭和二十年六月二十日戦災死に依り死去・尾崎孝一戦災死の為、静岡三田会の事務は宮村先生にお願いしたい
1394	1287	葉書	小高根二郎から三田文学編集部あて	(昭和23年)1月18日記	拝復拝誦旅より帰って原稿料・原稿料拝受しました
1395	1288	葉書	小高根二郎から三田文学編集部あて	昭和24年1月28日記	冠省、稿料拝受しました。三田文学一月号も拝受。・稿料、三田文学1月号受け取りのお礼・受賞のお祝い・「続痴夢の手記」を執筆中
1396	1285	葉書	北原由三郎から三田文学編集部あて	昭和23年3月19日消印	冠省、御手紙拝誦いたしました。・原稿の件で、目下忙しいのだが、締切期限がないので(原稿が)出来たら送る
1397	1286	葉書	小泉哲也(好学社)から末松英子あて	昭和22年12月9日消印	先日はわざわざ有難うございました・「水上滝太郎記念会」の詳細
1398	1289	葉書	小山祐士から三田文学編集部あて	昭和23年1月16日消印	一、文学座の「フアニイ」。このていどの楽しい現代劇があったら・文学座の「フアニイ」「安城家の舞踏会」のこと・演劇人田村秋子の再出発に期待・往復はがき(返信)No.9
1399	1290	葉書	柴田錬三郎から三田文学編集部あて	昭和23年1月12日消印	一、なまけてばかりあるので、適当なおこたへが出来ません。・適当な回答無し・立派な内容の本でも新仮名づかひの本は推薦しない・往復はがき(返信)No.1
1400	1328	(封書)	庄司総一から丸岡明あて	年未詳7月6日記	ずゐぶん暑くなりました。去年はだいぶ弱られたやうですが、・情死未遂のことを扱った作品、80枚送る。12月号までに掲載してほしい・封筒無し
1401	1291	葉書	鈴木信太郎から三田文学編集部あて	昭和23年12月7日記	拝復 御ぶさた致しました。三田文学の表紙の件承知いたしました。・三田文学の表紙の件承知
1402	1292	葉書	高島高から三田文学編集部あて	昭和23年5月16日記	拝復 お葉書嬉しくいただきました。・小説を「主要同人雑誌の動向」に加えてもらったお礼・「文学組織」を改題、「文学国土」を別送した
1403	1293	葉書	谷田昌平から丸岡明あて	昭和24年9月15日記	急に涼くなつて参りました。・12日から新制高校に勤め始めた・反自然的な時評を早く書きあげ、送りたい
1404	1294	葉書	津村秀夫から三田文学編集部あて	昭和23年1月10日記	一、一月十日現在では文学座の記念講演も、有楽座の「破壊」もまだみておませんが、・「破壊」はまだ見ていないが、「にんじん」は面白いと思いました・往復はがき(返信)No.1

1405	1295	葉書	戸板康二から三田文学編集部あて	昭和23年1月12日記	一、映画「失はれた週末」のレイ・ミランド「不死鳥」の田中絹代それぞれの演技 ・1 映画「失はれた週末」「不死鳥」 2芥川比呂志、大谷広太郎 ・往復はがき(返信)No.2
1406	1299	葉書	徳野一穂から三田文学編集部あて	昭和23年1月19日消印	別に極まつた雑誌を受読はいたしていません。 ・雑誌「文明」の新里演「春のゆくゑ」「その前後」横光利一「微笑」など ・往復はがき(返信)No.5
1407	1296	葉書	十史一之から鈴木亨あて	昭和22年8月11日記	その後如何お暮しですか。 ・文学草子を文芸批評と改題。2枚程度原稿依頼
1408	1297	葉書	豊田四郎から三田文学編集部あて	昭和23年11月16日消印	御葉書拝見しました。両三年来病床生活をしており ・昨年9月より絶対安静の状態のため投稿できない ・代筆(代筆者不明)
1409	1298	葉書	十和田操から三田文学編集部あて	昭和23年1月19日記	御返事おくれまして申しわけありませんでした。 ・1、愛読誌 2、「夏の花」 3、「夏の花」 ・往復はがき(返信)No.8
1410	1300	葉書	中山隆三から三田文学編集部あて	昭和23年1月21日消印	正月より仕事のため旅行致して居りまして ・1、「ブルックリン横丁」 2、多士済々 ・往復はがき(返信)No.8
1411	1306	葉書	野口富士男から丸岡明あて	昭和22年12月27日消印	啓、原氏の「廃墟から」を拝見いたしました。 ・「廃墟から」の感想、作風について ・プレスコード検印有
1412	1301	葉書	野田開作から三田文学編集室あて	昭和23年8月31日記	三田文学 8号二部有難うございました。 ・「三田文学」8号のお礼 ・鈴木亨の文芸時評が面白かった
1413	1302	葉書	野田開作から三田文学編集室あて	昭和21年1月8日記	十二日か、十三日の汽車で東京することにしました。 ・12日か13日に上京。 ・作品が書けなかった ・プレスコード検印有
1414	1303	葉書	野田開作から三田文学編集室あて	昭和24年3月22日	三田文学 小説特集号有難うございました。 ・「三田文学」小説特集号のお礼 ・三田文学ニュースには感心しない
1415	1304	葉書	野田開作から三田文学編集室あて	昭和24年4月9日記	前略 今日は大変お邪魔しました。 ・小説原稿の題「磔刑の青春」を、「不肖の子」に変更してほしい
1416	1305	葉書	野田開作から三田文学編集室あて	昭和24年8月5日記	三田文学 8号有難うございました。 ・「三田文学」8号のお礼
1417	1307	葉書	野間宏から三田文学あて	昭和23年8月9日記	移転通知 今度左記に転居致しました。 ・転居通知
1418	1308	葉書	林房雄から三田文学編集部あて	昭和23年1月15日消印	一、「小説と読物」「小説新潮」 ・1、「小説と読物」「小説新潮」等 2、雑誌に発表された作品 3、日本の小説再建 ・往復はがき(返信)No.4
1419	1309	葉書	原健忠から丸岡明あて	昭和23年6月1日記	冠省、先週の土曜、三田文学の会の招待を受けましたが ・三田文学会に参加できなかったお詫び ・民喜さんにもよろしく
1420	1323	封書	半沢女楓から三田文学編集室あて	昭和22年6月3日記	突然投稿申し上げまして恐縮に存じますが ・突然投稿したお詫び ・詩の指導のお願い ・札幌紙工社用箋
1421	1310	葉書	平松幹夫から「三田文学」編集部あて	昭和22年12月6日消印	拝復 随筆号原稿の件、承知致しました。 ・随筆号の原稿依頼承知 ・転居通知
1422	1311	葉書	平松幹夫から「三田文学」編集部あて	昭和23年5月9日記	拝復 御葉書の件十五枚で三田文学史は難題です ・三田文学史は1年を10行ずつにしても15枚では無理だと思えます

1423	1312	葉書	福田清人から三田文学編集部あて	昭和23年1月15日消印	一、「新協」「文芸」「人間」「文学界」・1、「新協」「文芸」「人間」等文芸雑誌、「小国民世界」「銀河」等少年雑誌 2、横光利一の「微笑」・3、最後の作品であるということ・往復はがき(返信)No.5
1424	1313	葉書	舟橋聖一から三田文学編集部あて	昭和23年1月22日消印	一、贈って貰ふ雑誌は喜んで読んでいます。・1、丹羽の「理想の良人」林房雄「文芸日評」等・往復はがき(往信)No.8
1425	1324	封書	堀口大学から三田文学編集部あて	昭和23年6月15日記	拝呈。「三田文学」毎号御寄贈いただき有難うございます。・「三田文学」寄贈のお礼・「ランボオ詩二篇」を翻訳したものを同封。・200字詰原稿用紙
1426	1325	(封書)	前川範隆から三田文学編集部あて	年未詳5月15日記	冠省 御照会に預りました「地方雑誌の動向」・「地方雑誌の動向」の回答を送付しました。・郷友社用箋、封筒無し
1427	1329	(封書)	前嶋信次から丸岡明あて	年未詳4月20日記	先日は失礼致しました。・作品を同封しました・封筒無し
1428	1314	葉書	間宮茂輔から三田文学編集部あて	昭和22年12月3日記	諾・諾の一字のみ。原稿依頼承諾か？
1429	1315	葉書	丸山薫から「三田文学」編集部あて	昭和24年7月10日記	三田文学十一月号詩稿承知しました。・三田文学十一月号詩稿承知・新居への住所変更願ひ
1430	1432	空封筒	丸山薫から三田文学編集部あて	昭和24年8月16日記	
1431	1316	葉書	三宅周太郎から三田文学編集部あて	昭和23年1月19日記	何分京都残留生活で芝誌は見る事出来ず、・1、「大晏寺堤」の治郎左衛門 2、大谷隆三・往復はがき(返信)No.7
1432	1330	(封書)	三宅周太郎から丸岡明あて	年月日未詳7月8日記	拝啓 毎度雑誌有難・水木の死には驚いた・盗難にあった・和敬書店の原稿用紙、封筒無し
1433	1433	空封筒	三宅周太郎から三田文学編集部あて	昭和23年7月8日消印	書留
1434	1317	葉書	山本信雄から丸岡明あて	昭和22年10月3日記	冠省 色々の御事情で「三田文学」の発刊も遅れ勝ちのことと・「詩人祭」開催案内
1435	1318	葉書	山本杜夫から能楽書林あて	昭和23年2月6日記	拝復 三日から此方へ遊びに来てみます。・三田文学13号の稿料拝受
1436	1326	封書	湯原豁から三田文学編集部あて	昭和23年4月22日消印	「島」(22年10月15日)「飛躍にずりおちて」(22年2月28日)の詩稿2篇同封・原稿用紙には湯原愚禎と記してある・手製400字詰原稿用紙
1437	1434	空封筒	湯原愚禎から三田文学編集部あて	昭和23年7月28日消印	
1438	1320	葉書	若尾徳平から三田文学編集部あて	昭和23年1月15日消印	一、「肉体の門」その奔放な演出に・1、「肉体の門」「失はれた週末」2、木下恵介、三船敏郎・往復はがき(返信)No.5
1439	1319	葉書	和木清三郎から三田文学編集室あて	昭和22年11月26日消印	随筆執筆御送附の??にいたすべく候・随筆送付
1440	1321	葉書	氏名未詳から三田文学編集部あて	昭和23年1月12日消印	一、特別どの雑誌を愛読してゐるといふことはありません。・1、「新潮」「文芸」「人写」などの雑誌 2、川崎長左郎の「別れた女」、土居寛之「フランスと日本の私小説」3、2を選んだ理由・往復はがき(返信)No.2
1441	1331	(封書)	文江から周作あて	年月日未詳	お手紙をありがたう存じました。御手紙を拝見して居りましたら・ラブレター?・封筒無し

# 佐々木基一資料

資料番号	資料名	年月日	注 記
1	草稿	年月日未詳	現実》、現実さえ描かれていれば、それでもって、・芸術論 ・裏に書き抜きと思われるページ数を振った英文あり ・400字詰原稿用紙10行
2	解説(岩波文庫「小説集 夏の花」)原稿	年月日未詳(1988年6月初版発行)	原民喜は一九五一年(昭和二六年)三月十三日の夜、当事国電と呼ばれていた ・各頁の左下に岩波のゴム印が押され、校正されている。 ・資料番号3に続く
3	「夏の花」(岩波文庫「小説集 夏の花」)解説原稿	年月日未詳(1988年6月初版発行)	でしょうか、それともまだ適切な題があればそちらでつけて下さい。」 ・9ページから17ページまで。先頭ページ欄外に「追込」とあり。 ・各頁の左下に岩波のゴム印が押され、校正されている ・資料番号2の続き
4	活動写真時代への郷愁(「新潮」1991年3月号)原稿	(1991年)	安岡章太郎氏の近著『活動小屋のある風景』(岩波書店)を読んだ。とにかく懐かしい読物である。 ・安岡章太郎氏の「活動小屋のある風景」の批評 資料番号19の原稿
5	花の幻 原民喜をしのぶ シナリオ	昭和32年8月6日	ラジオ中国作成 第六回民放祭番組コンクール参加作品 教養番組部門 原爆の日特集番組 橋本立也構成 孔版刷
6	雲の裂け目 原民喜の作品によるファンタジイ シナリオ	昭和34年4月24日	NHK作成 テレビ劇場 佐々木基一作 孔版刷 中に書き込み多々あり 85~87ページはダブリあり
7	写真	昭和54年4月9日	佐々木基一氏本人の上半身の写真 群像新人賞選考会で撮影したもの キャビネ版 白黒
8	写真	昭和39年4月	佐々木基一と他5人の集合写真 「近代文学」終刊号記念撮影 杉山吉良撮影 キャビネ 横 白黒
9	『芸術論ノート1』佐々木基一著 オリジン出版センター	1978年11月13日	第1部 現代芸術の課題 第2部 映像文化について 第3部 文学運動について
10	『芸術論ノート2』佐々木基一著 オリジン出版センター	1979年1月13日	第1部 芸術の発生 第2部 現代芸術はどうなるか 第3部 美術随想
11	近代文学同人ニュース No.3	年未詳 10月	P.4 佐々木基一氏、暫く軽井沢に英気をやしなつたが ・「キノコ」を研究、大長編を構想中
12	近代文学同人ニュース No.5	1948年12月15日	P.1 原民喜氏の小説集「夏の花」が能楽書林 “ざくろ文庫” として近刊の予定です。
13	記録芸術の会月報 No.3	1957年10月5日	P.4 11月公開討論会(予定)、題目「再びドキュメンタリーについて」報告者佐々木基一
14	記録芸術の会 月報1月号 No.6	年未詳	P.6 佐々木基一 ・運営委員会出席メンバー ・消息、監獄を舞台とした約束のテレビドラマを書かないので、スポンサーにより熱海の温泉旅館に監禁
15	記録芸術の会 月報5月号 No.7	年未詳	P.3 佐々木基一著「心理主義は感傷である」ブレヒトの「ガリレオ・ガリレイ」は、大変面白かった。

16	記録芸術の会 月報 6月号 No.8	年未詳	P.1 開高建「諸家の文体を酔考する」の中で 佐々木基一 白のブルゴーニュ。ぶどう酒である。あたりはやわらかく
17	記録芸術の会 会報 No.9	昭和 34 年 3 月	P.5 [現代芸術] 第一号についてのアンケートの中で ・佐々木基一の返答掲載 今後の仕事のプラン—革命と芸術の問題についての評論 テレビ・ドラマと長編小説を書きたい
18	生活記録と文学	1956 年	「新日本文学」1956 年 2 月号の切り抜き、P.117~140 まで 生活記録と文学—戦後十年・日本文学の歩み(六)—と題して、中島健蔵(司会)、国分一太郎、壺井繁治、本多秋五、佐々木基一、岡本潤、西野辰吉の出席者の対談
19	活動写真時代への郷愁	1991 年	「新潮」1991 年 3 月号の切り抜き P.227~230 まで ・安岡正太郎の「活動小屋のある風景」の批評 ・資料番号 4 の活字化されたもの
20	メモ	年月日未詳	文庫「夏の花」山本健吉ら 12 名の名前、メモ書き ・ダヴィッド社 200 字詰原稿用紙
21	原民喜関係資料リスト	昭和 51 年 12 月 1 日	佐々木基一が日本近代文学館あてに寄贈した原民喜関係の資料リスト ・薄葉紙 9 枚表紙つき ・複写記入 ・日本近代文学館礼状添付
22	原民喜資料目録	昭和 58 年 3 月 3 日	資料番号 21 で佐々木基一が日本近代文学館に寄贈した原民喜の作品、資料の製本された目録
23	動産総合保険証券	昭和 56 年 4 月 2 日	新宿の紀伊国屋ビルで行われた原民喜の遺品展示に対する保険証券 ・契約者大久保房雄
24	銅版画	年月日未詳	「suzuki(鈴木信太郎? 資料番号 31 参照)」のサイン 28.2 cm × 24.3 cm
25	ペン画	年月日未詳	洋館スケッチ(三田文学表紙) ・A4 画用紙 ・資料番号 26 と同じ構図
26	ペン画	年月日未詳	洋館スケッチ(三田文学表紙) ・A4 画用紙 ・資料番号 25 と同じ構図
27	銅版画 1	1950 年	「H.Tesigawara(勅使河原宏? 資料番号 31 参照)」のサイン 5 色刷り 台紙付き 27 cm × 38.6 cm 絵のみ 22.6 cm × 33 cm
28	銅版画 2	年月日未詳	4 色刷り 台紙付き 38.4 cm × 27 cm 絵のみ 27.2 cm × 18.8 cm
29	銅版画 3	年月日未詳	「KOB(安部公房? 資料番号 31 参照)」のサイン 6 色刷り 台紙付き 27 cm × 38.6 cm 絵のみ 19 cm × 27.2 cm
30	銅版画 4	年月日未詳	「S.ohno(大野斉治? 資料番号 31 参照)」のサイン 5 色刷り 台紙付き 27 cm × 38.4 cm 絵のみ 28.3 cm × 27 cm
31	「世紀画集1」表紙	1950 年 12 月	目次 1~5 B4 ゼラ紙 孔版刷
32	図書新聞	昭和 26 年 12 月 3 日	P.2 佐々木基一「閉ざされた扉をあける」 ・堀田善衛著「広場の孤独」の批評 ・同二部
33	社会タイムス	昭和 27 年 7 月 11 日	P.4 佐々木基一「大いに高まった社会関心」 ・上半期の文壇について ・読者の求める内容の変化
34	社会タイムス	昭和 27 年 9 月 24 日	P.4 佐々木基一によるジャック・バルデン「中国は世界をゆるがす」の書評 ・中央下部破損有

35	日本読書新聞	昭和27年10月6日	P.3 佐々木基一「民衆のエネルギーへの信頼」・趙樹理著「李有才板話」の書評
36	時事新報	昭和28年2月5日	P.6 佐々木基一著「実証と取組む勇氣」総合雑誌評「世界」の特集「松川事件をめぐる」と「中央公論」の企画「続々・貧しさからの開放」の2つについて
37	図書新聞	昭和28年7月4日	P.3 佐々木基一「対照的な追及の方法」両書を総合したところに真の魯迅像が浮ぶだろう・竹内好の「魯迅入門」と馮雪峰著、鹿地亘・呉七郎共訳の「魯迅回想」を取り上げている、批評
38	日本読書新聞	昭和28年8月24日	P.3 佐々木基一「重なり合った苦悶」感想に耽らぬ自己形成の記録・遠藤周作著「フランスの大学生」の批評、感想
39	日本読書新聞	昭和28年8月31日	P.3 寺田透「信条表明と美的想像」交錯するヴァレリーとルカーチ・佐々木基一著「リアリズムの探求」の書評
40	東京新聞(夕刊)	昭和32年7月10日	P.4 読書欄佐々木基一「無から有を生み出す感動」A・ドヴィニ著・「死刑囚は逃げた」を読んで批評、感想・映画「抵抗」の原作
41	アカハタ	1958年8月2日	P.3 「折ヅルでつくった各国の旗おくる」・広島の子供たちが第4回世界大会、日本大会にメッセージと折鶴でつくった各国の旗を送ることを決め、平和自転車リレーに託した P.4 ラジオテレビ欄 佐々木基一「パンフレット・ドラマについて」・テレビドラマに就いての意見、エッセイ
42	東京大学新聞	昭和33年8月6日	P.4 佐々木基一「主題は芸術の自立性」・国民文学論争に就いて
43	週刊読書人	昭和37年7月30日	P.1 佐々木基一「現代文化の“事実”と“真実”」・アクチュアリティの問題についての意見・平野譲と奥野健男両氏の意見を踏まえて
44	北海タイムス	昭和37年8月5日	P.2 論説 坂西志保『平和への悲願 原爆記念日にあたって』 P.14(10ページめ)読書欄 佐々木基一「“人間復権”を訴える」・坂口安吾の「墜落論」について、敗戦直後の人心つく、批評
45	週刊読書人	昭和37年8月20日	P.4(2ページめ) 佐々木基一著「木下順二の時事的ドラマ」木下順二作品集Ⅳ「口笛が冬の空に」について木下順二の作風に触れる、批評
46	東京新聞(夕刊)	昭和38年3月26日	P.8 佐々木基一「私小説の問題点」職業作家の生活の真相にふれよ・「群像」の「私小説作家の精神」という座談会、他雑誌の私小説を挙げ、私小説のあり方を問い質す・評論
47	婦人文化新聞	昭和38年10月10日	P.2 佐々木基一「おすすめしたい一冊」・ある女たちの恋・チャーホフの「犬を連れて奥さん」の紹介
48	神戸新聞	昭和39年1月9日	P.9(4ページめ) 文化欄 佐々木基一「文芸時評」・阿部公房の「他人の顔」、川端康成の「片腕」を主に上げ批評。それ以外に大江健三「空の怪物アグイー」、石川達三「挫折」、伊東整の「凡人の晩年」をあげている・P.9 左側破損有

49	京都新聞	昭和 39 年 1 月 29 日	P.7 佐々木基一「二月号の文芸時評」・大田葉子の死を悼む、遺稿「世に迷う」について ・大江健三郎「ブラジル風のポルトガル語」、石原新太郎「行為と死」、高橋由美子「私の心はパパの物」、三島由紀夫「喜びの琴」を取り上げ批評 ・大江の帰還と充実、無残な石原、高橋の荒廃
50	東京新聞(夕刊)	昭和 39 年 2 月 12 日	P.8 読書欄 佐々木基一「ずしりとふしぎな安定感」 ・沙多稲子著「溪流」の批評、家庭生活と党内問題を並行して描く
51	信濃毎日新聞	昭和 39 年 2 月 27 日	P.5(1 ページめ) 読書欄 佐々木基一「天才的芸術家の評伝」 ・山田和夫著「エイゼンシュテイン」の批評、ソ連での再評価機運に乗って
52	京都新聞	昭和 39 年 3 月 29 日	P.11(1 ページめ) 文化欄 佐々木基一「四月号の文芸雑誌から」多すぎる画一的な小説、せばまってきた題材と主題 ・「新潮」4 月号より山川方夫「愛のごとく」、長谷川修「僕の中のヨセフ」、柴田翔「されどわれらが日々」、小島信夫「街」を取り上げ、批評
53	中央大学新聞	昭和 39 年 4 月 16 日	P.4 佐々木基一「文化と自由(1)物質的自由との矛盾」 ・文学と自由の関係について、エッセイ
54	毎日新聞(夕刊)	昭和 39 年 4 月 24 日	P.3 中野好夫「今月の論調 上」 ・後味の悪い読み物、ケネディ暗殺・フルシチョフの謎・趙安博氏のもの
55	中央大学新聞	昭和 39 年 4 月 26 日	P.6 佐々木基一「文学と自由(2)遊びにおける自由 その中にこそ本質が」 ・文学における自由とは何か、時間からの解放、評論、エッセイ
56	愛媛新聞(夕刊)	昭和 39 年 4 月 29 日	P.2 佐々木基一「小さく固まった新人 5 月号の文芸雑誌」 ・中野重治「声帯模写」、小島信夫の「返照」、井上光晴「スターリン」を取り上げ批評 ・新人賞作品、長谷川敬「青の儀式」や五代夏夫「どくだみ」などを取り上げている ・資料番号 57 の京都新聞記事と同じ
57	京都新聞	昭和 39 年 4 月 30 日	P.4 佐々木基一「文芸時評 今月の雑誌から」 ・物足りない安定感、新人も小さく固まる、評論 ・資料番号 56 の愛媛新聞記事と同じ
58	中央大学新聞	昭和 39 年 5 月 6 日	P.4 佐々木基一「文学と自由(3)形式と内容 形式の社会的機能」 ・ソビエトの社会主義から自由を考える ・芸術・文学は内容ばかりでなく形式が重要視されるようになるだろう ・評論、エッセイ
59	中央大学新聞	昭和 39 年 5 月 16 日	P.4 佐々木基一「文学と自由(4)代用品文学 人類解放の問題」 ・生活苦など社会的不満から発生する文学、人間対人間など精神的不満から発生する文学 ・代用品文学について評論、エッセイ ・同四部
60	中央大学新聞	昭和 39 年 5 月 26 日	P.6 佐々木基一「文学と自由(5)政治と文学 文学を殺す権力主義」 ・政治と文学の関係 ・評論、エッセイ ・同二部
61	中央大学新聞	昭和 39 年 6 月 6 日	P.4 佐々木基一「文学と自由(6)ユートピアの必要 時代をこえた自由へ」 ・自由を得ようとする文学 ・評論、エッセイ

62	京都新聞	昭和 39 年 6 月 2 日	P.6(8 ページめ) 文化欄 佐々木基一「六月号の文芸雑誌から」・遺作に示す “二つの作風” 佐藤氏の死一時期を画す・佐藤春夫「愛猫知美の死」「玉を抱いて泣く」、庄野潤三「蒼天」、長谷川四郎「水先人」、花田清輝「無間の鐘」、有吉佐和子「助左衛門四代記」、開高健「五千人の失踪者」をとりあげ批評・資料番号 63 神戸新聞と同じ記事
63	神戸新聞	昭和 39 年 6 月 9 日	P.9 文化欄 佐々木基一「文芸時評」遺作に二つの作風 一時期画す佐藤氏の死・資料番号 62 の京都新聞の記事と同じ
64	中央大学新聞	昭和 39 年 6 月 26 日	P.4 佐々木基一「文学と自由(8) 自立性の新たな止揚 原始の生命を未来へ」・目的意識を失っている文学・獲得された芸術・文学の自立性をもう一度止揚することが重要・評論、エッセイ
65	中央大学新聞	昭和 39 年 8 月 26 日	P.2 高知聡「文学と自由 のどかなユートピア 暗い世界を眺望しよう」佐々木基一氏に反論する(上)・中央大学新聞に 8 回にわたって掲載された(資料番号 53、55、58～61、63)佐々木基一の「文学と自由」の論文に対する反論
66	中央大学新聞	昭和 39 年 9 月 6 日	P.2 大原光憲「原水禁運動の現状におもう 平和運動の組織論」・活動の分裂化、ヒロシマ不在の平和運動 P.4 高知聡「文学と自由 動的ユートピアの追及 外的把握をもった文学と自由」佐々木基一氏に反論する(下)・中央大学新聞に 8 回にわたって掲載された(資料番号 53、55、58～61、63)佐々木基一の「文学と自由」の論文に対する反論
67	中央大学新聞	昭和 39 年 9 月 16 日	P.6 「大江論文と佐々木論文のもつ意味『文学と自由』の一考案」・佐々木基一の論文「文学と自由」と大江健三郎の論文を踏まえて、栗田勇と室井庸一それぞれの見解・栗田勇ー共同体産物として把握、二元論と人間の尊厳・室井庸一ーサルトル独自の文学観、否定できぬ「政治と文学」
68	朝日新聞(夕刊)	昭和 39 年 9 月 28 日	P.1、P.10(1、3 ページめ) 三島由紀夫の小説「宴のあと」はプライバシー侵害だとする訴訟、東京地裁は原告の元外相有田八郎の訴えを認める判決を出した・赤ペンで囲みあり
69	毎日新聞(夕刊)	昭和 39 年 9 月 28 日	P.1、P.5(1、3 ページめ)・三島由紀夫の小説「宴の後」の訴訟、三島敗訴の記事・赤ペンで囲み有
70	東京新聞(夕刊)	昭和 39 年 9 月 28 日	P.1(1 ページめ)三島由紀夫の小説「宴のあと」の訴訟、判決 P.7(3 ページめ)三島由紀夫の判決に対する作家達の記事(関連記事) P.8 伊藤藤の三島由紀夫の判決に対しての見解(9 月 29 日東京新聞夕刊)・赤ペンで囲み有
71	東京新聞(夕刊)	昭和 39 年 10 月 1 日	・三島由紀夫のプライバシー問題の裁判の関連記事・「批判された私小説的風土、『プライバシー裁判』のあとにくるもの」・赤ペンで囲み有

72	毎日新聞(夕刊)	昭和 39 年 10 月 2 日	・三島由紀夫のプライバシー問題の裁判の関連記事 ・宮沢俊義の「『宴のあと』判決のあと—私事権の確立に寄与—」・赤ペンで囲み有
73	週刊読書人	昭和 39 年 10 月 5 日	山本健吉「“反俗”と“良識”の対立」・宴のあと判決とプライバシー問題 ・同二部
74	東京新聞(夕刊)	昭和 39 年 10 月 6 日	P.8 荒正人「これでプライバシーは守れるか 伊藤整氏の裁判傍聴記をよんで」・三島由紀夫のプライバシー問題の裁判の関連記事 ・赤ペンで囲み有
75	東京新聞(夕刊)	昭和 39 年 10 月 21 日	P.10 読書欄 佐々木基一「だれしも持つ欲望 スポーティーな思念のドラマ」・阿部公房の「他人の顔」批評 ・資料番号 76 と同じ原稿
76	東京新聞(夕刊)	昭和 39 年 10 月 21 日	P.10 読書欄 佐々木基一「だれしも持つ欲求 スポーティーな思念のドラマ」・阿部公房「他人の顔」の批評 ・資料番号 75 と同じ原稿
77	東京新聞(夕刊)	昭和 40 年 2 月 3 日	P.8 読書欄 佐々木基一「使命を自覚した姿 書かねばならぬテーマと取り組む」・「井上光晴作品集 第一巻」の批評
78	東京新聞(夕刊)	昭和 40 年 5 月 8 日	P.8 読書欄 佐々木基一「視野の広さが魅力 著者の豊かな将来を予告」・佐木隆三「ジャンケンボン協定」の批評
79	愛媛新聞(夕刊)	昭和 40 年 6 月 8 日	P.2 佐々木基一「革命を内面から批判 レオーノフ著『泥棒』」・レオーノフ著原卓也訳の「泥棒」の批評
80	東京新聞(夕刊)	昭和 40 年 7 月 21 日	P.8 読書欄 佐々木基一「意外性のおもしろさ 推理小説ふうの新スタイルの文学」・ゴロゾフスキー著西本昭治訳「ぼくは信じたい」の批評 ・大江健三郎の「ヒロシマ・ノート」を安岡章太郎が批評
81	東京新聞(夕刊)	昭和 40 年 9 月 15 日	P.8 読書欄 佐々木基一「正統的で批評の手本 珍しい時評も掘り出される」・広津和郎「初期文芸評論」の批評
82	東京新聞(夕刊)	昭和 40 年 10 月 19 日	P.8(4ページめ) 文化欄 佐々木基一「雄大な構想と細やかな感受性 ショーロホフ小感」・ショーロホフについて、「静かなドン」「開かれた処女地」「人間の運命」といった作品を取り上げている
83	中国新聞	昭和 40 年 11 月 19 日	P.10 読書欄 「『原民喜全集』の完結をめぐって」・佐々木基一と詩人長田弘の対談 ・原爆と離し理解、思いがけぬユーモアも ・原民喜全集全二巻 芳賀書店版
84	中国新聞(切り抜き)	1959 年	昭和 34 年 10 月 6 日から昭和 34 年 12 月 3 日までの間 45 回にわたって中国新聞に掲載された「物語 戦後・広島文学史」1～45 ・26 原民喜の死と「天邪鬼」・30 原爆モノのはんらんの中に原民喜の「夏の花」のこと ・37 原民喜の詩碑建立 ・中国新聞社の封筒入り
85	(メモ)	(1981 年)	1981 年 7 月 15 日から開催された原民喜展実行経費内訳メモ ・小学館用箋使用
86	「原民喜展」にかんしてのお願い	昭和 56 年 7 月 7 日	広島平和記念館にて開催される原民喜展への実行委員会参加依頼文
87	「没後 30 周年記念 原民喜展」パンフレット	昭和 56 年 7 月	広島平和記念館にて開催された原民喜展の入場者配布用資料

88	花幻—原民喜展記念誌—	1981年10月	1981年7月15日から開催された原民喜展の報告誌・経過報告、展示品目録、関連記事、
89	好村富士彦から佐々木基一あて封書	昭和56年7月11日	・広島での原民喜展の経過報告・中国新聞夕刊1981年10月3日切り抜きと、7月11日の切り抜きコピー(資料番号90)を同封
90	新聞切り抜き	1981年	中国新聞1981年7月11日コピー「15日から広島で原民喜展」中国新聞1981年10月3日夕刊好村富士彦「原民喜展を終えて」・資料番号89の封書に同封されていたもの
91	(メモ)	(1991年)	新潮編集部から佐々木基一あての原稿返送通知・「活動写真時代への郷愁」原稿(資料番号4)と同ゲラ(資料番号19)同封・1947年頃佐保市で発行された新聞とおもわれる切り取ったもの有